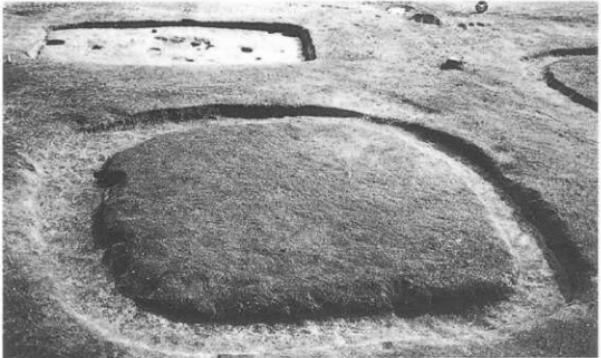


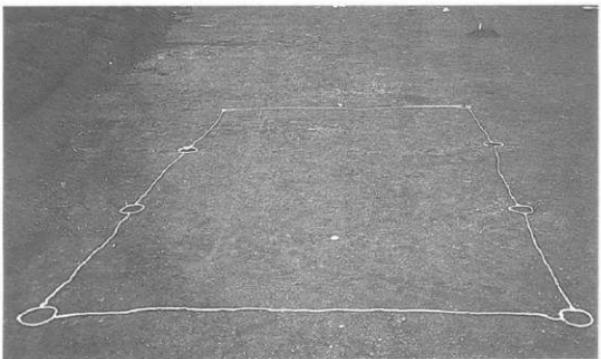
中大五郎第2 S L 3 完掘状况



中大五郎第2 S L 2 完掘状况



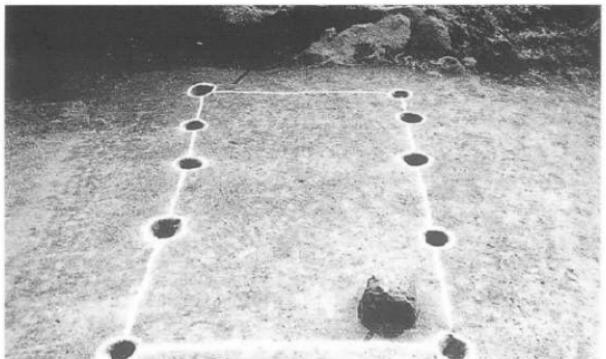
中大五郎第2 S L 1 完掘状况



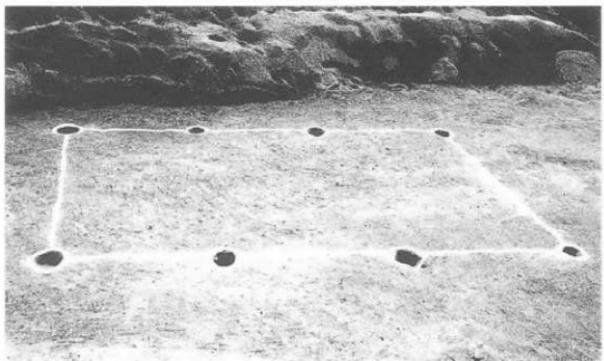
中大五郎第2 S B 1 完掘状况(1)



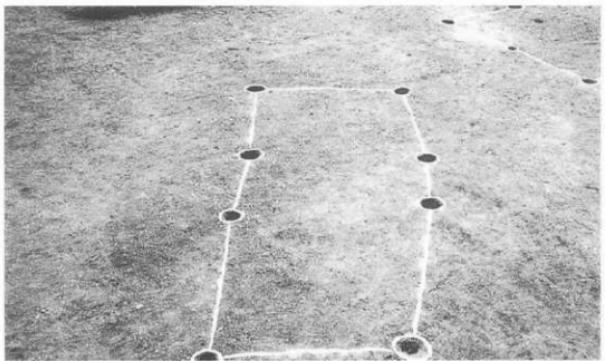
中大五郎第2 SB 1 完掘状況(2)



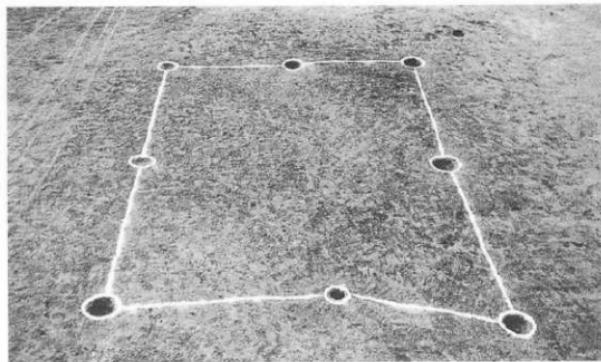
中大五郎第2 SB 2 完掘状況



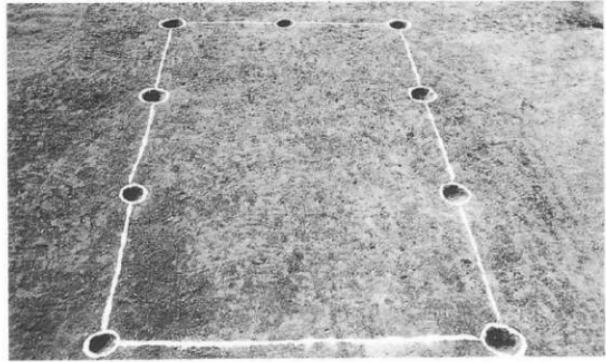
中大五郎第2 SB 3 完掘状況



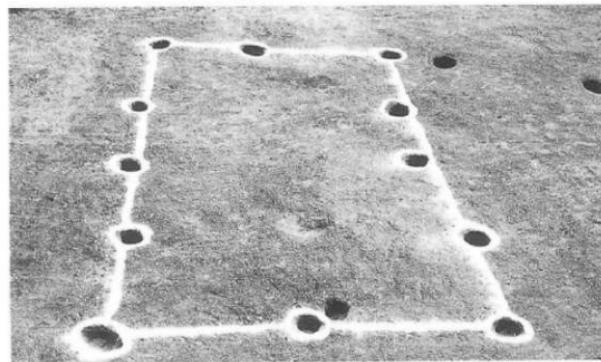
中大五郎第2 SB 4 完掘状況



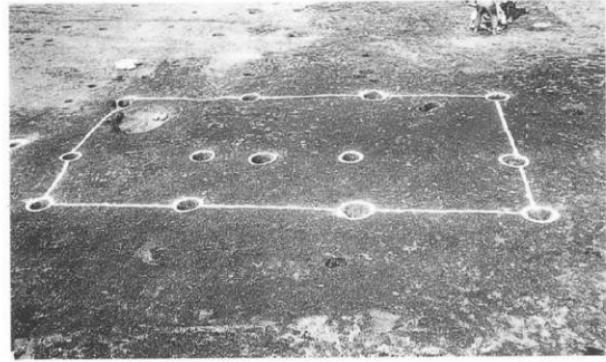
中大五郎第2 SB 5 完掘状况



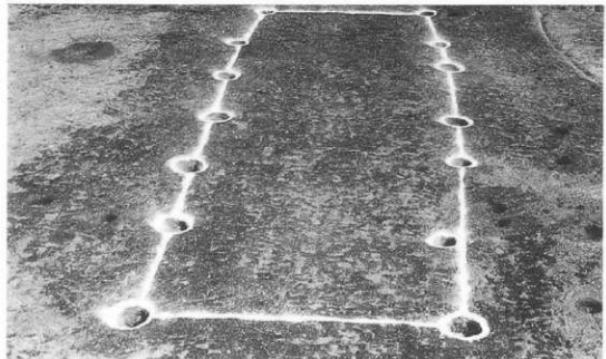
中大五郎第2 SB 6 完掘状况



中大五郎第2 SB 7 完掘状况



中大五郎第2 SB 8 完掘状况



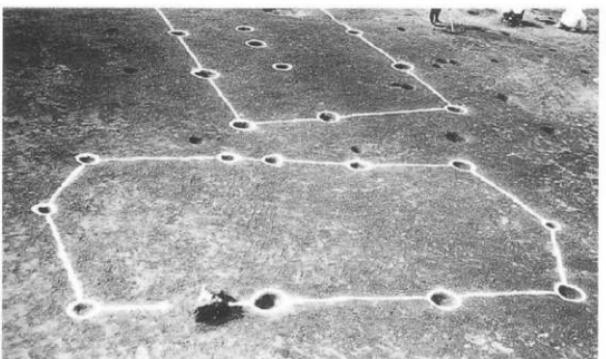
中大五郎第2 SB9完掘状况



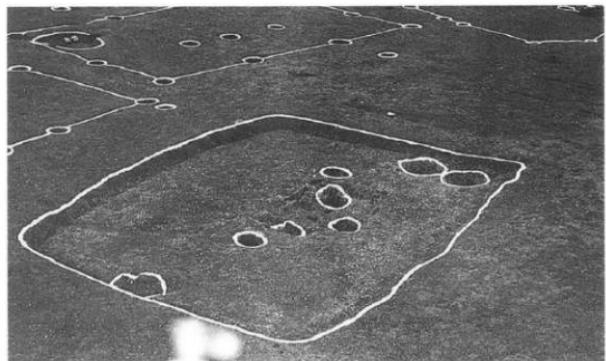
中大五郎第2 据立柱建物完掘状况(1)



中大五郎第2 据立柱建物完掘状况(2)



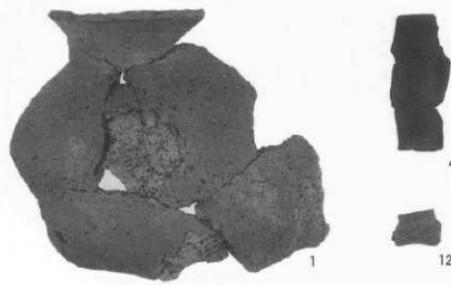
中大五郎第2 据立柱建物完掘状况(3)



中大五郎第2 完掘状況(1)



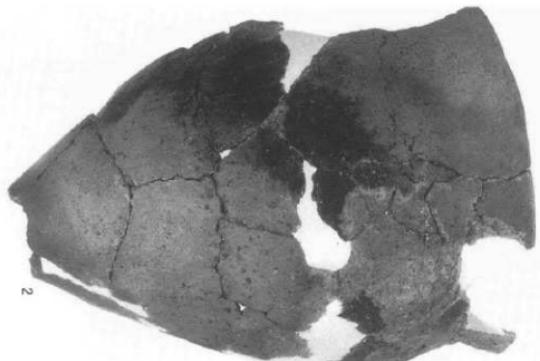
中大五郎第2 完掘状況(2)



中大五郎第2 SA 1 出土土器(1)

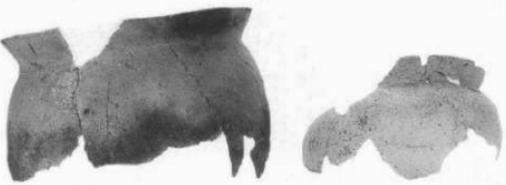


中大五郎第2 SA 1 出土土器(2)

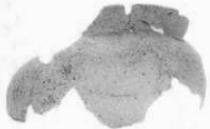


2

中大五郎第2 S A 1 出土土器(3)

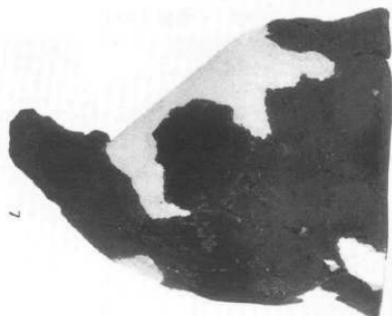


5



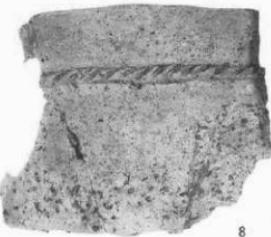
6

中大五郎第2 S A 1 出土土器(4)



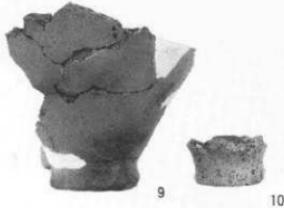
7

中大五郎第2 S A 1 出土土器(5)

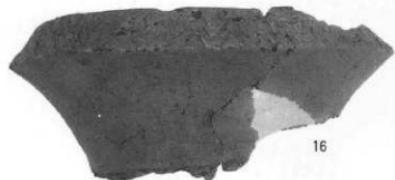


8

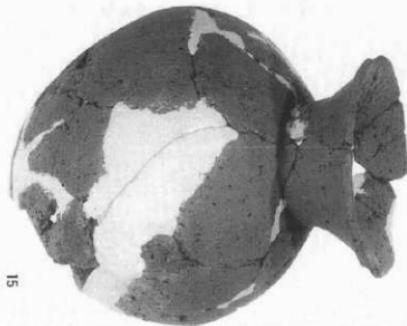
中大五郎第2 S A 1 出土土器(6)



中大五郎第2 S A 1 出土土器(7)



中大五郎第2 S A 1 出土土器(9)



中大五郎第2 S A 1 出土土器(8)



中大五郎第2 S A 1 出土土器(10)



19

中大五郎第2 S A 1 出土土器(11)



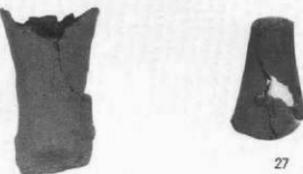
24

中大五郎第2 S A 1 出土土器(12)



26

中大五郎第2 S A 1 出土土器(12)



25

27

中大五郎第2 S A 1 出土土器(14)



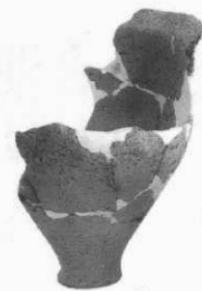
中大五郎第2 S A 1 出土土器(15)



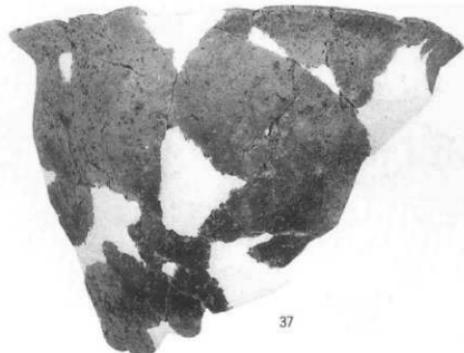
中大五郎第2 S A 1 出土土器(17)



中大五郎第2 S A 1 出土土器(16)



中大五郎第2 S A 2 出土土器(1)



37

中大五郎第2 S A 2 出土土器(2)



38

中大五郎第2 S A 2 出土土器(3)



40

41

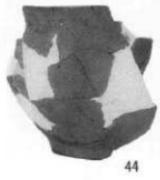
47

中大五郎第2 S A 2 出土土器(4)

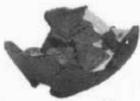


43

中大五郎第2 S A 2 出土土器(5)



44



49

中大五郎第2 S A 2・S A 3出土土器

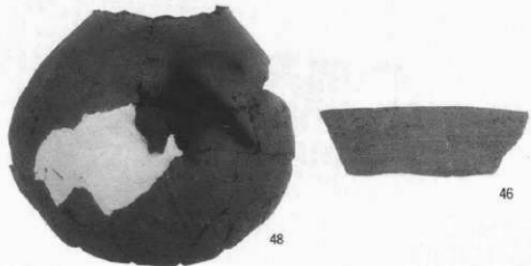


50



67

中大五郎第2 S A 3・S A 5出土土器



46

中大五郎第2 S A 3出土土器



59



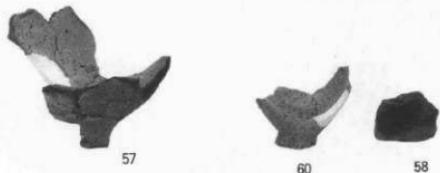
51

52

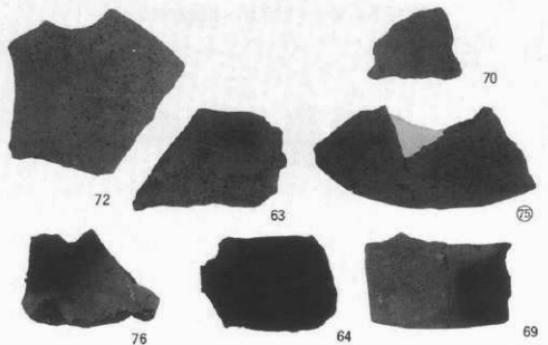
62

53

中大五郎第2 S A 3・S A 4出土土器



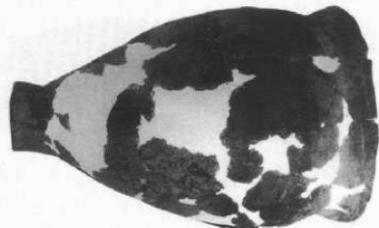
中大五郎第2 SA 4 出土土器



中大五郎第2 SA 4・SA 5 出土土器

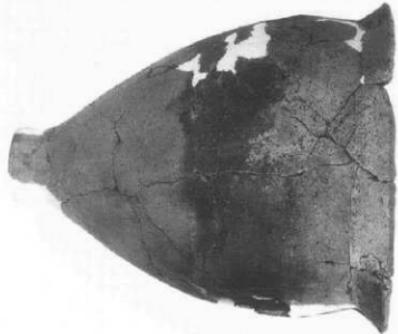


中大五郎第2 SL 1 出土土器(1)



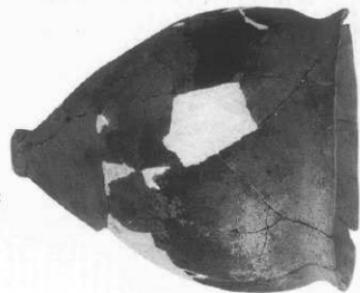
中大五郎第2 SL 1 出土土器(2)

85



中大五郎第2 S L 1 出土土器(5)

81



中大五郎第2 S L 1 出土土器(3)

87



中大五郎第2 S L 1 出土土器(6)

84



中大五郎第2 S L 1 出土土器(4)



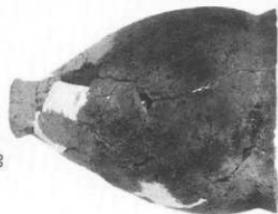
83

中大五郎第2 S L 1 出土土器(7)



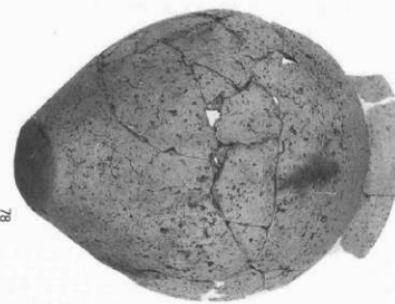
88

中大五郎第2 S L 1 出土土器(8)



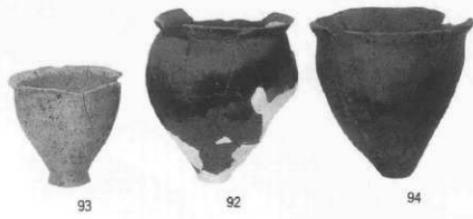
90

中大五郎第2 S L 1 出土土器(9)

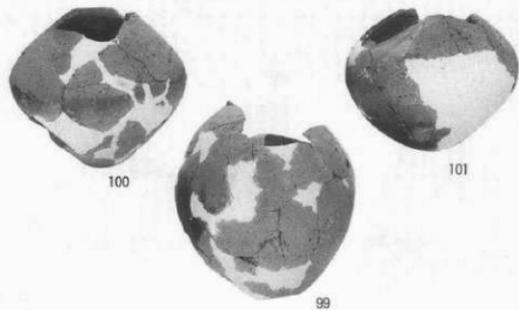


78

中大五郎第2 S L 1 出土土器(10)



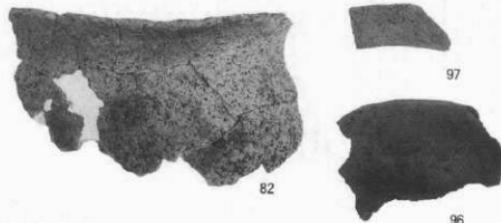
中大五郎第2 S L 1 出土土器(11)



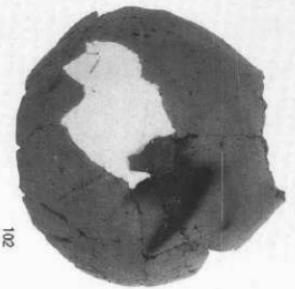
中大五郎第2 S L 1 出土土器(12)



中大五郎第2 S L 1 出土土器(13)



中大五郎第2 S L 1 出土土器(14)



102

中大五郎第2 SL1出土土器(15)



98

中大五郎第2 SL1出土土器(16)



104



106

105

中大五郎第2 SL1出土土器(17)

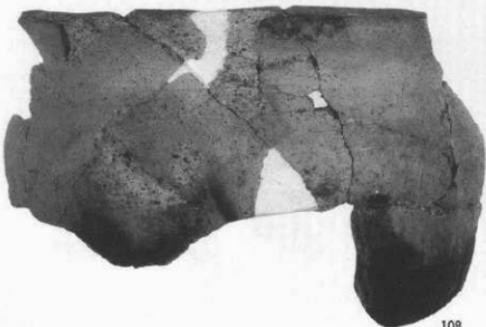


107

109

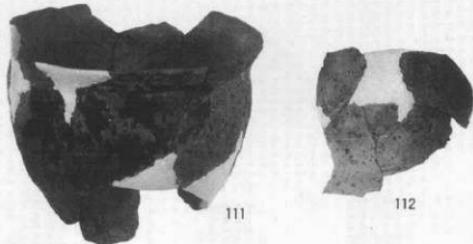
110

中大五郎第2 SL1出土土器(18)



108

中大五郎第2 SL 1 出土土器(19)



111



112

中大五郎第2 SL 2 出土土器(1)



113



114

中大五郎第2 SL 2 出土土器(2)

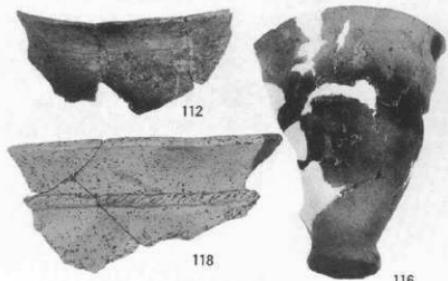


116

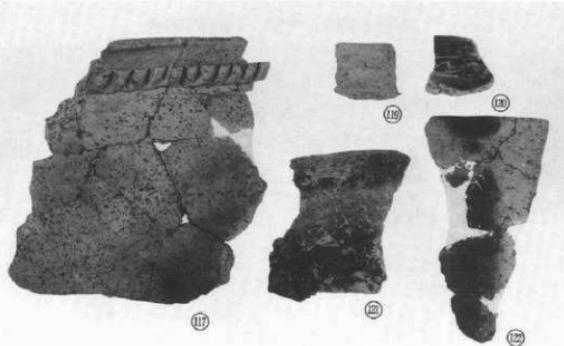


⑤

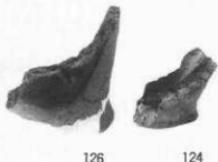
中大五郎第2 SL 2 出土土器(3)



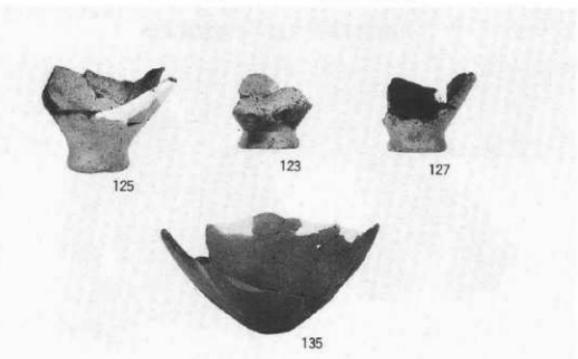
中大五郎第2 S L 2 出土土器(4)



中大五郎第2 S L 2 出土土器(5)



中大五郎第2 S L 2 出土土器(6)



中大五郎第2 S L 2 出土土器(7)



129



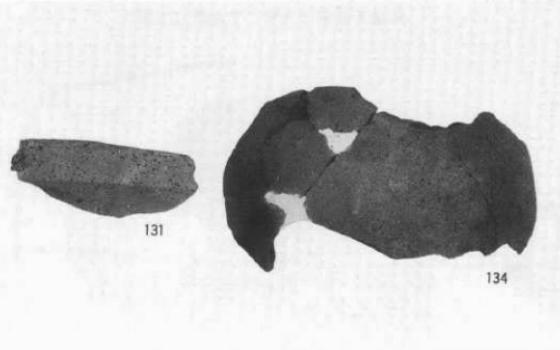
133

中大五郎第2 S L 2 出土土器(8)

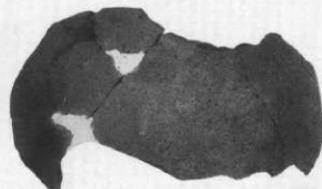


132

中大五郎第2 S L 2 出土土器(10)

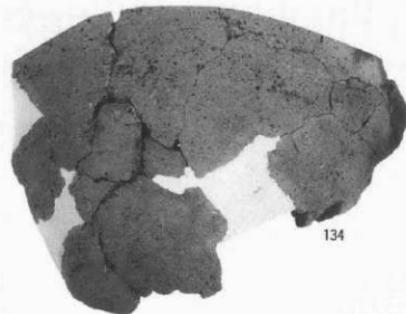


131



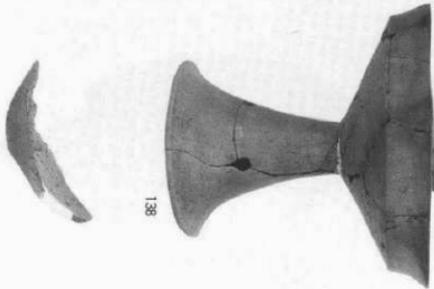
134

中大五郎第2 S L 2 出土土器(9)



134

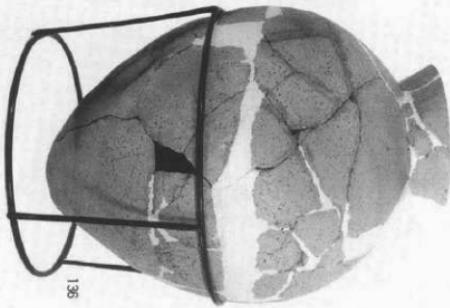
中大五郎第2 S L 2 出土土器(11)



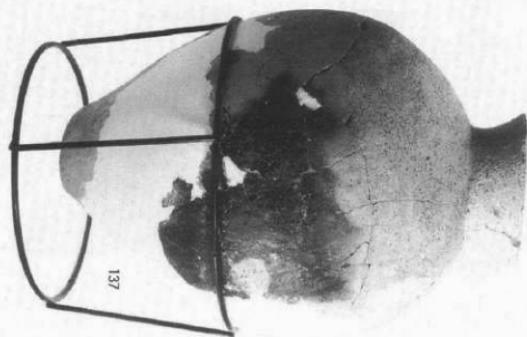
中大五郎第2 S L 2・SB 8出土土器



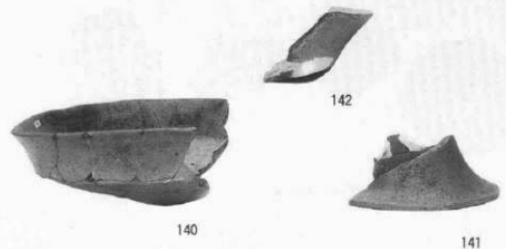
中大五郎第2 S L 2出土土器[13]



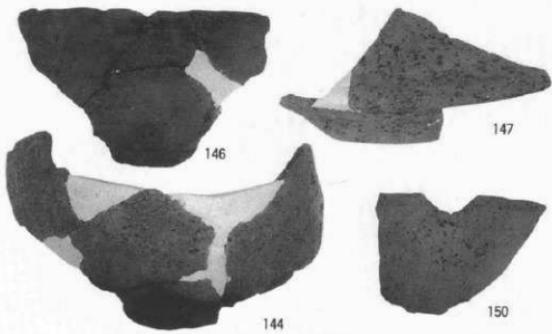
中大五郎第2 S L 2出土土器[12]



中大五郎第2 S L 2出土土器[14]



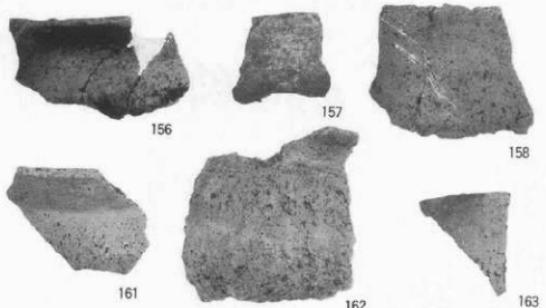
中大五郎第2 S L 2 出土土器(15)



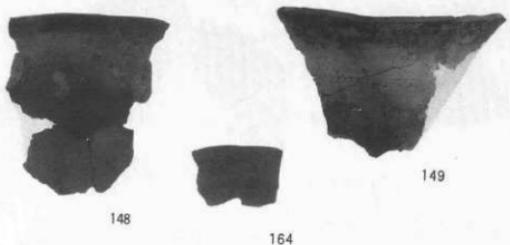
中大五郎第2 S L 2 · S L 3 出土土器



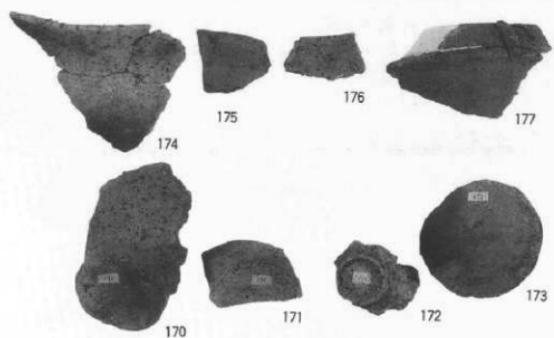
中大五郎第2 S L 2 出土土器(16)



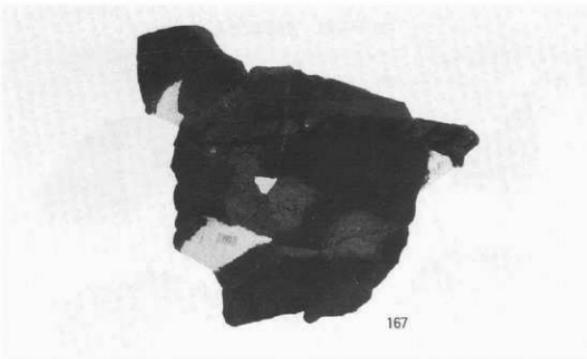
中大五郎第2 出土土器(1)



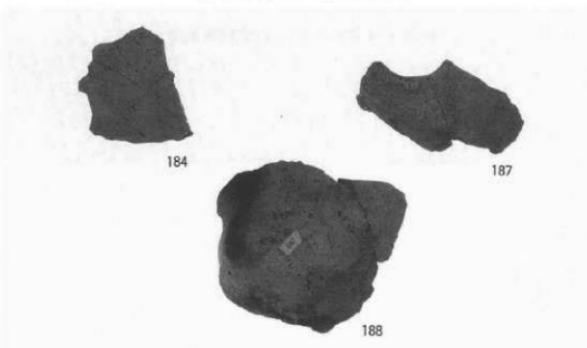
中大五郎第2 出土土器(2)



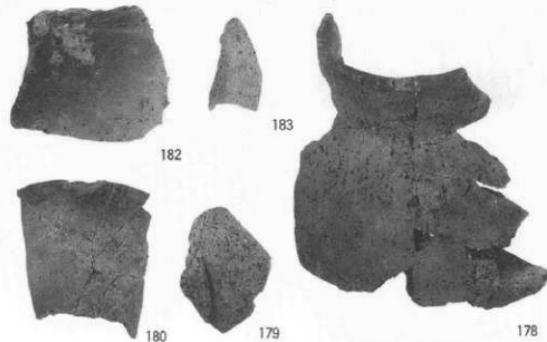
中大五郎第2 出土土器(4)



中大五郎第2 出土土器(3)



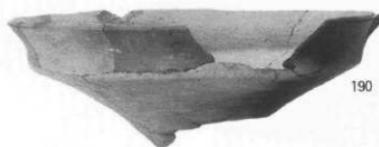
中大五郎第2 出土土器(5)



中大五郎第2 出土土器(6)



中大五郎第2 出土土器(7)



中大五郎第2 出土土器(8)



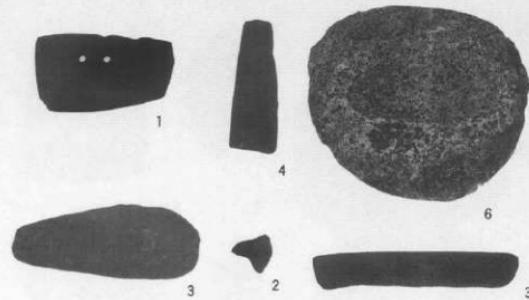
中大五郎第2 出土土器(9)



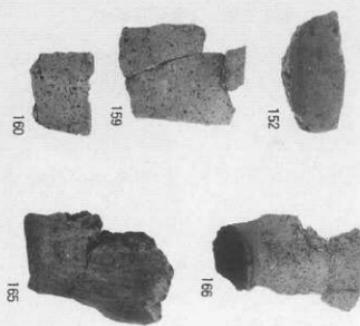
中大五郎第2 出土土器(10)



中大五郎第2 出土土器(11)



中大五郎第2 出土石器



中大五郎第2 出土土器(12)

MOTOIKE  
本 池 遺 跡

## 第4章 本池遺跡の調査

### 第1節 遺跡の立地と環境

本池遺跡は、都城市丸谷町大字上大五郎字本池に所在する。東流する丸谷川の右岸、標高約142mの低位段丘線に立地する。平成4年度の発掘調査時には大字から「上大五郎遺跡」と称したが、平成5年度に隣接地を発掘調査する際に小字の確認を行ったところ、字境により4年度調査地と5年度調査地が区分され、前者が「本池」、後者が「上大五郎」であることが判明した。遺構の分布状況や主体となる時期の差から、別個の遺跡として取り扱うことが混乱を避ける意味でも望ましいと判断されたため、それぞれを「本池遺跡」「上大五郎遺跡」として区分することとなった。なお、平成5年度調査の「上大五郎遺跡」については、平成7年3月に本報告が刊行されている。

調査区は二カ所に分かれ、A区=8,000m<sup>2</sup>、B区=1,000m<sup>2</sup>の合計9,000m<sup>2</sup>を対象とした。丸谷川により形成された段丘上には繩文時代以来多くの遺跡が存在しているが、いずれも段丘線に集中する傾向がある。前年度に調査された中大五郎第1・第2遺跡（今回報告）、平成2年度に河川改修事業に伴い県教育委員会が調査した下大五郎遺跡では、本池遺跡と同様に低位段丘線で弥生時代の集落跡が検出されている。

丸谷地区遺跡群を含む都城市北東部から山田町、高崎町付近は、伊東氏・烏津氏の断続的抗争を経て16世紀中頃に都城盆地を支配下におく北郷氏の本拠地とされる地域である。調査年度は前後するが、本池遺跡A区に隣接する上大五郎遺跡では弥生時代の堅穴住居跡とともに15世紀から16世紀にかけての館跡が検出された。15世紀後半に噴出した桜島起源の文明降下軽石との関係から、館の成立から解体までの様子を追うことができる。また、遺跡の現況は水田であるが、付近の低地部では河川改修に伴い調査された下川原遺跡、谷ノ口遺跡などで中世以降の水田跡も確認されており、当地域の土地利用の様子を伺い知ることができる。

### 第2節 調査の概要

調査は平成4年10月5日に着手した。A区では、現水田耕作土下に昭和30年代の耕地整理以前のものと思われる旧水田耕作土が見られた。重機による耕作土の除去作業の際に土層の堆積状況の確認を行ったが、耕作土下に堆積する黒色土が30~50cmと比較的厚く、また、黒色土中の遺構確認も困難であろうと予想された。そのため遺物の出土に注意を払いつつ、重機にて黒色土までを除去し、霧島御池火山灰（御池ボラ）の混入する層から精査を開始した。調査にあたり国土座標に合わせた10mグリッドを設定した。現況ではほぼ水平であった地形も、耕作土の除去により旧微地形が観察されるようになり、調査区南東部と西部に向かって若干低くなることが確認された。遺物の多くも微地形的に低くなる部分に集中して出土している。調査は御池ボラを含む黒褐色土を掘り下げ、御池ボラの比率が多くなる暗褐色土（第3図7層）上面で遺構確認を行った。

調査の結果、堅穴状遺構1基、掘建柱建物16棟、溝状遺構1条、土坑数基を検出した（第1

図)。出土遺物は、弥生土器、土師質土器(甌、壺、碗)、黒色土器、布痕土器、須恵器、陶磁器、土錘、鉄鎌、鉄製釣針等がある。土師質の壺、碗の中には墨書きが見られるものがあり注目された。検出された掘建柱建物のうち7棟(SB1~7)は、柱穴の径や深さの面で他の9棟と区分される。周辺から出土した遺物により平安時代の所産と推定された。

検出された遺構は個別に実測を行ったが、遺構分布図作成のため空中写真測量を行い、平成5年1月29日に現地調査を終了した。

B区は、A区耕作土除去作業終了後に引き続き調査に着手した。重機により耕作土と黒色土を除去し、御池ボラ混入黒褐色土から精査を開始した。御池ボラの比率が多くなる黒褐色土(第3図6~2層)上面で遺構確認を行った。

調査の結果、竪穴状遺構2基(1基は周溝を伴う)、土坑9基を検出した(第2図)。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器が見られた。検出遺構の実測・測量の後、空中写真撮影を行い調査を終了した。

### 第3節 層序

本池遺跡A・B区の層序の確認は、それぞれ調査区東、南壁で行った(第3図)。現在までの土地利用の差により耕作土の深さに違いが見られたものの、基本的には丸谷地区を通して同一層序であるとみてよい。耕作土下には軟質の黒色土が厚く堆積している。地表下約1.5~2mには御池ボラが2、3mの厚みで堆積しており、黒色土と御池ボラの間層は漸移的にボラの比率が高くなる黒褐色土である。縄文時代後期以降、弥生時代から古墳時代にかけての遺物包含層も見られるが、出土レベルにより各時期毎の遺物包含層、旧地表面を認識することは極めて困難である。ボラ混入黒褐色土中に当時の旧地表面が存在すると思われるが、遺構のプランの確認に時間を要するため、御池ボラが多量に含まれる漸移層にて遺構確認・掘り上げを行った。

### 第4節 本池A区の遺構と遺物

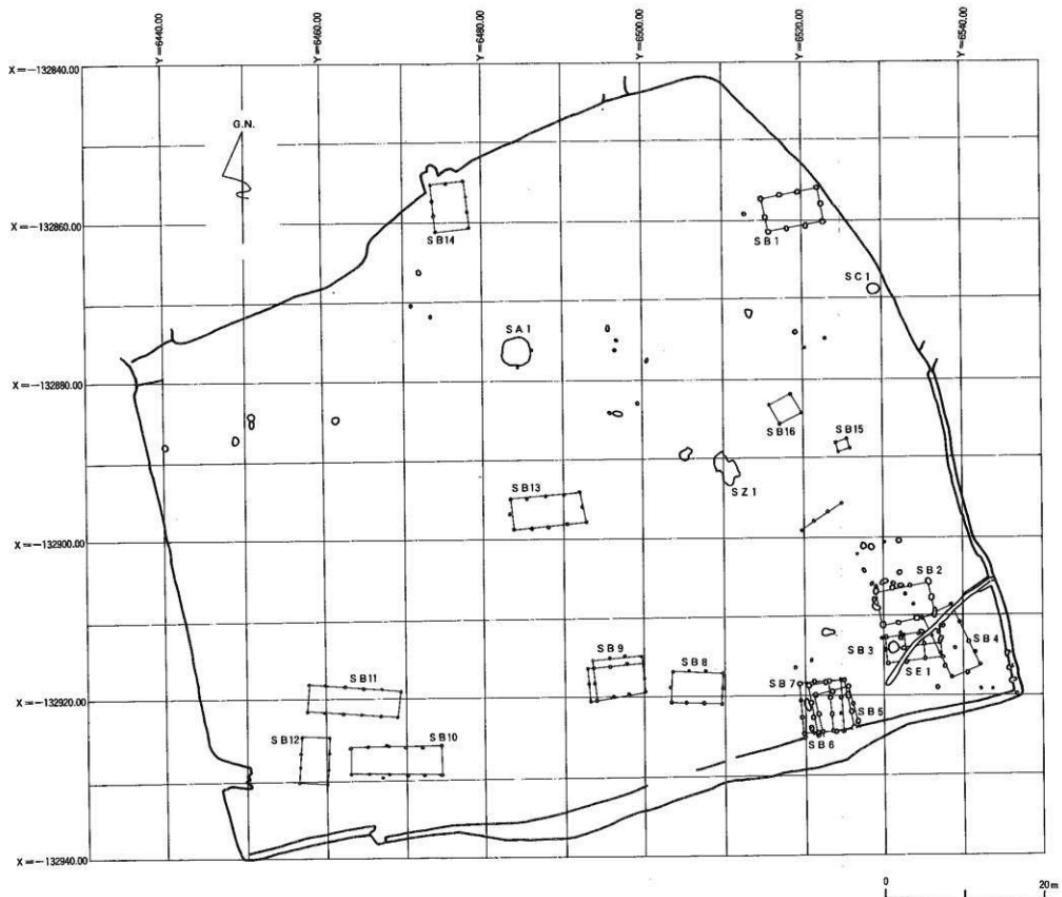
#### 1. 掘建柱建物(第1表)

掘建柱建物は16棟検出された。柱穴の規模により大まかに2分されるが、遺構の分布状況にも偏りが見られた。柱穴規模の大きなSB1~7はA区南東部に集中し、柱穴規模のやや劣るSB8~16は調査区中央から西寄りの範囲に散在している。

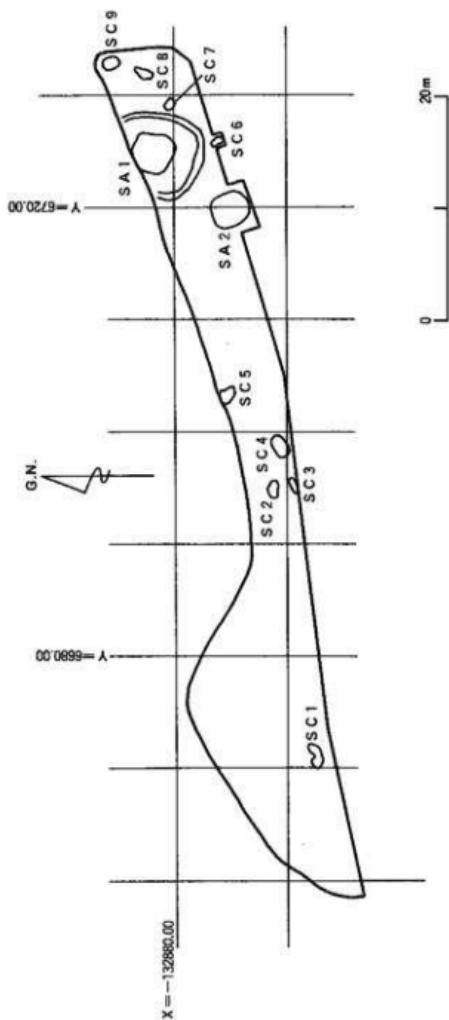
##### SB1・SB2(第4図)

SB1は、調査区北東隅に検出した。2×3間の東西棟である。桁行710cm、梁行425cmで床面積は約30.7m<sup>2</sup>である。焼土等の火廻は確認されていない。柱穴は、検出面での径60~70cm、深さが45~60cmと比較的の規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。(第6図、SB1-a、SB1-b)。柱根の平均径は20cmである。柱穴から若干の土師質土器片(壺)が出土している。小片のため図示はしていないが、平安時代中期に比定される。

SB2は、調査区南東隅に検出した。2×3間の東西棟である。桁行683cm、梁行428cmで床

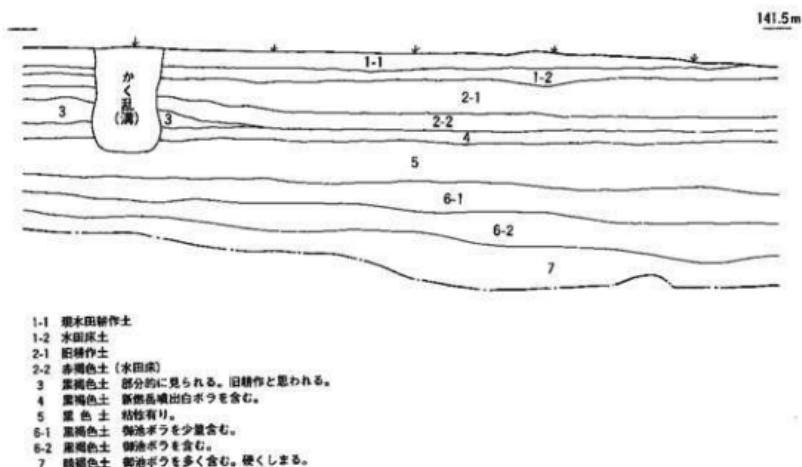


第1図 本池通路A区 造構分布図 ( $S=1/500$ )

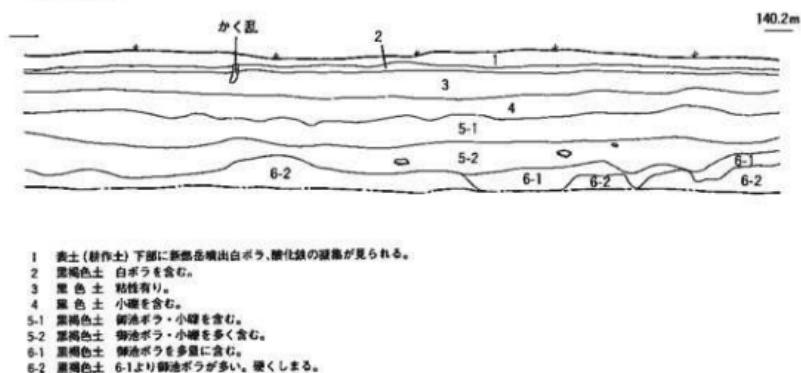


第2図 本池道路B区 通構分布図 ( $S=1/500$ )

### 本池遺跡A区



### 本池遺跡B区



0 1 m

第3図 本池遺跡A・B区 土層断面図 ( $S=1/40$ )

面積は約29.1m<sup>2</sup>である。焼土等の火処は確認されていない。柱穴は、検出面での径が60~80cm、深さが45~55cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB2）。柱根の平均径は16cmである。柱穴からは土師質土器片、須恵器片等が出土したが、特に西側梁中央の柱穴には比較的多量の須恵器片（大壺胴部片）が見られ、その出土状態は柱の根固めを意図したものと思われる。また、同じ柱穴からは鉄鎌（第24図、229）も出土している。出土した遺物から平安時代中期に比定される。

#### SB3・SB4（第5図）

SB3は、調査区南東隅、SB2の南側に検出された。2×3間の東西棟で、総柱の掘建柱建物である。桁行685cm、梁行350cmで床面積は約24.2m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が50~60cm、深さが30~55cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB3-a、SB3-b）。柱根の平均径は15cmである。柱穴からは土師質土器片、須恵器片等が出土し、根固めと思われる軽石も見られた。出土した遺物から平安時代中期に比定される。SB3を斜めに横切るように溝状造構が検出されているが、柱穴との切り合いが見られず前後関係は不明である。また、径約120cmの円形土坑も見られたが、SB3との関係は不明である。焼土等の火処は確認されていない。

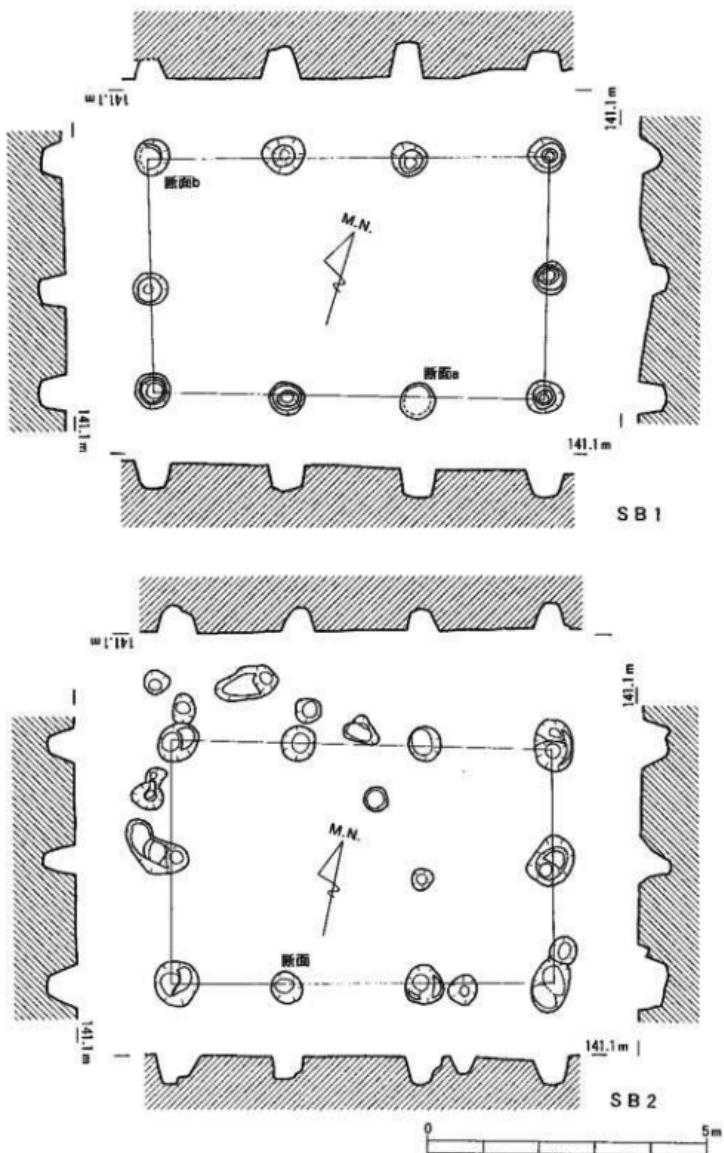
SB4は、調査区南東隅にSB2・SB3と重複して検出されている。2×4間の南北棟であるが、桁南半の柱間が2m以下と狭くなる。桁行838cm、梁行404cmで床面積は約35.2m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が40~50cm、深さが15~35cmである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB4）。柱根の平均径は15cmである。柱穴から遺物等は出土していない。

#### SB5・SB6・SB7（第7図）

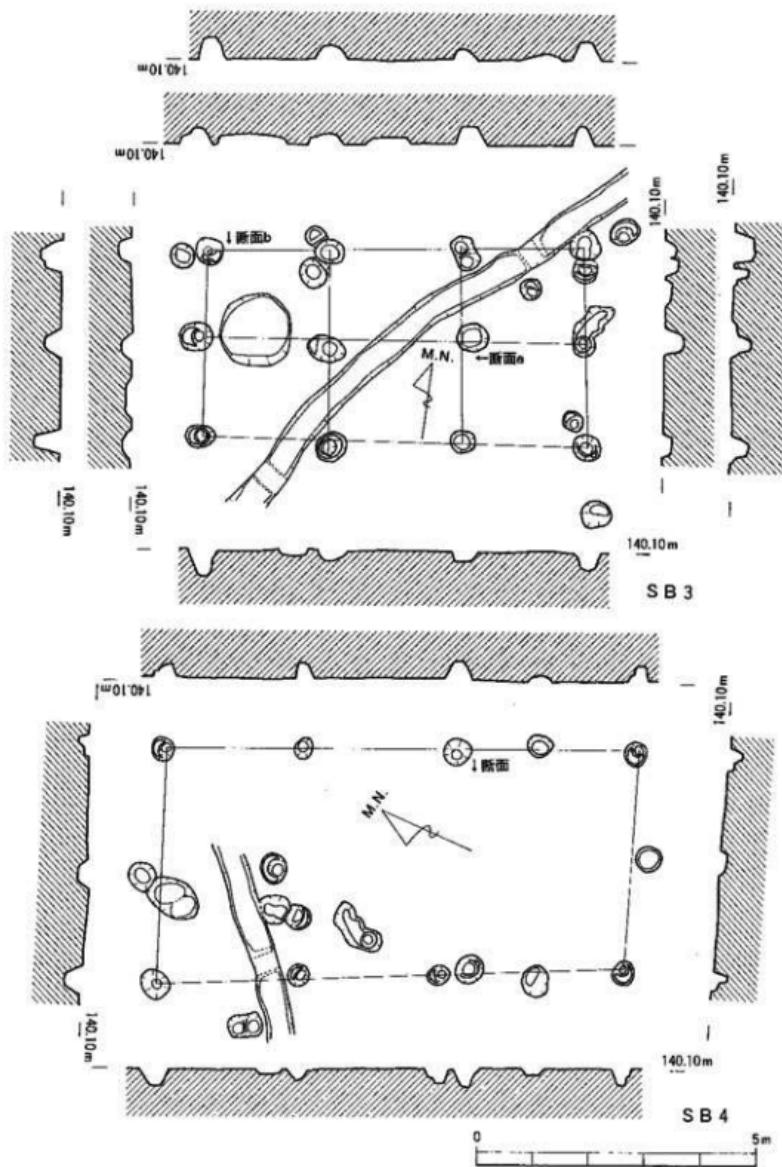
SB5~7は、調査区南東隅に3棟重複して検出された。

SB5は、2×2間が検出されたが、南の梁中央の柱穴が見られないことから、更に南の調査区外へ延びるものと思われる。2×3間として検出されたSB6との棟方位が一致することから、建て替えを想定するならば2×3間とみることができようか。南北棟で、梁行440cmである。柱穴は、検出面での径が50~60cm、深さが35~40cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は25cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片が出土している。

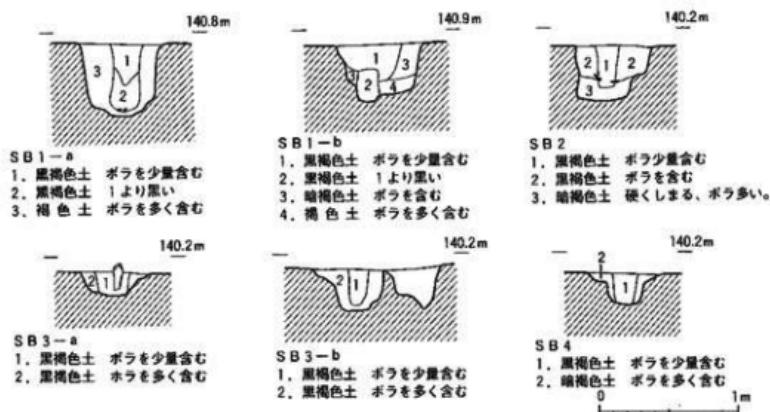
SB6は、2×3間の南北棟である。桁行630cm、梁行475cmで床面積は約30.4m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が50~60cm、深さが35~40cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は22cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片が出土しており、また、根固めと思われる軽石も見られた。



第4図 本池A区 SB 1・2実測図 ( $S=1/100$ )



第5図 本池A区 SB 3・4 実測図 ( $S=1/100$ )



第6図 SB 1~4 柱穴断面図 (S=1/40)

SB 7は、 $2 \times 3$ 間の南北棟で、東側に庇を持つ。棟方向はSB 5・SB 6とやや異なる。柱穴3基がSB 6と、1基がSB 5との切り合いを見せ、いずれもSB 7が切っている。桁行640cm、梁行375cmで床面積は約25.1m<sup>2</sup>、庇部を含む面積は32.8m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が50~60cm、深さが35~45cmと比較的の規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は20cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片、須恵器片が出土しており、また、根固めと思われる軽石も見られた。

#### SB 8・SB 9 (第8図)

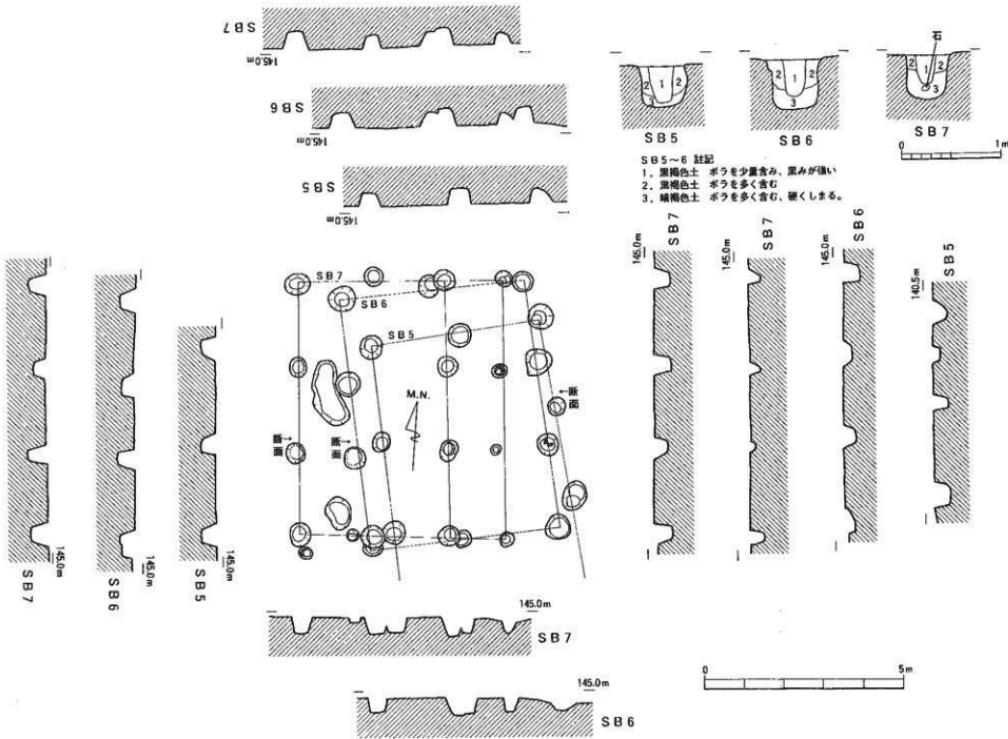
SB 8は、調査区中央やや南寄りの位置に検出された。 $2 \times 3$ 間の東西棟である。桁行640cm、梁行385cmで床面積は約25.8m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~30cm、深さが10~35cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火廻は確認されず、遺物も出土していない。

SB 9は、SB 8の西側に検出された。 $2 \times 3$ 間で東西棟、北側と西側の2面に庇を持つ。桁行615cm、梁行390cmで床面積は約23.9m<sup>2</sup>、庇部を含む面積は33.0m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~30cm、深さが15~30cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火廻は確認されず、遺物も出土していない。

#### SB 10・SB 11 (第9図)

SB 10は、調査区の南西隅に検出された。 $1 \times 5$ 間の東西棟である。桁行1150cm、梁行345cmで床面積は約40.3m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~30cm、深さが10~20cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火廻は確認されず、遺物も土師質土器小片が見られたものの時期の判断をし得るものではない。

SB 11は、調査区の南西隅、SB 10の北側に検出された。SB 10と同じく $1 \times 5$ 間で東西棟



第7図 本池A区 SB 5・6・7実測図 (S=1/100)

である。桁行1150cm、梁行335cmで床面積は約39.2m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~35cm、深さが15~25cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

#### S B12・S B13（第10図）

S B12は、調査区南西隅、S B10の西側に検出された。1×3間の南北棟である。桁行580cm、梁行360cmで床面積は約20.5m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~30cm、深さが10~20cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B13は、調査区中央に検出された。2×4間の南北棟である。桁行890cm、梁行390cmで床面積は約34.8m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が25~30cm、深さが15~30cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

#### S B14・S B15・S B16（第11図）

S B14は、調査区北端に検出された。2×3間の南北棟で、南側梁中央の柱穴は検出されなかった。桁行600cm、梁行425cmで床面積は約25.3m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が30~35cm、深さが10~15cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B15は、調査区東端に検出された。1×1間の東西棟である。桁行147cm、梁行127cmで床面積は約1.9m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が30~35cm、深さが10~15cmである。柱痕は確認できなかった。遺物も出土していない。

S B16は、調査区東端、S B15の北西に検出された。1×1間の東西棟である。桁行304cm、梁行278cmで床面積は約8.4m<sup>2</sup>である。柱穴は、検出面での径が30~35cm、深さが25~35cmである。柱痕は確認できなかった。遺物は出土していない。

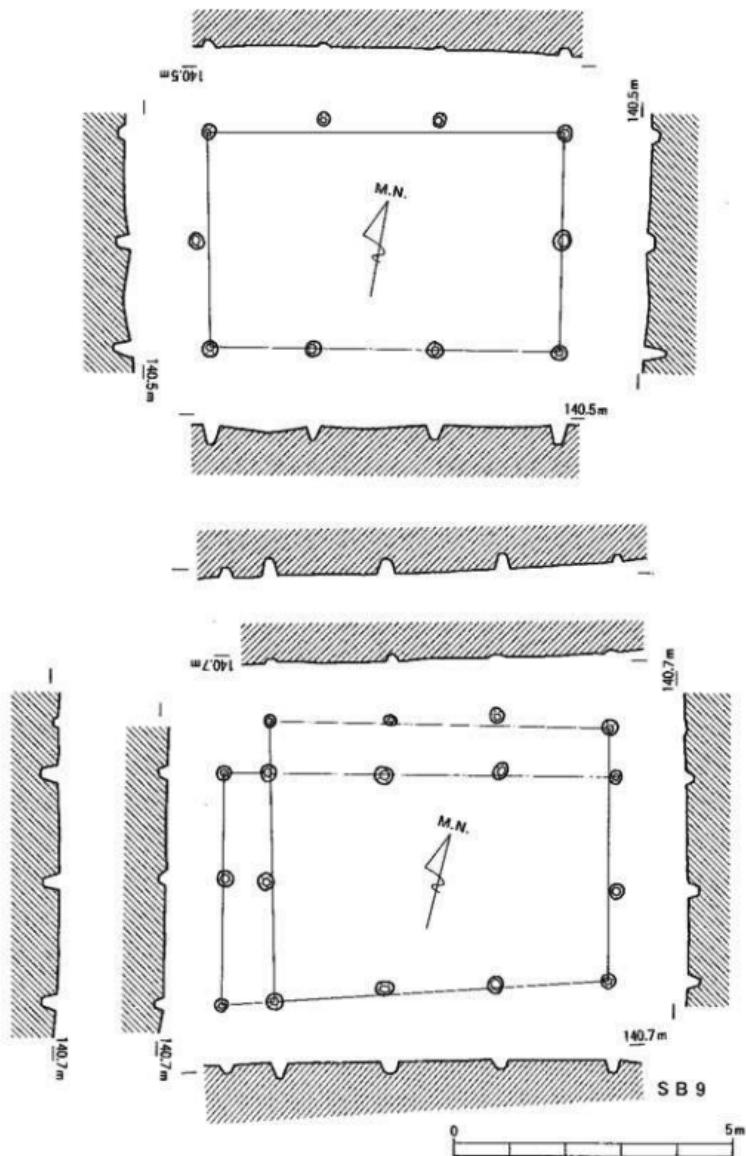
### 2. 堅穴状遺構

S A 1（第12図）は、調査区中央やや北寄りの位置に検出された。長軸350cm、短軸345cmの隅丸方形プランで、検出面からの深さは10cmと非常に浅い。御池ボラ層を僅かに掘り込んだ床面には、貼り床、焼土、硬化面等は見られなかった。主柱穴は見られず、壁際に径10cm程度の小ピットが11基検出された。遺物は見られず、時期、性格ともに不明である。

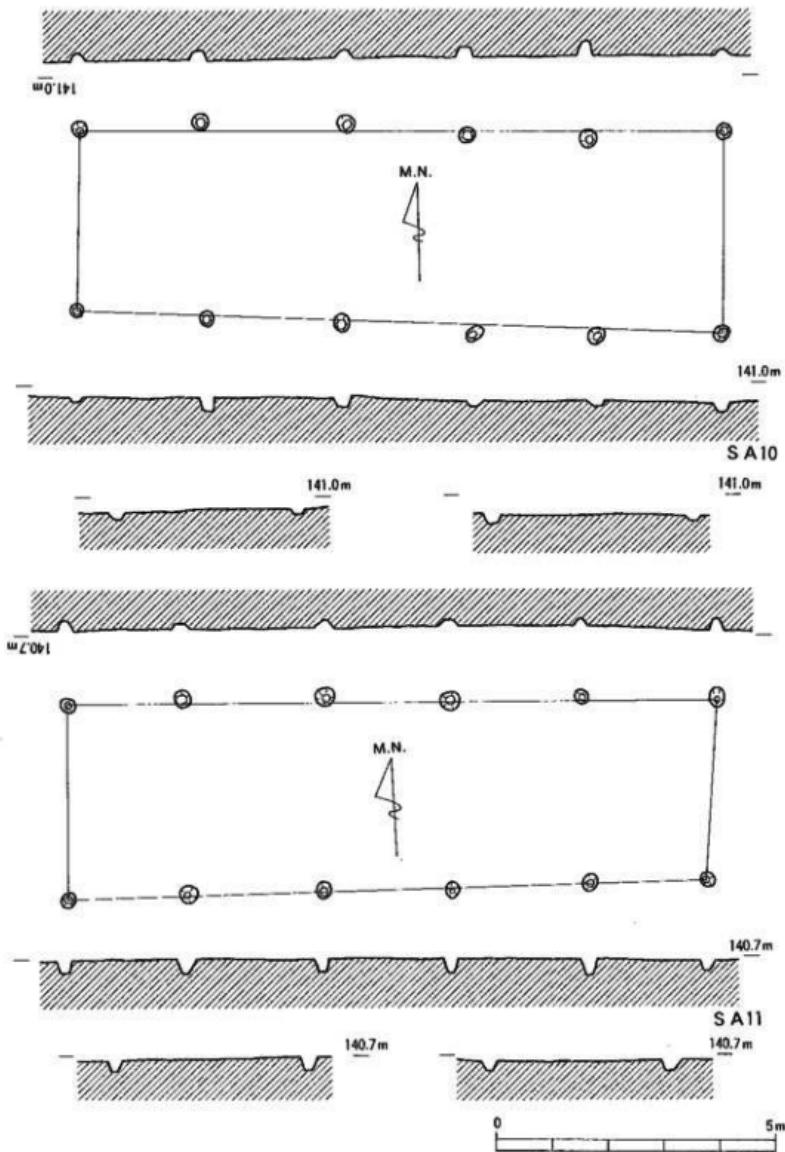
### 3. 土坑（第13図）

S C 1は、調査区東端に検出された。長軸160cm、短軸140cmの楕円形プランで、埋土は御池ボラを含む黒褐色土の單一層である。平安時代中期に比定される土師質土器片が出土し、若干の炭化物が見られた。

S Z 1は、調査区中央に検出された。不整形のプランであるが、埋土の観察から北側の張り出しは別個の土坑（S C 3）が切り合ったものと確認された。約1.4mと深い掘り込み部分には、三隅に柱を立てたと思われるピットと廻の抉り込みが見られた。南側には約90cmの段差で入り口状の張り出しが見られる。埋土の下半部は攪乱土の…括堆積で、埋め戻しあるいは壁の崩れ込みと思われる。遺物は見られず、時期・性格ともに不明である。



第8図 本池A区 SB 8 + 9 実測図 ( $S=1/100$ )



第9図 本池A区 SB10・11実測図 ( $S=1/100$ )

#### 4. 弥生土器

A区から出土した弥生土器を第14図に示した。調査区西半部に偏って出土しており、南東部に多く出土した平安時代の遺構・遺物群と分布を異にする。遺構は伴わず、御池ボラを含む黒褐色土（6-I層）から出土している。

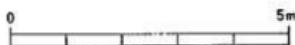
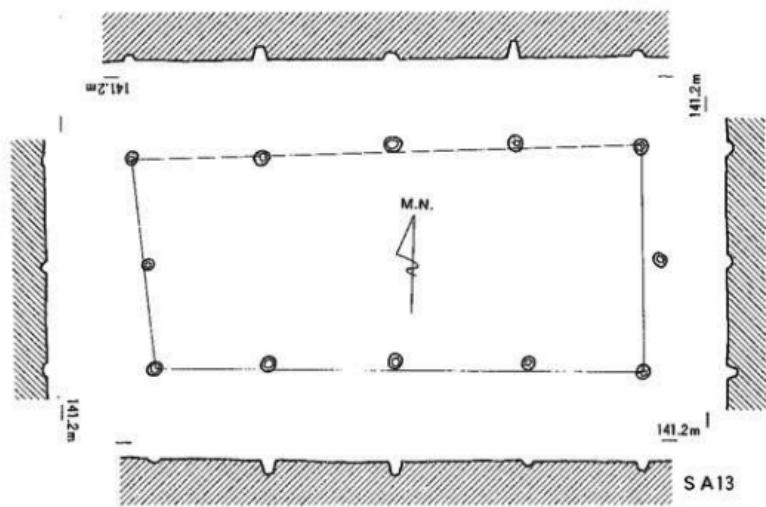
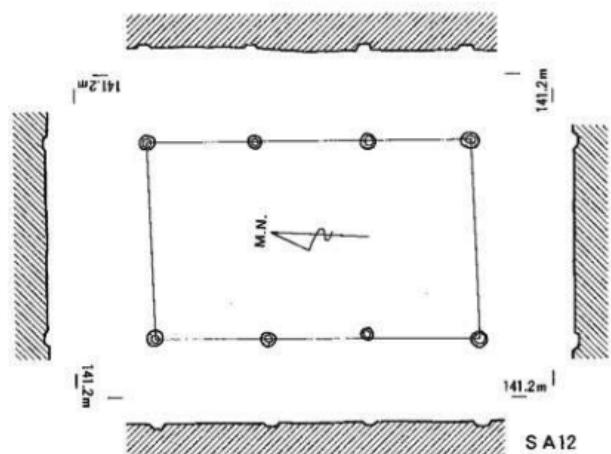
1~12は斐形土器である。1は、口縁部とその下2cmに刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。胎土は精良で、焼成も良好で硬く焼き締まる。他の土器群とやや趣を異にする。2は水平に折り返された口縁に、あまり張らない胴部を持つ。胴部最大径の位置に、2条の貼り付け突帯を持つ。3は、口縁部下に貼り付け突帯を持つ。口縁部はやや内湾気味である。4は、強く屈曲する口縁である。頸部内面に明瞭な稜を持ち、短い口縁は外反する。5は、比較的厚手の器壁を持つ。やや外反気味で、口唇部はナデにより面取りされる。6は、「く」字形に屈曲する頸部を持つ。口縁は直線的に延びる。7・8は、緩やかに外反する口縁を持ち、口径が胴部最大径を凌ぐ。9は、口縁部が外反しながら長く延びる。10・11は壺の底部で、外に張り出し上げ底となる。外器面に指痕痕が明瞭に残る。12はくびれを持たず、口縁部を多少外に向かた砲弾形となる。外に張り出す底部は若干の上げ底となる。13~19は壺形土器である。13は、球形の胴部に短い口縁を持つ。外器面は風化気味であるが、ミガキが見られる。内面は指によるナデ上げが顕著である。14~17は、壺の口縁部である。16は丁寧なナデ、17はタテ方向のミガキが顕著である。18・19は壺底部でともに平底である。18は円盤状の底部を持つ。20~25は、高坪の坏部である。いずれも明瞭な屈曲を持ち、口縁部は外反する。外面はナデ、内面はミガキ調整である。26・27は器台である。26はほぼ垂直に立ち上がる口縁を持つと思われる。28~31はミニチュア土器である。手づくねによる指痕痕が明瞭に残る。32は、杓子状土製品の把手であろうと思われる。

#### 5. 土師質土器（第15~19図）

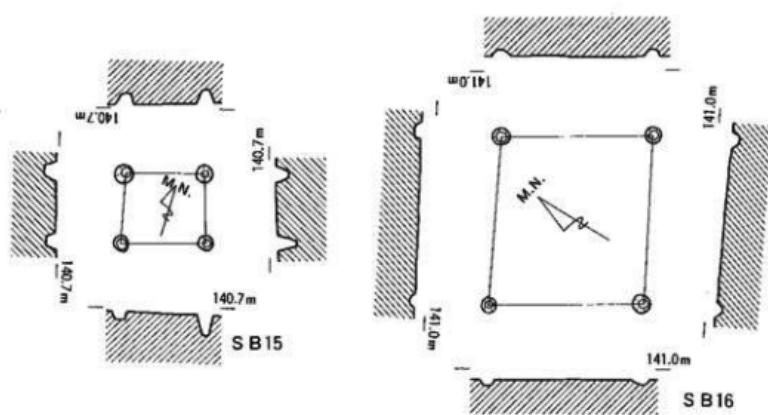
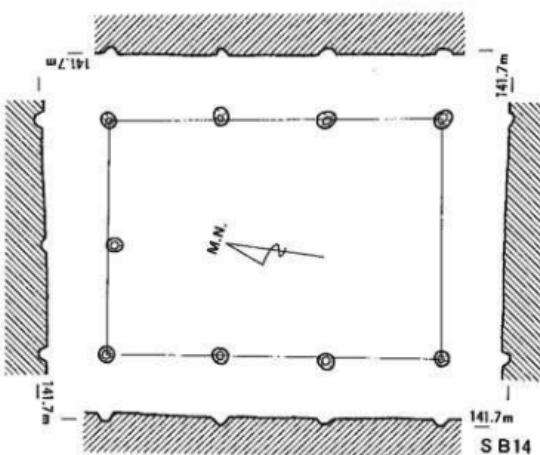
土師質土器は、調査区南東部のSB2~SB7の周辺および柱穴内から出土した。壺、坏、碗等が見られる。

33~60（第15図）は、壺形土器である。胎土は比較的精良で、焼成も良好で硬質である。調整は、外面はナデ、内面にはケズリが見られる。33~37は、口縁部に稜を有する。口唇部は丸く仕上げている。38・39は、短く屈曲する口縁で、直線的で張りのない胴部が続く。胴部最大径は、口径とほぼ同じかやや下回るものと思われる。40~47も同様の壺口縁部である。48は、頸部が「く」字形に屈曲し、やや張りのある胴部を持つ。49~59は、頸部の屈曲が明瞭でなく外に僅かに折り返す、あるいは緩やかに外反せるものである。内面は、胴部のケズリと口縁部のナデの調整の違いで稜が見られるが、外面には明瞭な稜を持たない。60は、厚手の器壁を外に若干折り返したもので、胴部の傾きから鉢形となる可能性もある。61~71（第16図）は、タタキ調整を施す壺形土器である。縦位、斜位の平行タタキ痕が見られるが、個体によってタタキの太さに若干の違いが認められる。

72~106（第16・17図）は、土師質の坏・皿である。いずれも、底部はヘラ切りである。72・73は円盤状の底部を有し、72は外に張り出す。体部～口縁部にかけては直線的に延びる。74は



第10図 本池A区 S B12・13測定図 ( $S=1/100$ )



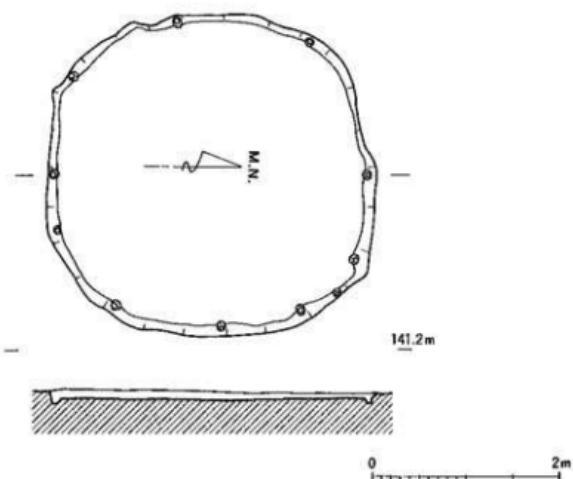
第11図 本池A区 SB14~16実測図 ( $S=1/100$ )

第1表 本池遺跡・掘立柱建物一覧表

(単位: cm)

遺構番号	規模(間)	方向	桁		行		梁		柱間		柱方位		床面積 (m <sup>2</sup> )	柱數	Pit.深	柱根径	時期	備考 (出土遺物等)
			実長	柱間	実長	柱間	柱	間	柱	間	Pit.深	柱根径						
SB-1	2×3	東西	710	230	425	220	N76°E	30.7	10	60~70	45~60	20	平安	土師器				
SB-2	2×3	東西	683	230	428	213	N80°E	29.1	10	60~80	45~55	16	平安	土師器・須恵器・鐵劍				
SB-3	2×3	東西	685	227	350	173	N83°E	24.2	12	50~60	30~55	15	平安	縄文・土師器・須恵器・根固絆石				
SB-4	2×4	南北	838	165~250	404	204	N153°E	35.2	12	40~50	15~35	16	平安					
SB-5	2×3?	南北	—	240	440	225	N169°E	—	10	50~60	35~40	25	平安	土師器				
SB-6	2×3	南北	630	215	475	235	N169°E	30.4	10	50~60	35~40	22	平安	土師器・根固絆石				
SB-7	2×3	南北	640	217	375	190	N176°E	25.1	14	50~60	35~45	20	平安	一重庇・土師器・須恵器・根固絆石・32.8m <sup>2</sup>				
SB-8	2×3	東西	640	213	385	195	N91°E	25.8	10	25~30	10~35	—	中世					
SB-9	2×3	東西	615	205	390	193	N85°E	23.9	17	25~30	15~30	—	中世	二重庇・33.0m <sup>2</sup>				
SB-10	1×5	東西	1150	220	345	345	N90°E	40.3	12	25~30	10~20	—	中世	土師器				
SB-11	1×5	東西	1150	229	335	335	N94°E	39.2	12	25~35	15~25	—	中世					
SB-12	1×3	南北	580	195	360	N4°E	20.5	8	25~30	10~20	—	中世						
SB-13	2×4	東西	890	221	390	195	N84°E	34.8	12	25~30	15~30	—	中世					
SB-14	2×3	南北	600	200	425	210	N172°E	25.3	9	30~35	10~15	—	中世					
SB-15	1×1	東西	147	—	127	N72°E	1.9	4	25~30	25~35	—	?						
SB-16	1×1	東西	304	—	278	N64°E	8.4	4	30~35	10~15	—	?						

—は不明。桁行、梁行、Pit.径、柱根径は平均値。備考欄の面積は庇部を含む。

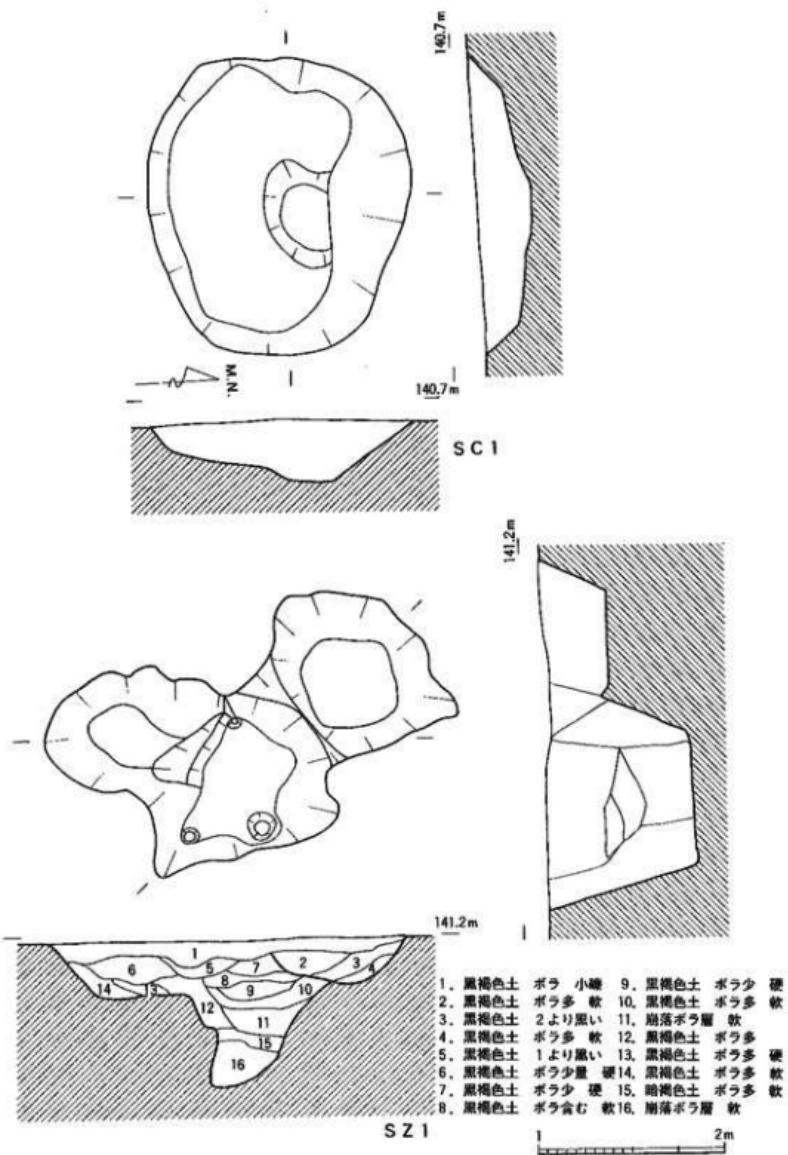


第12図 本池A区 SA 1 実測図 ( $S=1/60$ )

口径15.4cmとやや大振りなもので、薄手の器壁は直線的に延びるが、底部と体部の付き方はやや丸みを持つものと思われる。75~77は、底部から体部にやや丸みを持って立ち上がる。75は口縁に直線的に延び、76・77はやや内湾気味である。78・79は口径に対し底径が小さく、体部の立ち上がりは緩やかに内湾している。80・81は体部が内湾し丸みを持つ。82はやや湾曲する底部から強く内湾しながら立ち上がり、器高が4.1cmと低い。83・84は口縁部がやや外反する。85は、厚手の器壁に回転ナデの工具痕が顕著である。87は、口径19.8cmと大振りなもので、体部から口縁部は内湾し、やや口縁が肥厚する。88は、口径と底径の差が小さく器高の低い壺と皿の中間的形態となる。強く内湾する。94は皿である。厚手の底部から短く直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げている。95~106は壺底部である。96は円盤状の粘土を貼りつけている。

107~130(第17・18図)は、土師質の高台付碗である。107は器高が低く立ち上がりの緩い体部に、あまり開かない高台が付く。108は外に大きく開く足長の高台が付く。110はあまり内湾をみせない直線的な体部に、外に大きく開く高台が付く。113は外に大きく開き高さのない高台内に、線刻の格子文が二重に施される。器面の調整は丁寧なナデで、胎土も他に比べ精良である。114は底部が厚く、高台は大きく開き高さがない。115は底径が大きく、短い高台内は平坦にナデされている。116は長く延びる高台を持ち、底部外面に高台貼り付け時の指頭痕が放射状に見られる。126は体部の立ち上がりが急で、口径の小さな小振りの碗となる。

131~141(第18図)は、墨書きを持つ土師質土器である。131は、壺の底部外面に「奈」の字が見られる。132は、壺底部外面に「廣」の字が見られる。133は、壺底部外面に墨書きを持つ。破



第13図 本池A区 SC1・SZ1実測図 ( $S=1/60$ )

片のため文字の一部（作りの部分）を欠するが、「貫」と思われる。134は、坏底部外面に墨書を持つ。破片のため文字の一部（作りの部分）を欠するが、「くさかんむり」と「女」の文字が見られる。135は、坏底部外面に墨書を持つが、小破片のため釈読は不可能である。136は脚台状の底部外面に墨書を持つ。小破片であるが「了」の字が見られる。137は、坏体部外面に墨書が見られる。釈読は不可能である。138は、坏体部外面に倒位に墨書が見られる。「卅」と釈読される。139は、坏体部外面に正位に墨書が見られる。小破片のため釈読は不可能である。140は、坏体部外面に墨書が見られる。小破片のため釈読は不可能である。141は内黒土器碗で、「丁寧にミガキを施した内面に炭素を吸着させている。高台は剥離しているが、高台内に墨書を持つ。記号と思われるが、全体形は不明である。

142～146（第19図）は内黒土器である。内面は丁寧なミガキが行われ炭素を吸着させている。外面はナデ調整である。142～145は碗、146は小型の甌である。

#### 6. 布痕土器（第19図）

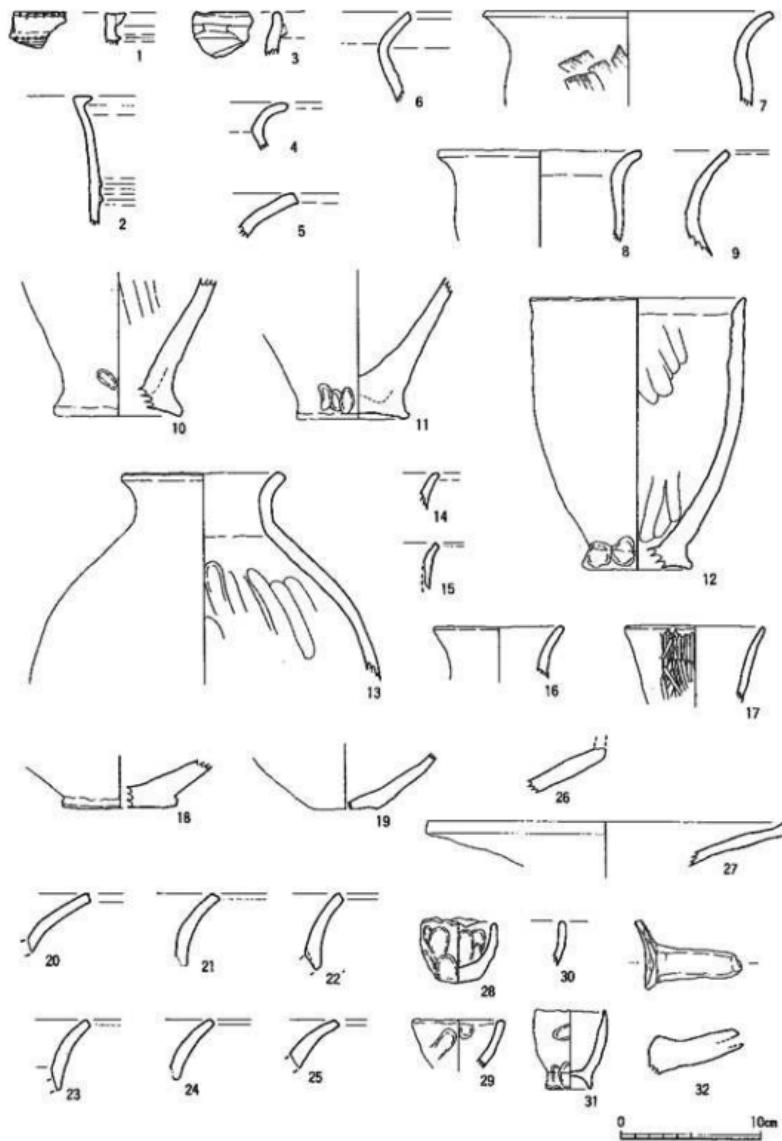
147～158は布痕土器である。製塩や塩の運搬に使用されたと推定される土器で、円錐形の器面は、外面が粗いナデ調整で、内面に布目圧痕が残る。色調は橙色でやや軟質の土器である。

#### 7. 須恵器（第20～23図）

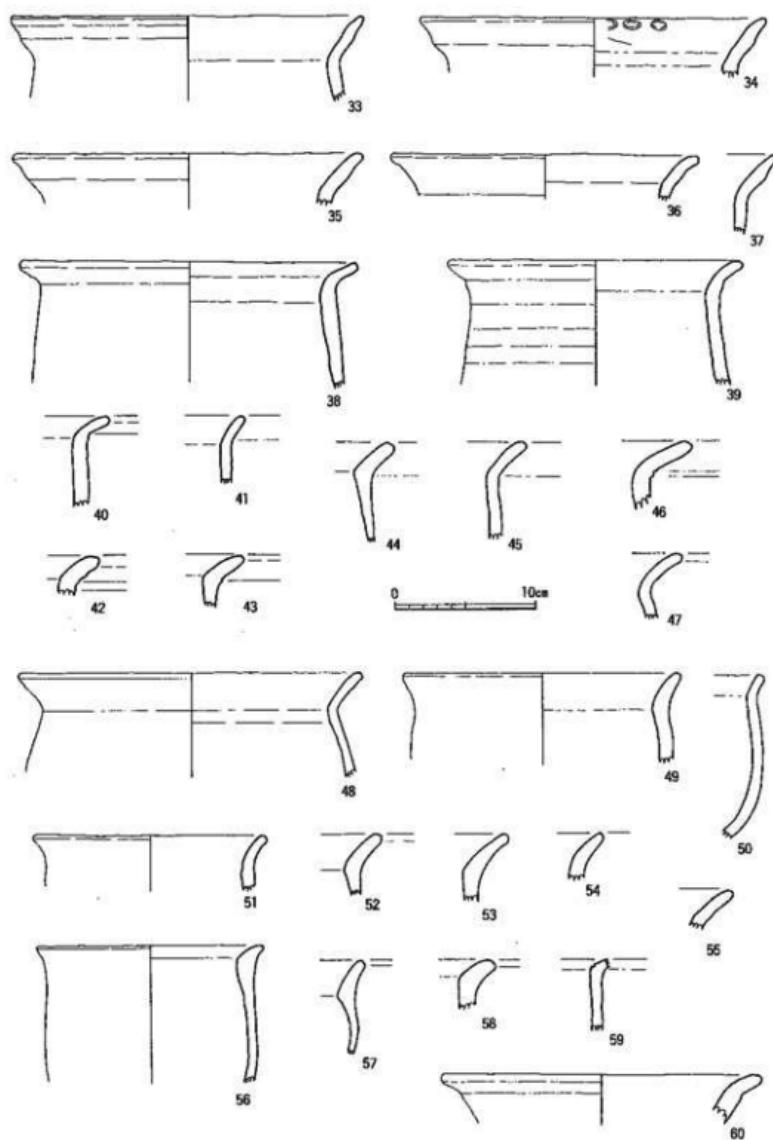
159～166は蓋である。159は蓋のつまみで、偏平で中央が窪む。160～166の蓋は、内面にかえりを持たず、端部を内方へ屈曲させ、坏身の外側に固定させるものである。口径の約2分の1程度の平坦面を有するものの、天井部は全体に丸みを持ち器高は高い。全体の3分の1程度まで回転ケズリが施される。

167～178は坏である。167～172は、口径に対し底径が小さく、底部から体部にかけてやや内湾し、体部から口縁部にかけては直線的に斜めに延びる。高台の有無は不明である。この形態は土師質土器にも共通するもので、須恵器の製作手法が土師質土器に影響を与えたものと思われる。173～178は高台を有する。比較的底径が大きく、高台は斜めに外へ張り出す。疊付を平坦に切るものと先細のものが見られる。

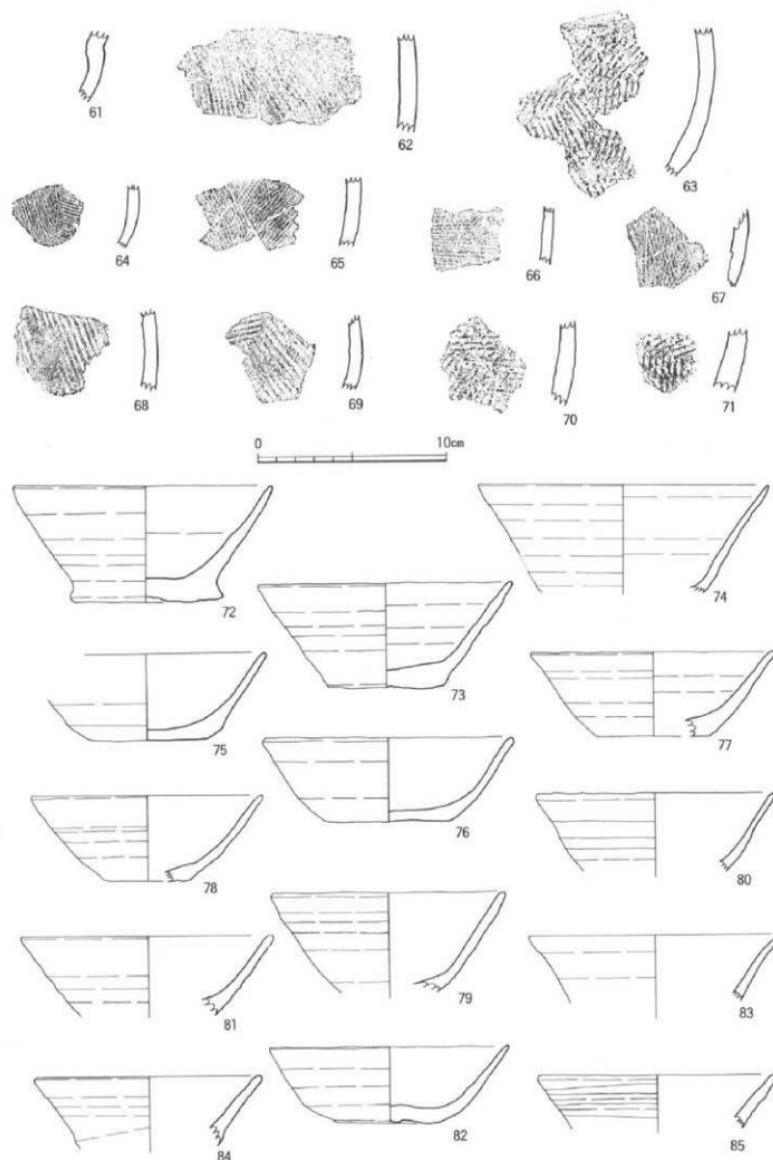
179～199は壺である。179は短頸壺で、外面は格子目タタキ、内面は当て具痕を粗くナデ消している。口縁部は丁寧なヨコナデである。180～186は短頸壺の口縁である。内外面ともにヨコナデ調整である。180は、直線的で外方に屈曲する口縁である。181・182は、内方へ屈曲し受け口となる。183～186は、緩やかに外反する口縁である。187は壺頸部で、頸部と胴部の境に粘土の継ぎ目の段差を残す。188は外面に格子目タタキを残し、内面は当て具痕を粗くナデ消している。189～199は壺の頸部から胴部、底部である。189・190は明確な接合点が無いものの同一個体の可能性が高い。肩部があまり張らずに球形に近いプロポーションとなる。器面調整は回転ナデで、胴部最大径の位置に1条の沈線を持つ。191・192も同一個体の可能性が高い。肩部は強く張る。回転ナデ調整である。193・194は直立に近い鶴状突帯を持つ壺の肩部である。比較的薄手の器壁で、丸みを持った胴部になるものと思われる。外面に格子目のタタキが見られ、内面は当て具痕を粗くナデ消している。突帯はタタキ成形の後に張り付けられ上下をヨコナデしている。195・196はタタキ痕が見られず、回転ナデによる器面調整の小型の壺である。197は



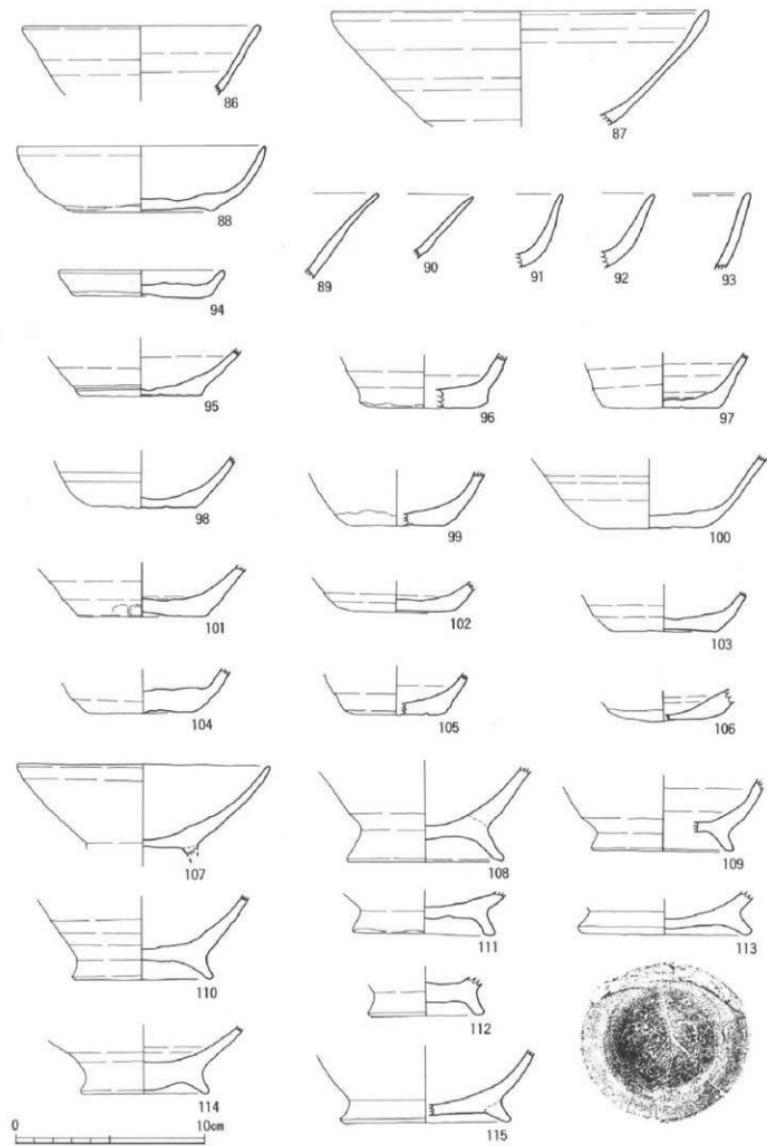
第14図 本池A区出土遺物実測図(1) (弥生 1/4)



第15図 本池A区出土遺物実測図(2) (平安1/4)



第16図 本池A区出土遺物実測図(3) (平安 61~71→1/3, 72~85→1/3)



第17図 本池A区出土遺物実測図(4)(平安1/3)

やや大振りで、格子目タタキが見られる。

200~210は、大甕である。200・201は、外面に平行タタキ、内面に円弧の当て具痕が見られる。202は、外面に格子目タタキ、内面に平行・円弧の当て具痕が見られる。200~202の破片の多くはSB2のピット内（西側梁中央）から出土している。その出土状況を見ると、柱痕と思われる比較的軟質の黒褐色土の下部に集中しており、破片を柱の根固めに使用したものと思われる。203~205は口縁部で、頸部から緩やかに外反した後に内方へ屈曲し受け口となる。206は、「く」字形に屈曲する頸部から斜めに直線的に延びる口縁部で、中位に段を有する。胸部には平行タタキと円弧の当て具痕が見られる。207は緩やかに外反する口縁部で、端部はほぼ水平に屈曲した後上方へ折り返される。口唇部は丸く仕上げる。208・210は、外面に格子目タタキ、内面に円弧の当て具痕を持つ。209は、外面平行タタキである。

#### 8. 陶磁器（第24図）

211~219は、中国越州窯産の青磁である。繊かな貫入の見られる灰オリーブの釉が施される。211~213・217・218は碗で、やや内湾気味の口縁部と、蛇の目高台の底部である。214~216・219は皿で、やや外反する口縁部と若干上げ底気味の底部が見られる。220は、ヘラ描蓮弁文を有する青磁碗である。221~226是中国産の白磁で、やや内湾気味の玉縁口縁と蛇の目高台の底部が見られる。227は肥前系白磁の瓶で、19世紀後半に位置付けられる。228は陶器の壺である。光沢の無い赤褐色の釉が施される。

#### 9. 鉄器（第24図）

229はSB2のピット（西側梁中央）から出土した雁又形の鉄鎌である。鎌身は偏平で、茎部、基部ともに断面長方形である。230は、約9cmと大型の鉄製釣針である。断面形は正方形で、基部に近づくにつれて若干の歪みが見られる。基部端は偏平で鋭角的に折り曲げられる。先端部はやや丸みを帯びるが、直角に折り曲げられ逆刺は持たない。

#### 10. 土錘（第25図）

包含層中から26個の土錘が出土した。図示し得るものは25個体である。ほぼ全体形を残す21個体の平均重量は20.5g、平均長5.3cm、平均幅2.3cmである。

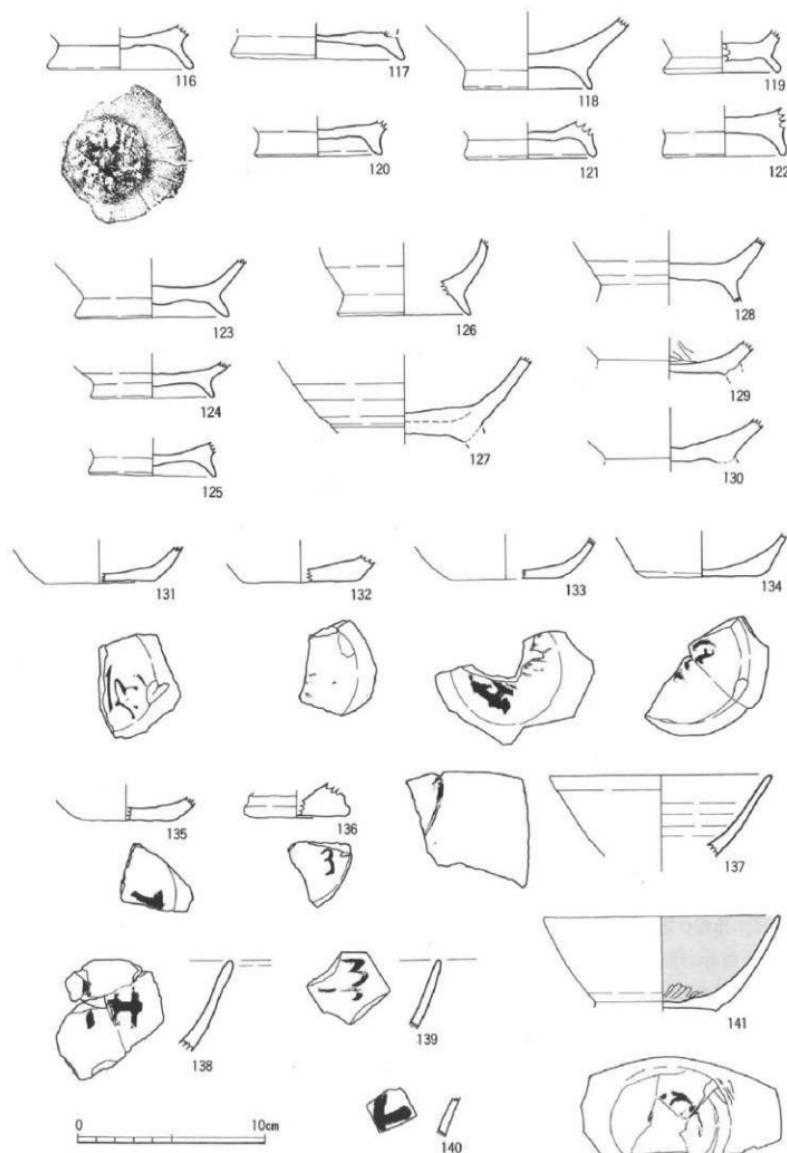
#### 11. 石器（第26図）

256~258は砂岩製の砥石である。256は3面に研磨痕が認められるが、特に凸面となる部分には2条の擦痕が見られる。断面はV字に近く、かなり硬質のものを研磨したものと思われる。257は4側面に研磨痕が認められた。258は2面に研磨痕が認められた。砂岩であるが比較的細かな粒子構造で、研磨面は光沢を持つ。259・260は軽石製品である。用途は不明であるが、4側面は滑らかに面取り（研磨）されている。

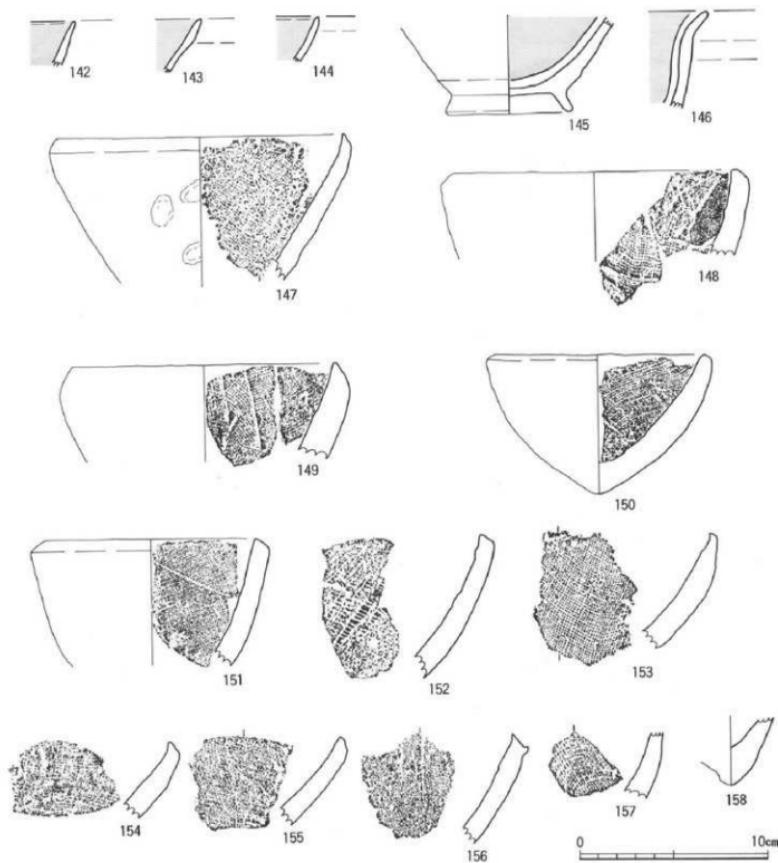
### 第5節 本池B区の造構と遺物

#### 1. 積穴状造構

SA1（第27図）は、周溝を伴う方形積穴である。長軸380cm、短軸350cmの隅丸方形プランで、検出面からの深さは65cmを計る。南壁にステップ状の掘り残しが見られる。床面は御池ボ



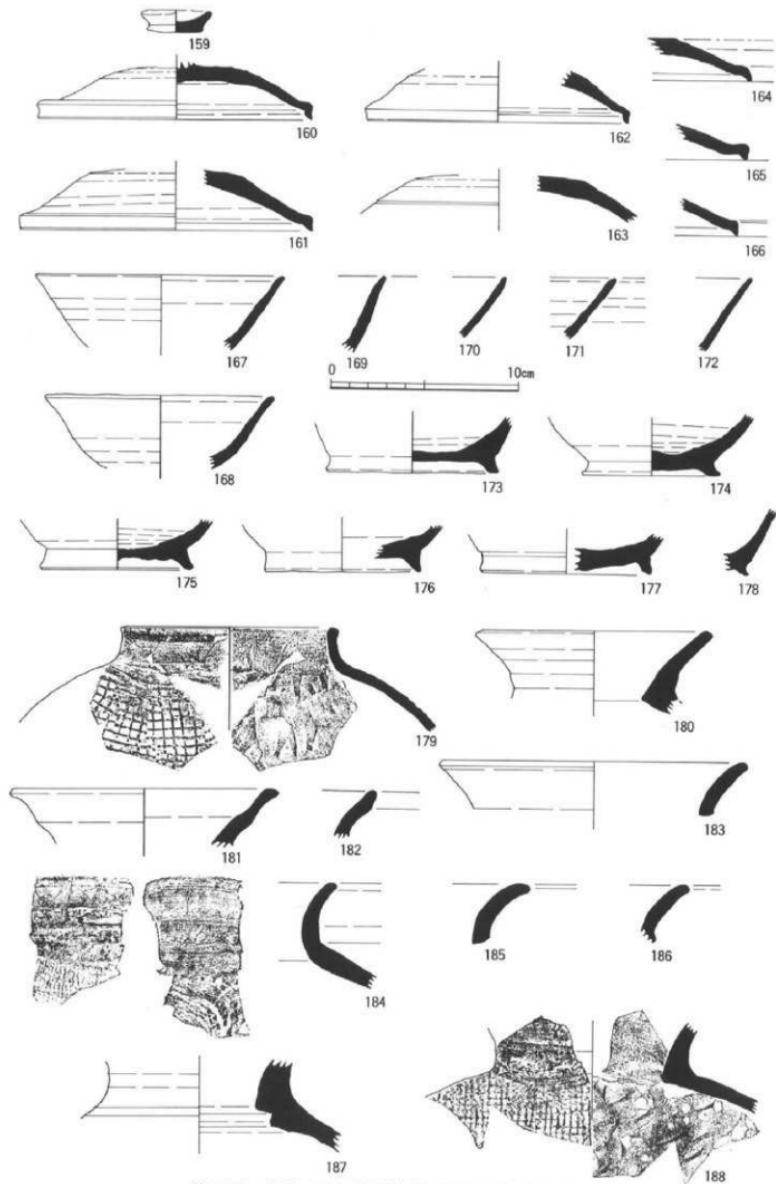
第18図 本池A区出土遺物実測図(5) (平安1/3)



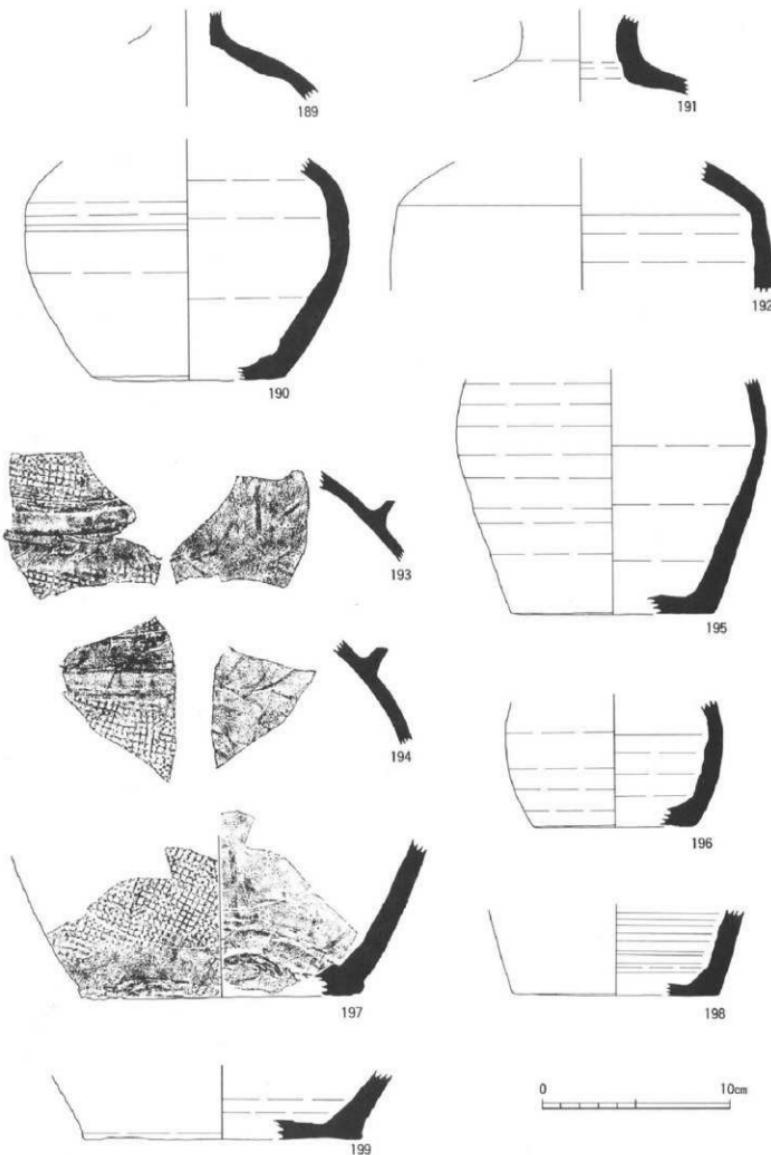
第19図 本池A区出土遺物実測図(6) (平安 1/3)

ラ層であるが、踏み固められ硬化した部分も見られた。床上には若干の炭化材が検出された。竪穴部の周囲には、約2mの間隔を置き最大幅60cm、最大深25cmの周溝が巡る。竪穴部の埋土は御池ボラを含む黒褐色土で、一括での埋め戻しの可能性が高い。遺物は、弥生土器片、チャート製打製石鎌（第33図-281、第36図-319）が見られたが、いずれも床面からかなり浮いた状態で出土しており、埋め戻しの際に流れ込んだものと思われる。遺構の時期、性格は不明である。

S A 2（第28図）は、長軸340cm、短軸300cmの隅丸長方形プランで、検出面からの深さは75cmを計る。床面は御池ボラ層で、若干の硬化が認められた。また、床上より炭化材が検出され



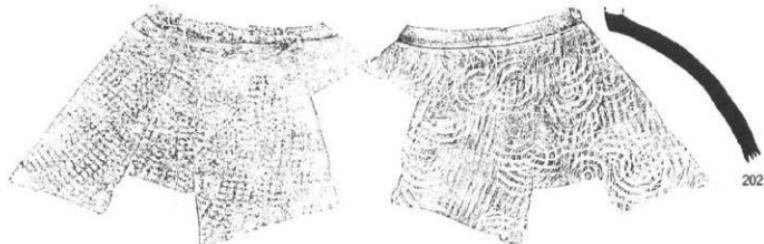
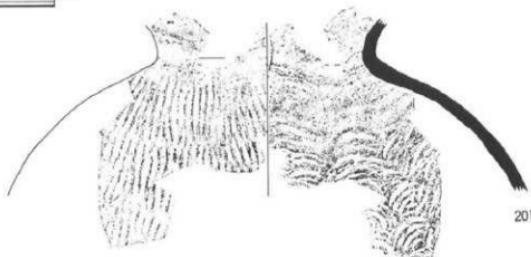
第20図 本池A区出土遺物実測図(7) (須恵器 1/3)



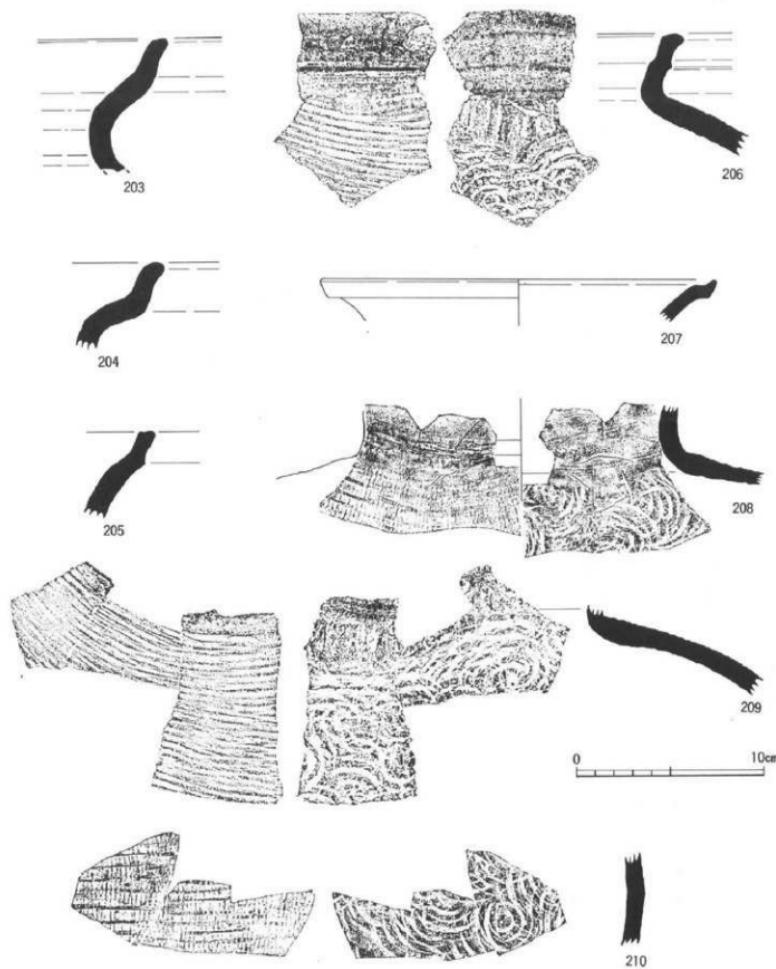
第21図 本池A区出土遺物実測図(8) (須恵器 1/3)



0 10cm



第22図 本池A区出土遺物実測図(9) (須恵器 1/4)



第23図 本池A区出土遺物実測図(10) (須恵器 1/3)

ている。埋土は3層に分けることができるが、人為的な埋め戻しの可能性が高い。遺物は、繩文土器や弥生土器の小片が埋土中に少量見られたが、埋め戻しの際に流れ込んだものと思われ、遺構の詳細な時期、性格については判断の材料を持ち合わせない。

## 2. 土 坑

S C 1 (第28図) は、長軸140cm、短軸90cmの不整楕円形プランである。検出面からの深さは50cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の單一埋土である。完形の壺(第33図、282)が、床面から浮いた状態で出土している。やや胴長の壺で、平底である。屈曲し短く外反する口縁で、端部がやや肥厚する。外器面にはハケ目とミガキの調整が見られる。弥生時代中期後葉に比定されよう。

S C 2 (第29図) は、擾乱のため北壁側が乱れているが、本来的には長軸150cm、短軸60cmの長方形プランである。検出面からの深さは40cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の單一埋土である。検出面近くで弥生土器の小片が出土したが、他の遺物は見られず、遺構の時期の詳細は不明である。

S C 3 (第29図) は、長軸156cm、短軸52cmの長方形プランである。検出面からの深さは30cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の單一埋土である。遺物の出土はなく時期は不明である。

S C 4 (第29図) は、長軸210cm、短軸126cmの楕円形プランである。検出面からの深さは20cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の單一埋土である。床面に見られた落ち込みは、木根による擾乱で、遺構本来のものではない。床面から弥生土器片(第33図-283)が出土している。堀の胴部で、詳細な時期は不明である。

S C 5 (第30図) は、長方形プランであろうと思われるが、木根による擾乱のため全体形をつかみ得ない。推定で、長軸140cm、短軸40cmと思われ、検出面からの深さは40cmである。遺物は出土せず、時期は不明である。

S C 6・S C 7 (第30図) は、ともに不整楕円形プランである。遺物の出土はなく時期は不明である。

S C 8 (第31図) は、長方形プランと楕円形プランの組み合わせの二段掘りとなる。長軸172cm、短軸68cm、検出面からの深さは最深部で40cmである。遺物は出土していない。

S C 9 (第31図) は、長軸144cm、短軸120cmの楕円形プランで、床面に90cm×70cmの長方形の落ち込みを持つ二段掘りの土坑である。検出面からの深さは最深部で70cmである。遺物は出土していない。

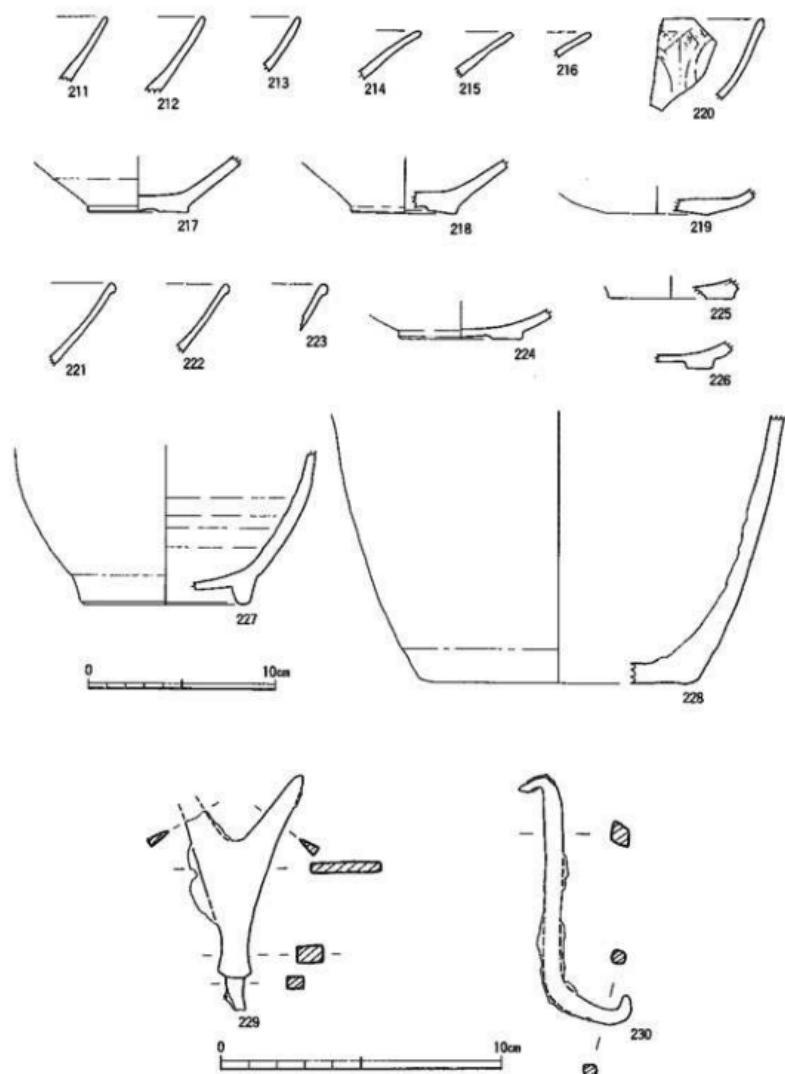
## 3. 繩文土器 (第32図)

調査区中央から西寄りの位置に、遺構に伴わない形で数十点が出土している。

261~263は「松山式土器」である。肥厚させた口唇部に2本の沈線と刺突文の組み合わせがみられる。器面調整は貝殻条痕で、261は波状口縁、262・263は平口縁である。

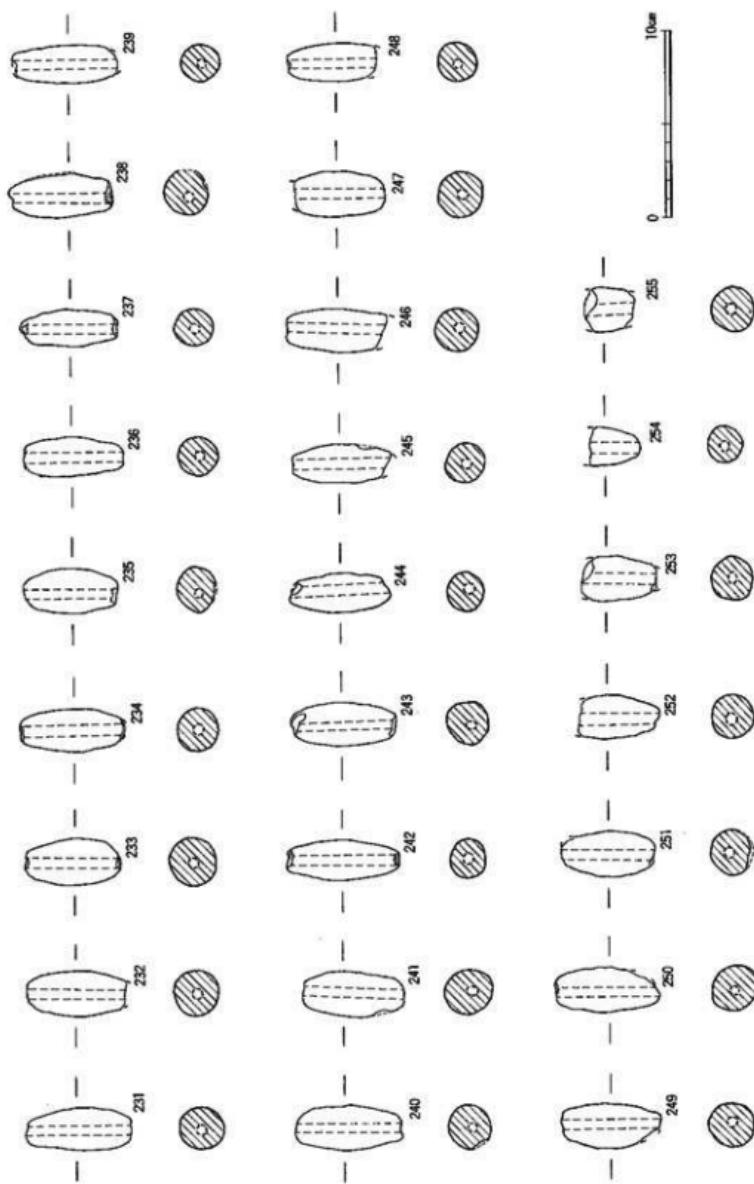
264~271は「指宿式土器」である。短く外傾する口縁部は肥厚せず、器面調整は貝殻条痕で、沈線と刺突文の組み合わせがみられる。

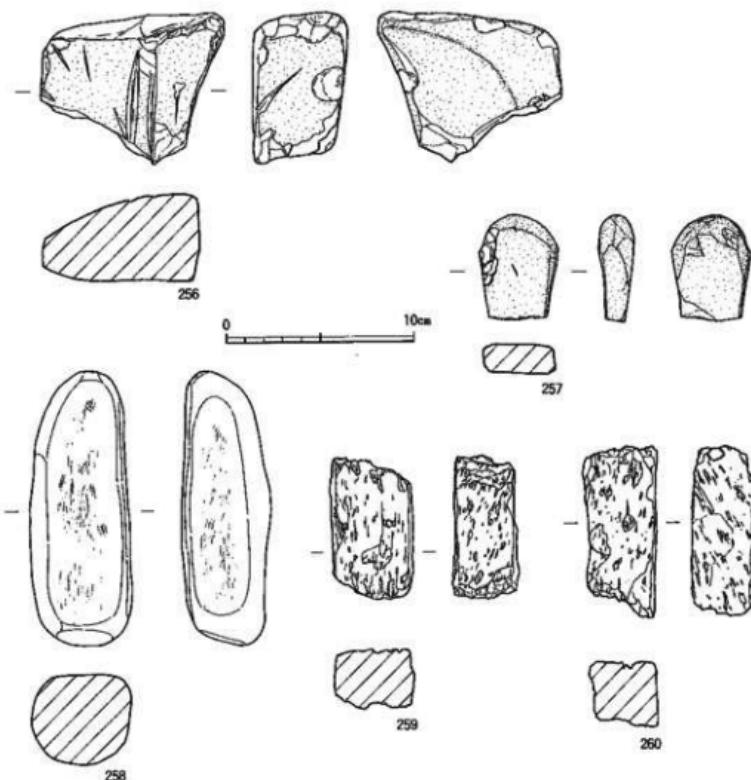
272~274は「市来式土器」である。272は、やや肥厚させた口唇部に貝殻による刺突文と浅沈



第24図 本池A区出土遺物実測図(10) (陶磁器 1/3、鉄器 1/2)

第25图 本池A区出土遗物实测图(2)(土器 1/3)





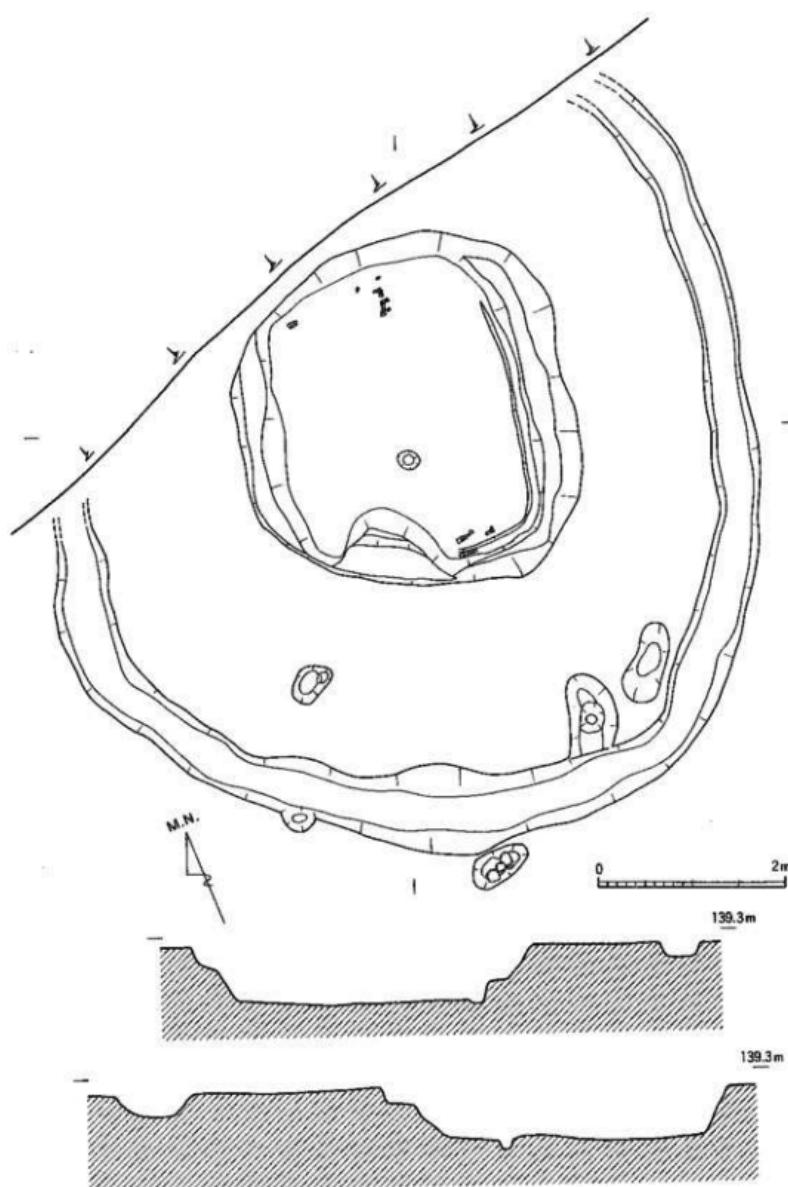
第26図 本池A区出土遺物実測図(1)(石器 1/3)

線が見られる。器面調整は貝殻条痕である。273・274は、大きく肥厚させた口唇部に貝殻による刺突文と沈線、棒状工具による刺突文が見られる。

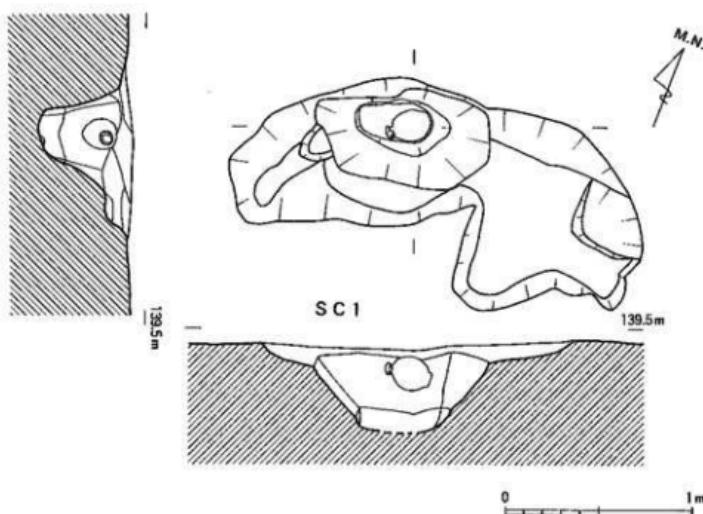
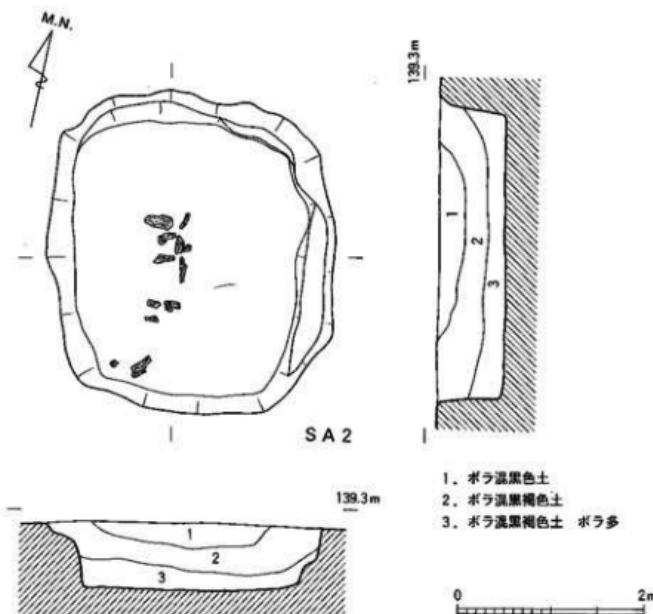
275は、口縁部下に断面三角形の突帯を持つ。突帯上部に2条の沈線を持ち、器面調整はナデである。276は直口縁で、貝殻条痕を粗く擦り消している。277は強く外反する口縁で、内面に1条の沈線を持つ。278は、器壁の厚みが一樣でなく、器面調整も非常に粗いナデである。279はやや内湾気味の口縁で、貝殻条痕の上からヨコナデしている。280は、貝殻条痕の上からミガキを施す。

#### 4. 弥生土器 (第33~35図)

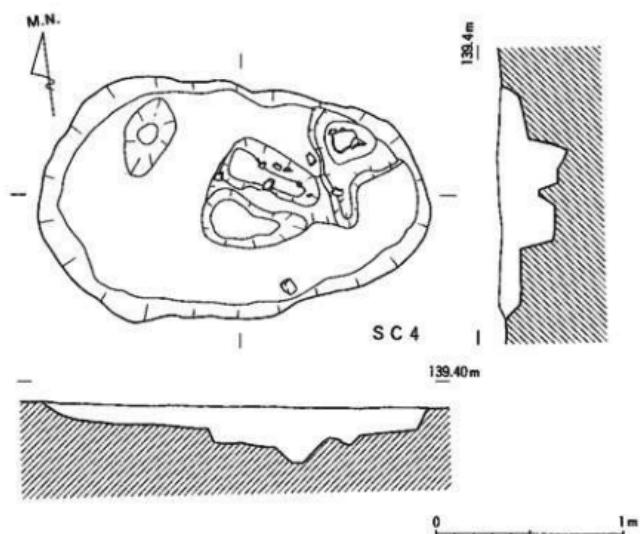
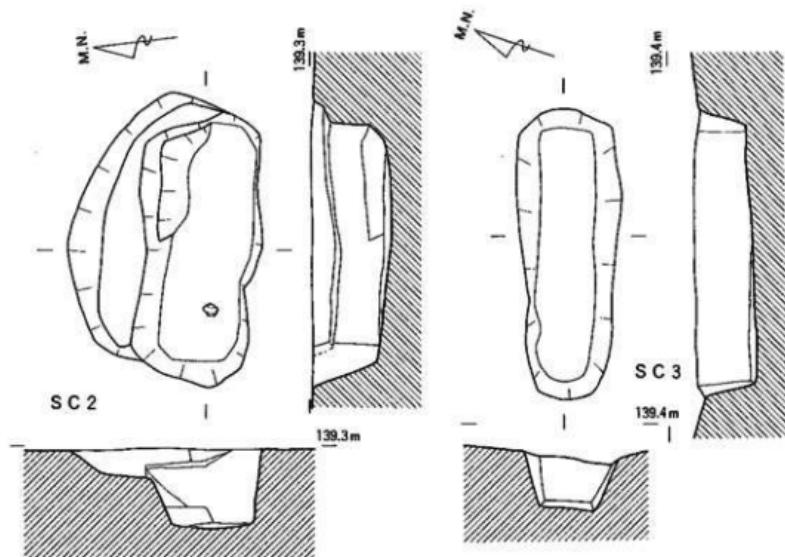
281は、SA1埋土から出土した。小型の壺形土器の口縁部である。内外面ともに丁寧なナデ調整である。284・285は須玖式の壺である。丹塗された器面は風化気味であるが、調整は丁寧なナデである。286~289は短く屈曲した口縁部を持ち、あまり張らない胴上部に1条の刻み目



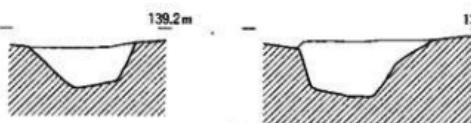
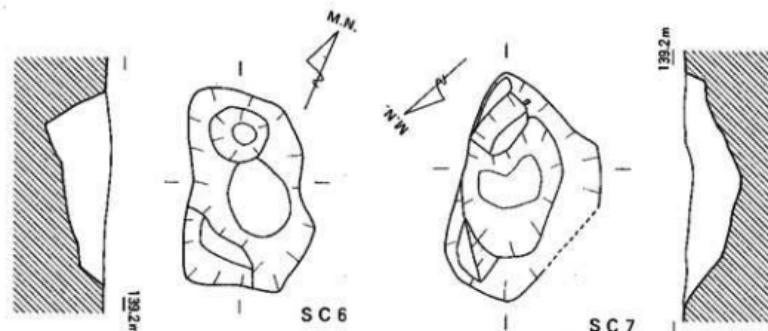
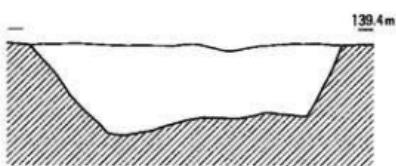
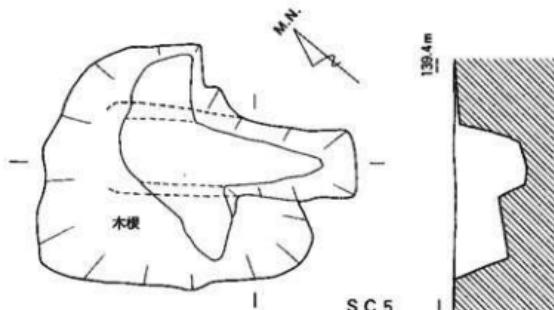
第27図 本池B区 SA 1 実測図 ( $S=1/60$ )



第28図 本池B区 SA 2 実測図 ( $S=1/60$ ), SC 1 実測図 ( $S=1/30$ )

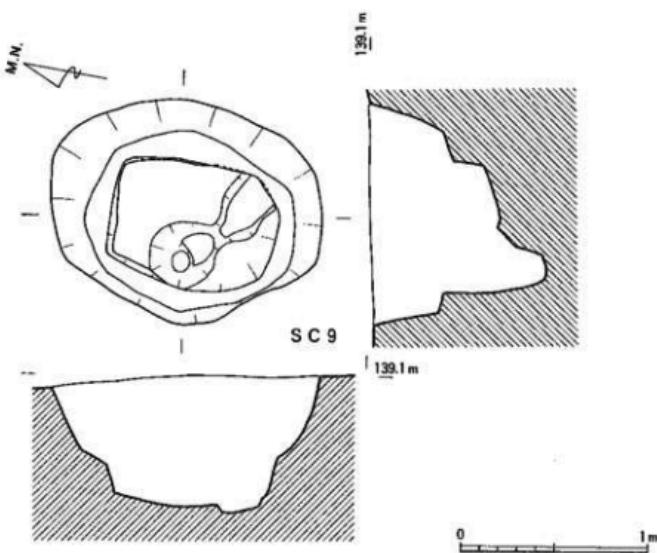
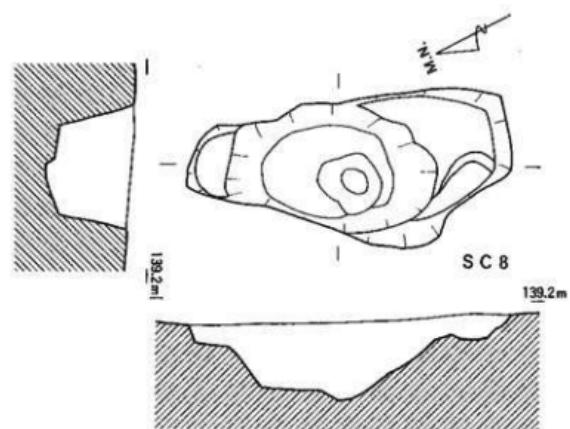


第29図 本池B区 SC 2～4 実測図 (S=1/30)



0 1m

第30図 本池B区 SC 5~7 実測図 (S=1/30)



第31図 本池B区 SC 8・9実測図 ( $S=1/30$ )

突帯が付く。289は突帯が剥離している。290は錫先条口縁の壺である。口縁部上面はナデ、胴部はハケ目が見られる。291~299は壺の口縁部である。短く屈曲した口縁部は、ほぼ水平になるもの、やや斜め上方に向くもの、屈曲の角度が浅く比較的長く延びるものなどがある。300は脚台状の底部を持つ壺である。底部は内部が剥離しているため、脚台が充実していたかは不明である。301は外方に大きく開く脚を持つ。器面はハケ目調整である。302~308は粗製の壺である。器壁は厚く、短く外傾する口縁とやや肩の張る胴部を持つ。肩部には4、5条の貼り付け突帯と、その最下条に付く波状の粘土紐が見られる。他の土器類と趣を異にするが、都城市やえびの市等県南内陸部に特徴的な土器である。309・310は、やや肩長の壺である。「く」字形に屈曲し、短く外傾する口縁を持つ。器面調整は、ハケ目の後に部分的にミガキが見られる。同一個体の可能性が高いが、明確な接点が見られず接合し得なかった。311・312も同一個体の可能性が高いが、明確な接点が見られず接合し得なかった。大きく外反する口縁部に球形の胴部を持つものと思われる。器面は丁寧にミガキが施される。313は壺の口縁部である。外反する口縁端部は丸く仕上げられる。314は壺の胴部で、断面三角形の2条の突帯が見られる。315・316は壺の底部である。315はハケ目、316はミガキが顕著である。

#### 5. 陶磁器（第35図）

317・318は、端反りの白磁碗である。灰白色の釉薬が薄く施される。

#### 6. 石器（第36図）

319はS A 1から出土した打製石鎌である。チャート製で、若干基部を抉っている。320~322は磨製石鎌である。頁岩製で、全体に研磨痕が顕著に見られる。基部を若干痩ませている。323は磨製石鎌の未製品である。基部付近に若干の研磨痕が見られる。頁岩製。324は磨製の小型石斧である。刃部は両側から研ぎだしている。全面に研磨痕が明瞭に残る。頁岩製。325は打製の小型石斧である。主要剥離面を残す。周囲を細かく打ち欠き成形している。頁岩製。326は砂岩製の石皿である。

### 第6節 まとめ

本池遺跡では、前節までに述べてきたように、A区で掘建柱建物16棟、竪穴状遺構1基、溝状遺構1条、土坑数基が検出され、弥生土器、土師質土器、布痕土器、須恵器、陶磁器、鉄鎌、鉄製釣針、石器が出土した。土師質土器には墨書き土器が10数点含まれる。B区では、竪穴状遺構2基、土坑9基が検出され、縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器が出土した。遺物の多くは遺構外からの出土であり、明確な共伴関係の把握や遺構の時期決定には不十分なものである。しかしながら、当地域の歴史を振り返る上で貴重な資料であることには間違いない。ここではこれらの遺構・遺物に関して、各時代毎に若干の私見を交えながら解釈を加えまとめてかえた。

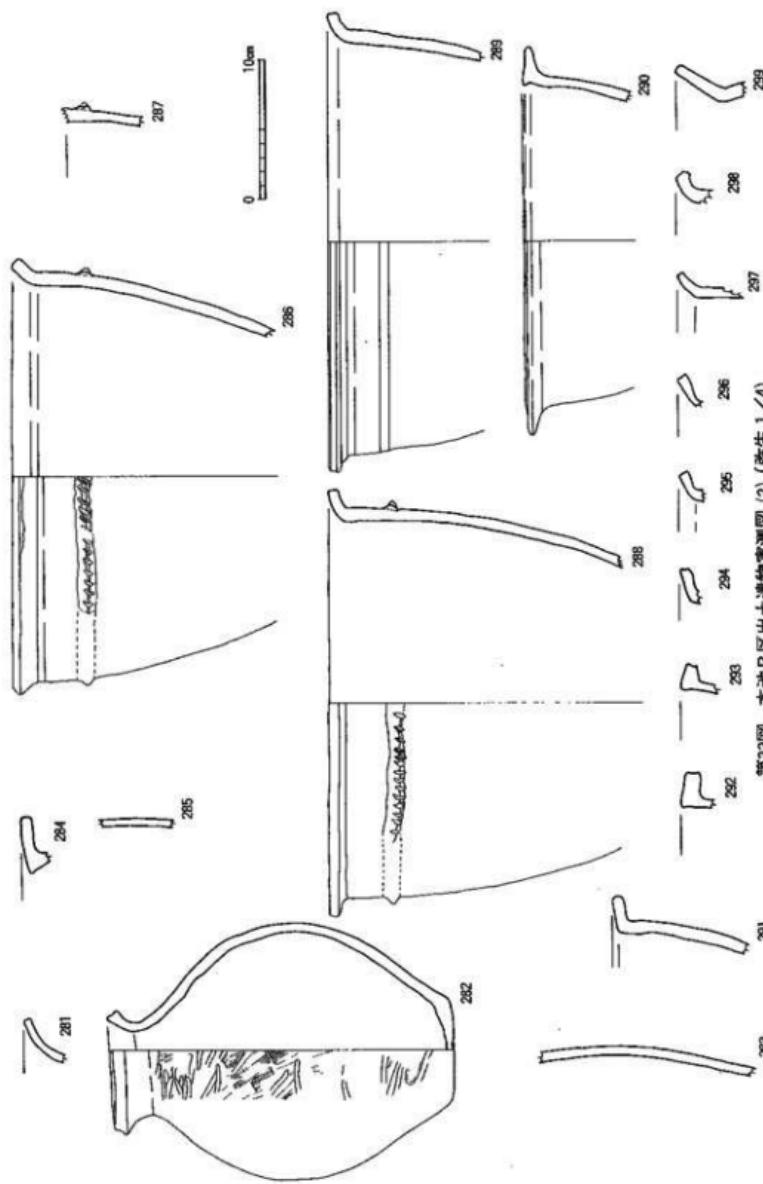
#### ・縄文時代について

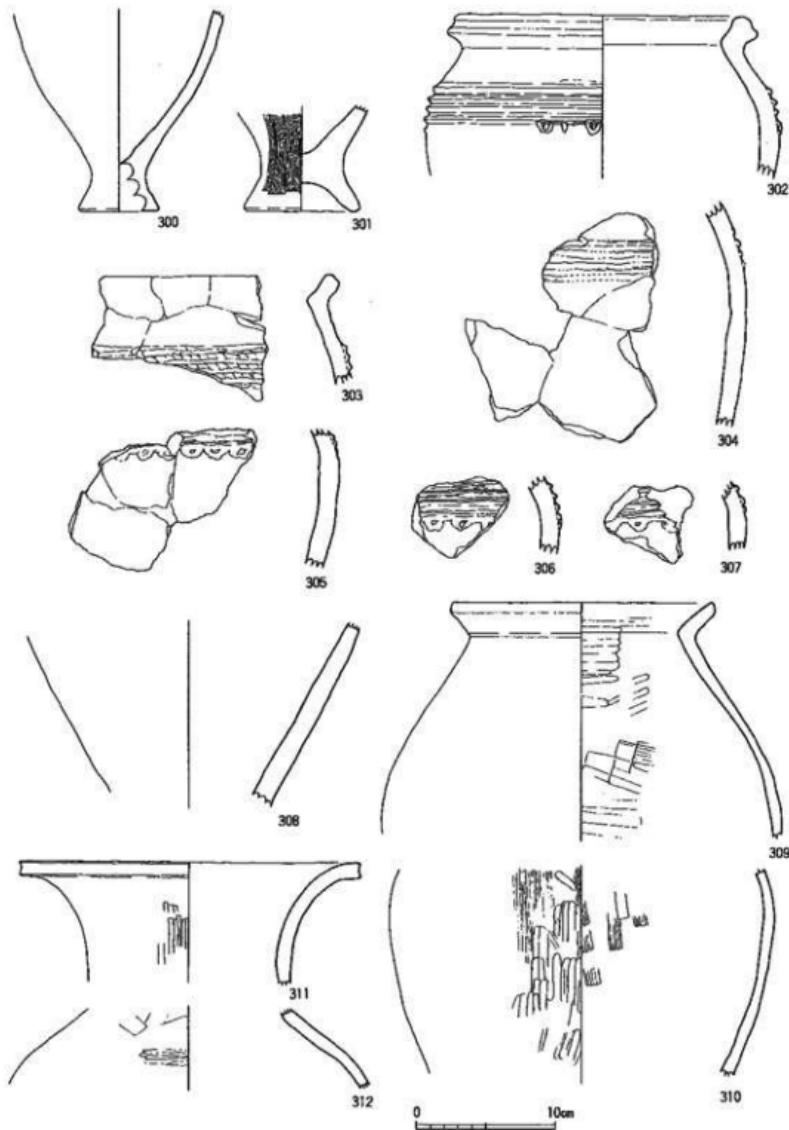
B区において出土した縄文土器は、いずれも遺構に伴わず包含層からの出土である。縄文時



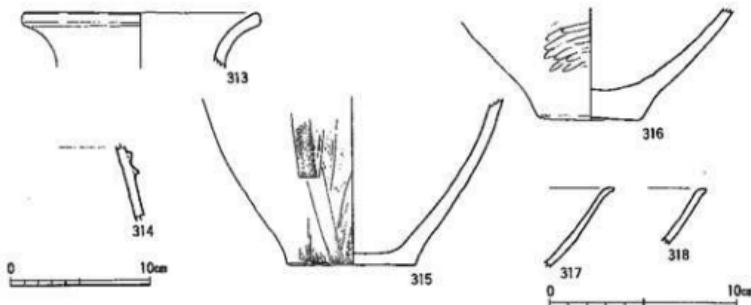
第32図 本池B区出土遺物実測図(1) (縄文 1/3)

第33圖 本池B區出土遺物實測圖(2)(赤生1/4)





第34図 本池B区出土遺物実測図(3) (弥生 1/4)



第35図 本池B区出土遺物実測図(4)(弥生313~316→1/4, 磁器317~318→1/3)

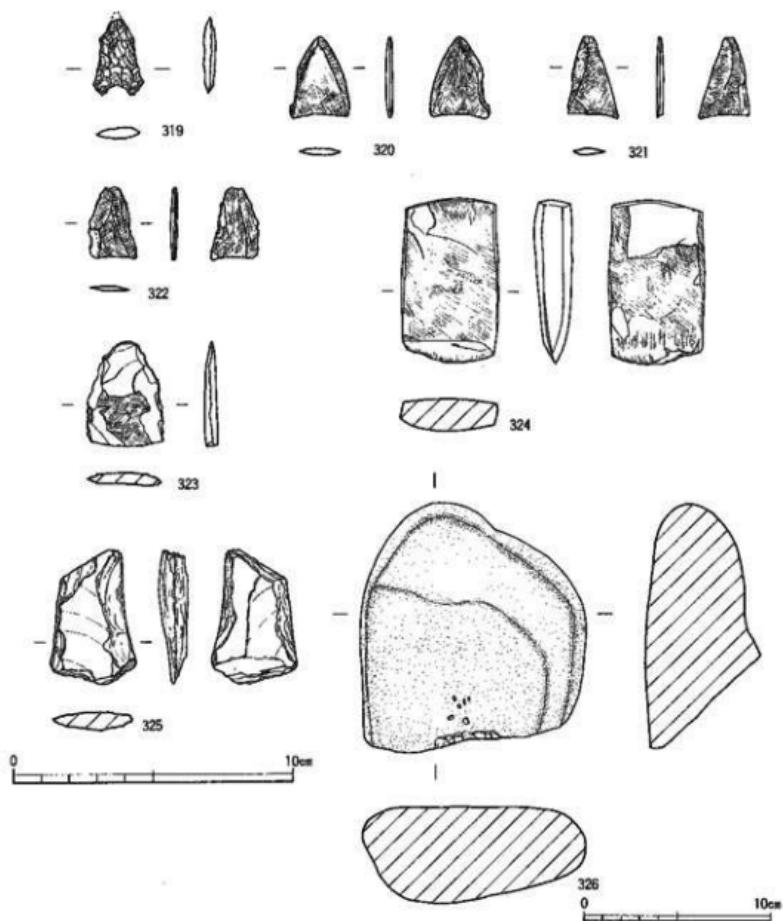
代後期に属するものであるが、松山式、指宿式、市来式等数種の型式が見られ、若干の時期差を含んでいる。該期の遺構が検出されなかった理由として、B区の調査面積が狭小であったことが第一に挙げられるが、ほ場整備事業や河川改修事業に伴う一連の丸谷地区遺跡群の調査においても、縄文時代の遺構・遺物はほとんど確認されておらず、わずかに前畠遺跡SC16と出土土器が見られるに過ぎない。本来的に分布が希薄であることもその要因の一つであろう。縄文時代中期以前については、2~3mと厚く堆積した御池ボラ層の下層となるため調査例が少ない。近辺の遺跡に目を向けると、屏風谷第1遺跡<sup>(1)</sup>で早期の疊群や後晩期の土器が検出されている。また、堂山遺跡<sup>(2)</sup>では押型文土器が出土している。いずれも丸谷地区遺跡群に対して一段高い段丘あるいは丘陵上に立地している。他の地域と同様に縄文時代の主たる活動域は、比較的標高の高い大地や丘陵上であったものと思われる。

#### ・弥生時代について

A・B両区から弥生時代中期から後期にかけての土器群が出土した。多くは包含層出土のもので、明確に遺構に伴うものは少ない。1は、いわゆる亀の甲タイプの壺で、中期前半に位置付けられよう。他の土器に比してひときわ精良な胎土で、焼成も良好で硬質である。撒入品の可能性もあり、今後周辺遺跡での類例の出土等に注目すべきものである。2は粗製の壺であるが、ほぼ水平となる口縁部形態などから1と同様の時期を考えておきたい。他の壺形土器は、上げ底の底部形態などから後期の所産と考えられる。

B区では、丹塗の須次式壺が出土している。また、逆L字形の口縁をもつもの(292~293)、肥後系の口縁部内面に張り出しを持つもの(290)、やや立ち上がり気味の口縁部とその下に刻み目突起を持つもの(286~289)、明瞭に「く」字形に屈曲する口縁を持つもの(299)など、中期から後期にかけての特徴を示すものが見られる。壺底部についても、300の充実した脚台を持つもの、301の脚台状の上げ底のものなど中期的なものと後期的なものが見られる。

弥生土器の中で、特に異色のものとして302~308の一群が上げられる。厚手で軟質の器壁、



第36図 本池B区出土遺物実測図(5) (石器, 319~325→1/2, 326→1/3)

粗雑な多条の三角突帯、突帯下部に貼り付けられる半円形状の粘土縫などがその特徴である。類例は、都城市大岩田村ノ前遺跡<sup>(3)</sup>、同市祝吉第二遺跡<sup>(4)</sup>、えびの市野久首遺跡<sup>(5)</sup>、同市本地原遺跡<sup>(6)</sup>、鹿児島県篆町前畠遺跡<sup>(7)</sup>など南九州内地部（山間部）の遺跡に見られる。大岩田村ノ前遺跡では、土坑（S C 3）から出土しており、共伴土器との検討から中期中葉の時期を当てている。本池遺跡B区出土の一群も、同様の時期を与えるならば、300の甕や311・312の壺等に共伴するものと考えられよう。

#### ・平安時代について

平安時代の遺物は、A区南東部に集中して出土しており、その量も他時代のものに比べ圧倒的に多い。16棟検出された掘立柱建物群のうち7棟（SA 1～7）はこの時代のものと思われる。2×3間を基本とし、柱穴の径が50cm以上と比較的規模の大きなものである。地形や遺構の分布状況から判断すると、更に調査区外南方へ広がりをもつものと思われる。

土師質壺形土器は、内面にヘラ削りが施され、口縁部は斜め外方に延び、張りのない胴部が特徴である。9世紀後半から10世紀前半に否定されよう。土師質の壺、皿、碗類も多く出土したが、形態的特徴から9世紀後半から10世紀前半に否定されよう。その中には高台内に格子目状の線刻をもつもの（113）、墨書きの見られるもの（131～141）が見られた。格子目状の線刻は「九字」と称され、道教の符号である。基本的には縦4本、横5本の格子状となる。悪魔を払い、願意が果たされるという意味合いを持つ<sup>(8)</sup>。本池遺跡出土のものは、焼成後に釘状のもので刻されたものと思われ、二重に、若干ズレた状態で施されている。墨書き土器は壺、皿、碗の底部外面あるいは体部外面に、一文字（一記号）が記されている。釈読し得たものには「奈」「廣」「觀」あるいは「勳」の文字が見られた。墨書き土器については、從来から人名、地名、職名、護符等の意味が想定され、出土する遺跡も寺院、官的施設が多いとされてきた。しかし、近年の研究により一般的集落（村落）からの出土が少なくないこと、祭祀的性格が強いことなどが指摘され、從来のイメージよりも文字の浸透が広く見られることが明らかになりつつある<sup>(9)</sup>。宮崎県内においても墨書き土器の存在が注目されつつあり、集成されていないもののその数は400例を超えるものと推定される<sup>(10)</sup>。今後、墨書きの釈読に加え出土遺構・遺跡の性格等を含めた検討が必要となろう。

須恵器は、供膳形態である碗、皿、蓋が見られ、その他壺、甕等も出土している。蓋の口縁端部の形態などから9世紀後半～10世紀前半の時期が与えられよう。壺には、タタキ調整のもの、ナデ調整のものが見られるが、193・194の錐状突帯壺は特に注目される。タタキ調整の壺肩部に錐状の縫突帯が貼り付けられる。県内に類例はなく、その產地、年代も更に慎重な検討を要する。県外の類例として、太宰府史跡第18次調査 S E 400下層出土須恵器壺が挙げられる<sup>(11)</sup>。肩部に突帯を持ち、9世紀前半の年代が与えられている。また、長野県飯田市恒川遺跡出土の四耳壺は、胴部にタタキ痕を持ち肩部には1条の突帯が貼り付けられる<sup>(12)</sup>。10～11世紀の年代が与えられている。本池遺跡出土のものは突帯の形態が異なり薄く錐状となるが、壺肩部への突帯貼り付けという意識は共通するものであり参考となろう。

・時期不明の遺構について

掘建柱建物群のうちSB8～16については、遺物を伴わず時期決定の根拠に欠ける。隣接する上大五郎遺跡では、二重の溝に区画された館跡が検出され、32棟の掘建柱建物群を確認した。桜島火山起源の文明ゴラとの関係をもとに、15世紀後半から16世紀にかけて、館の成立から解体までの過程を復元し得た<sup>40</sup>。館解体後は、溝等によって区画を行わない近世の村落景観が形成されていったものと思われる。本池遺跡において検出されたSB8～16の掘建柱建物は柱穴の検出面からの深さが浅いこと、棟方位が正方位に近いことなどから、現在のところは近世の所産と考えておきたい。

註

- (1) 都城市教育委員会 1992 「屏風谷第1遺跡」都城市文化財調査報告書第17集
- (2) 都城市教育委員会 1991 「堂山(南地区)遺跡」「平成2年度遺跡発掘調査概報」都城市文化財調査報告書第13集
- (3) 都城市教育委員会 1991 「大岩田村ノ前遺跡」都城市文化財調査報告書第14集
- (4) 都城市教育委員会 1982 「祝吉遺跡」都城市文化財調査報告書第2集
- (5) 宮崎県教育委員会 1994 「野久首遺跡」「九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)建設工事にともなう埋蔵文化財調査報告書」第2集
- (6) 宮崎県教育委員会 1994 「本地原遺跡」
- (7) 菱刈町教育委員会 1983 「前畠遺跡」
- (8) 高島英之 1994 「古代東国の村落と文字」「古代東国の民衆と社会」古代王権と交流2名著出版
- (9) 高島英之(8)前掲論文  
墨書き土器が一般集落にまで浸透しているとしても、文字本来の受容とは必ずしも結びつくものではなく、呪術的、魔力的、標識的記号としての色彩が強いことが指摘されている。
- (10) 宮崎市余り田遺跡(平成7年度宮崎県教育委員会調査、未報告)では、自然流路と思われる溝から200点を超す墨書き土器が出土している。えびの市昌妙寺遺跡(平成7年度えびの市教育委員会調査、未報告)では、埋没谷に流れ込んだ遺物群中に100点を超す墨書き土器が含まれていた。
- (11) 横田賢次郎 1979 「太宰府出土の土師器に関する覚書き(3)」「九州歴史資料館研究論集」5
- (12) 横崎彰一編 1979 「世界陶磁全集 2 日本古代」(小学館) p214掲載。
- (13) 都城市教育委員会 1994 「丸谷地区遺跡群・上大五郎遺跡」都城市文化財調査報告書第31集

第2表 宮崎県墨書き器・刻書き器出土遺跡一覧表

No.	遺跡名	出土構造	土器器種	点数	位置	記銘法	祝文
1	宮崎市 余り田	自然流路	土師坏・須恵輪	200 超	底外・体外	墨・刻書	日万、伴、寺、吉、得、内、人、定 十、井、大、木、古、開倉、伊益奉 天(則天文字) 他
2	陣ノ内	整穴住居	土師坏	1	体外	刻書	大
3	前原南	整穴住居	須恵壺	1	口縁外	刻書	磨
4	清武町 下田畠	整穴住居	土師坏	1	底外	墨書	宅
5	赤坂	整穴住居	土師坏	1	底内	刻書	大
6	辻	整穴住居	土師坏	1			
7	若宮田		須恵壺	1			
8	国富町 西下本庄	溝	土師坏	1	体内外	墨書	「女」(晴明桔梗印)、日(則 天文字)
9	新富町 上蘭	整穴住居	土師坏		底外	墨書	廣 他
10	都城市 上ノ園第2	包含層	須恵壺・土師坏	4	底外・体外	墨書	桑
11	中尾山・馬渡	包含層	黒色碗	1	体外	墨書	
12	本池	包含層	土師坏・黒色碗	11	底外・体外	墨書	奈、廣、勲か、川 他
13	ニタ元		土師坏	7	底外・体外	墨書	
14	都之城本丸跡		土師坏	1	体内・底外	墨書	(輪室)
15	不明	不明	土師坏	1	体外	墨書	青、天か
16	高原町 立山	表採	黒色碗	1	体外	墨書	大
えびの市							
17	水田原	包含層	土師坏・須恵壺	3	体外	墨書	長、
18	馬場田	溝・包含層	土師坏	4	体外	墨書	文、丘か、口か、打か
19	桑田	包含層	土師坏	1	体外	墨書	十
20	久見追B	土坑	土師坏	1	体外	墨書	
21	小路ノ下	土坑・柱穴	黒色碗・青磁碗	2	底外・体外	墨書	南か、下
22	法光寺	柱穴・包含層	土師坏・黒色碗	2	体外	墨書	可、光
23	上田代	包含層	土師坏	1	体外	墨書	大
24	竹之内	柱穴・包含層	土師坏・黒色碗	1	体外	墨書	賀か
25	妙見原	包含層	須恵壺	1	天井外	墨書	石、用、五、金、得、友、春、∞
26	昌明寺	埋没谷	土師坏・黒色碗	100 超		墨書	
串間市							
27	串間城	柱穴	土師坏	1	体内	墨書	(輪室)

\* 墨書・刻書き位置については、以下のように略した。 底外=底部外面、体外=体部外面

表3表 本池遺跡出土土器観察表(1)

件 序 號	種類	器種	出土 地點	法 長(cm)	調 査		色 調	胎 土	備 考
					外 面	内 面			
1 弥生 壺 A区 - - -					口部裏上面ヨコナダ、別口ヨコナダ	指痕底ヨコナダ	灰褐色	にぶい褐色	乳白色、白く光る砂粒、茶色の粒
2 弥生 壺 A区 - - -					スス付柄、風化気味	風化気味	灰褐色	にぶい黄褐色	透明に光る細粒砂、にぶい黄褐色
3 弥生 壺 A区 - - -					ナデ 口コナダ	ヨコナダ	微	微	黒色・褐色・白色・乳白色の粒、透明に光る粒
4 弥生 壺 A区 - - -					ヨコナダ	ヨコナダ 底ヨコナダ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	褐色・乳白色・灰色の粒
5 弥生 壺 A区 - - -					ヨコナダ ナデ	ヨコナダ	浅黃褐色	褐灰色・灰白色的粒	
6 弥生 壺 A区 - - -					ナデ、風化 氣味	ナデ、風化 氣味	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・淡褐色・にぶい褐色の粒	
7 鋸齒 削盤	壺	A区 16.0	-	-	ヨコナダ 一部斜付唇 斜の付目	ナデ、斜の ナデ後 斜の付目	にぶい褐色	にぶい黄褐色	灰色・淡褐色・褐色の粒
8 弥生 壺 A区 16.9	-	-			ナデ 風化気味、ス ス付唇、ナデ	ナデ 工具痕	にぶい褐色	灰褐色・淡褐色的粒	
9 弥生 壺 A区 - - -					ヨコ・斜のナデ	ヨコ・斜のナデ	にぶい褐色	黄褐色	褐色・灰褐色・黑色の粒
10 弥生 壺 A区 - 9 -	器 鉢				ナデ、温変 指痕底	工具による ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	茶・灰・灰白の粒、黒・透明の光沢
11 弥生 壺 A区 - 7.9 -	器 鉢				一概黒變 指痕底	ナデ 指痕底	にぶい褐色	褐褐色	茶・灰色・半透明の粒
12 弥生 壺 A区 15.5	7.8	19.5	-	-	指痕底、タテ方 角、1具ナデ 指痕底	指痕底、1具ナデ 指痕底	明赤褐色	褐	茶・茶・黑・赤褐色の粒
13 弥生 壺 A区 16.9	-	-			ナデ ミガキ	ヨコナダ タテの番ナデ	赤褐色	にぶい赤褐色	乳白色・灰褐色の粒
14 弥生 壺 A区 - - -					ヨコナダ	ヨコナダ	にぶい褐色	にぶい褐色	褐褐色・褐色の粒
15 弥生 壺 A区 - - -					ヨコナダ	ヨコナダ	浅黃褐色	にぶい黄褐色	黑色・褐色の粒
16 弥生 壺 A区 19.3	-	-			ヨコナダ、風化 斜の付目ナデ	ナデ	淡褐色	浅褐色	褐色・黑色の粒
17 弥生 壺 A区 19.6	-	-			ヨコナダ ヨコナダの上から ミガキ	丁寧なナデ	浅黃褐色	浅褐色	黑色・褐色の粒
18 弥生 壺 底部 A区 - 8.1 -					黒く変色 丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰白色	褐灰	茶・灰白・灰・半透明の粒
19 弥生 壺 底部 A区 - 4.6 -					ナデ、タテ ナデ付角のナデ	ナデ、タテ ナデ付角のナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	茶・灰・半透明の粒
20 弥生 高环 A区 - - -					ヨコナダ 一概風化	指痕、ヨコナダ 指痕付角、一部 ミガキ	浅黃褐色	灰白色	灰褐色・赤褐色・浅褐色・黑色の粒
21 弥生 高环 A区 - - -					ナデ	風化	浅黃褐色	灰白色	透明な光沢感、褐灰・赤褐色・灰褐色の粒
22 弥生 高环 A区 - - -					ヨコナダ ナデ、風化 氣味	ヨコナダ、タテ ナデ付角のナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	透明な光沢感、褐・灰白・褐灰の粒
23 弥生 高环 A区 - - -					ヨコナダ、ヨコ ナデ後タテ角 部にミガキ	ヨコナダ	浅黃褐色	浅黃褐色	灰白・褐灰・黑色・赤褐色の粒
24 弥生 高环 A区 - - -					ヨコナダ ナデ	ヨコナダ ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	黑色・淡褐色・赤褐色の粒
25 弥生 高环 A区 - - -					ヨコナダ	ヨコナダ 一部にミガキ	にぶい褐色	にぶい褐色	黑色・透明な光沢感、黑色・赤褐色・灰白色的粒

第4表 本池遺跡出土土器観察表(2)

種別	器種	出土 場所	法 量(cm)	内 面				色 調		貼 上	備 考	
				内 面 口沿	外 面 底面	外 面 基部	内 面 外 面 内 面					
26 弥生	器台	A区	-	-	ヨコナダ ヨコ、斜のナダ	ヨコ、タチ 斜のナダ 斜にミガキ	浅黄緑	浅黄緑	白色、黒色の光沢粒 底灰・黒色・灰褐色・赤褐色の粒			
27 弥生	器台	A区	底6	-	-	風化	ミガキ 黒雲母	浅黄緑	にぶい緑 浅黄緑	透明な光沢粒 灰白・灰褐色・黒色・茶色の粒		
28 弥生	土器 丸手	A区	5.3	3.2	4.7	ナダ	ナダ	明褐色	明赤褐色 暗赤褐色	淡青色・褐色の粒、黄褐色の粒		
29 弥生	土器 丸手	A区	6.0	-	-	ナダ	ナダ	にぶい緑	にぶい緑	白色・無色透明な光沢粒 褐色・灰白・底灰の粒		
30 弥生	土器 丸手	A区	-	-	ヨコナダ ヨコナダの邊一帯 ナダ	タチ、斜のナダ ナダ、指頭痕 一部粘土質	赤褐色	赤褐色	浅黄・明赤褐色・褐灰色の粒			
31 弥生	土器 丸手	A区	5	3.4	5.6	ナダ、指頭痕 一部粘土質	ヨコナダ	褐灰色 にぶい黄緑	にぶい黄緑	透明な光沢粒 褐灰色・底灰・灰褐色の粒		
32 弥生	杓子 取手	A区	-	-	-	ナダ 指頭痕	ナダ ヨコナダ	緑	緑	茶褐色の粒、微細な光沢粒		
33 土師質	壺 口縁	A区	底5	-	-	ヨコナダ タチナダ	ヨコナダ、 斜の粗なナダ 一帯黒	にぶい緑	にぶい緑	褐色・黒色の粒	平安時代	
34 土師質	壺 口縁 一部黒	A区	(25)	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ 指頭痕	にぶい緑	にぶい緑	白色に光る微細粒 褐色・底灰・明赤褐色の粒	平安時代	
35 土師質	壺 口縁 一部黒	A区	(25)	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ 粗なナダ	にぶい緑	にぶい緑	灰褐色・淡黄・黑色の粒	平安時代	
36 土師質	壺 口縁 一部黒	A区	(22)	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白色・淡黄・黑色の粒	平安時代	
37 上海質	壺	A区	-	-	-	指頭痕 ヨコナダ	工具跡 ヨコナダ	にぶい緑	にぶい緑	墨色・褐色の粒	平安時代	
38 土師質	壺	A区	(29)	-	-	黒底 ヨコナダ	黒底 工具ナダ	にぶい黄緑	灰白	白色に光る粒、褐色の粒	平安時代	
39 上海質	壺	A区	(26)	-	-	「黒底、ヨコナダ 工具跡、底灰」 ヨコナダ	黒底 ヨコナダ	にぶい黄緑	褐色・黒色の粒		平安時代	
40 土師質	壺	A区	-	-	-	スス付着 ヨコナダ	ヨコナダ	浅黄緑	浅黄緑	茶色・褐色の粒	平安時代	
41 土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコ方向の ハケ日 ヨコナダ	ヨコ方向の ハケ日 粗いナダ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	透明な光沢粒 にぶい褐色の粒	平安時代	
42 上海質	壺	A区	-	-	-	黒底 ヨコナダ	ヨコナダ	灰黃褐色	にぶい褐色	褐色・白色の粒	平安時代	
43 上海質	壺	A区	-	-	-	スス付着 ヨコ、タチ ナダ	ヨコナダ ヨコ、タチ ナダ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	白色・黒色の粒	平安時代	
44 上海質	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ 工具による 剥離の跡	ヨコナダ 工具による 剥離の跡	灰黃褐色	灰黃褐色	白く光る微細粒、淡黄・灰色の粒	平安時代	
45 上海質	壺	A区	-	-	-	ナダ ヨコ方向の ハケ日	ヨコ方向の ハケ日 一部ナダ	にぶい赤褐色	褐灰色	褐灰色・灰色の粒	平安時代	
46 土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ ヨチ方向の ナダ	ヨコナダ ヨチ方向の ナダ	浅黄緑	浅黄緑	透明な光沢粒、灰色・褐色・淡黄色の粒	平安時代	
47 土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ ヨコナダ	工具ナダ ヨコナダ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	透明な光沢粒、赤褐色、淡黄色	平安時代	
48 上海質	壺	A区	(26)	-	-	ヨコナダ スス付着	ヨコナダ ヨチ方向の ナダ	緑	緑	透明に光る繊維粒 底灰・褐灰色・にぶい褐色の粒	平安時代	
49 土師質	壺	A区	(20)	-	-	ナダ スス付着	ヨコナダ ナダ スス付着	褐灰	にぶい緑	灰色・白色の光沢粒	平安時代	
50 土師質	壺	A区	-	-	-	ナダ、タチ ヨコ方向のハ ケ日	ヨコナダ ナダ ヨチ方向のナ ダ 変形的ナダ ケ日	にぶい緑	にぶい緑	白色・淡黄・透明な光沢粒 底白・褐色の粒	平安時代	

第5表 本池遺跡出土土器観察表(3)

件 番	種別	器種	出土 場所	法 量(cm)	調 査			地 質	地 下 土	備 考		
					外 面	内 面	外 面					
51	土器質	壺	A区(25)	-	-	ヨコナデ	工具痕 ヨコナデ	にぶい程	にぶい程	にぶい赤褐色・灰色・褐色の粒	平安時代	
52	土器質	壺	A区	-	-	スス付蓋	ケズリ 工具ナデ ヨコナデ	浅黄	浅黄	黒色・白色の光沢粒	平安時代	
53	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	にぶい程	にぶい赤褐色	黒色・乳白色の粒	平安時代	
54	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい程	にぶい赤褐色	透明に光る細緻粒 灰質・にぶい褐色	平安時代	
55	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ、タ ナデ	タナデ ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	にぶい程	にぶい赤褐色	黒色・乳白色の粒	平安時代	
56	土器質	壺	A区(15)	-	-	ヨコ・斜のナ ダ	上貝による 斜のナデ ヨコナデ	にぶい程	にぶい赤褐色	灰色・褐色の粒	平安時代	
57	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	明赤褐色	程	白色の光沢粒、淡青、灰色の粒	平安時代	
58	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 工具痕有り	浅黄程	浅黄程	透明な光沢粒 灰色・淡青の粒	平安時代	
59	土器質	壺	A区	-	-	ヨコナデ スス付蓋	相ひヨコナ デ	にぶい程	にぶい程	褐色の粒	平安時代	
60	土器質	壺	A区(23)	-	-	ヨコナデ ヨコナデ後、斜 のナデ、無質	相なナデ、 程に割り	にぶい程	にぶい程	黒色・白色の光沢粒	平安時代	
61	土器質	壺	A区	-	-	ヨコ・斜ナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色	にぶい程	灰白・茶褐色・半透明の粒 透明の光沢粒	平安時代	
62	土器質	壺	A区	-	-	斜の平行タ キ	円弧當て具板 風化質	にぶい黄褐色	浅黄褐色	茶・灰色・半透明の粒	平安時代	
63	土器質	壺	A区	-	-	斜の平行タ キ	円弧當て具板 風化質	にぶい青褐色	にぶい褐色	灰・茶・半透明の粒 透明の光沢粒	平安時代	
64	土器質	壺	A区	-	-	斜のタキ ナデ	凹面よりヨコ ナデのタキ	浅黄褐色	にぶい程	赤褐色・半透明・茶・灰色の粒	平安時代	
65	土器質	壺	A区	-	-	斜方向のハ ケ目	ナデ	にぶい赤褐色	灰褐色	乳白色・灰白・半透明の粒 黒の光沢粒	平安時代	
66	土器質	壺	A区	-	-	ヨコのハケ目 のハナタキ斜 方向のタキ	斜方向のナデ	灰赤	赤褐色	茶色・乳白色的粒	平安時代	
67	土器質	壺	A区	-	-	斜の後タキ ハナタキのハケ 目	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	灰・茶褐色の粒	平安時代	
68	土器質	壺	A区	-	-	斜方向の平 行タキタキ、 斜方向のタキ	ヨコナデ	浅黄褐色	にぶい黄褐色	茶・灰・半透明の粒 黒の光沢粒	平安時代	
69	土器質	壺	A区	-	-	ヨコ方の 平行タキタキ、 スス付蓋	ヨコ方の 平行タキタキ、 斜方向のナデ	にぶい程	にぶい程	乳白色・半透明の粒	平安時代	
70	土器質	壺	A区	-	-	斜方のヨコタ キ	当て其底	灰白	明褐色	茶・灰・灰白の粒	平安時代	
71	土器質	壺	A区	-	-	斜・タテ方角 の平行タキタキ	ヨコナデ 場所によって 当て其底	灰白	灰褐色	灰白・乳白色・茶・灰色の粒 半透明の光沢粒	平安時代	
72	土器質	壺	A区(3.6)	7.1	6.2	ヨコナデ 指あり、底部は へり切り仕ナデ	ヨコナデ	にぶい程	灰褐色	茶色・黑色・透明に光る粒		
73	土器質	壺	A区(3.0)	8.5	5.0	ヨコナデ、ヨコナ デ、ハラ切り	ヨコナデ ヨコナデ ハラ切り	浅黄褐色	浅黄褐色	茶色・黑色・褐色・乳白色的粒		
74	土器質	壺	A区	(6)	5.7	(4.6)	ヨコナデ、底 部へラ切り 後火継性	ヨコナデ 新のハケは	灰褐色	灰褐色	赤褐色・黑色の粒	
75	土器質	壺	A区	-	-	-	-	根 黄褐色	黄褐色	淡青・褐灰・透明な光沢粒		

第6表 本池遺跡出土土器観察表(4)

種別	器種	出土 地点	法 量(cm)	面 形		色 調	胎 土	備 考
				外 面	内 面			
土器質	壺	A区 (3.6)	4.5 (5.5)	ヨコナデ 底部へラ切り 後付ナデ	ヨコナデ ヨコナデ 後付ナデ	にぶい黄緑 にぶい黄緑	透明に光る細沙粒 淡黄・灰色の粒	
土器質	壺	A区 (2.9)	4.5 (5.1)	ナデ 一部ス付有 底部へラ切り	ナデ 変色し ている、ス 付電動あり	灰白	灰白	赤褐色、透明光沢粒、黒色の粒
土器質	壺	A区 (2.9)	4.6 (4.6)	ヨコナデ 底部へ貼付け ナデ	ヨコナデ	橙	橙	微細な赤褐色、灰色の粒
土器質	壺	A区 (2.9)	4.5 (5.1)	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	透明・半透明の光沢粒 乳白色・赤褐色・黒色の粒
土器質	壺	A区 (2.9)	-	ナデ	ナデ	淡黄緑	にぶい黄緑	赤褐色・乳白色・黒色の粒
土器質	壺	A区 (3.3)	-	-	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄緑	赤褐色の粒、半透明・黒色の光沢粒 乳白色・黑色の粒
土器質	壺 束形	A区 (2.6)	5.5 4.1	ヨコナデ ヘラ削 り付ナデ、底部へ ラ切り後付ナデ	ヨコナデ	浅橙	橙	赤褐色・灰色の粒
土器質	壺	A区 (3.6)	-	-	ヨコナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	灰白色・乳白色・赤褐色の粒 透明・半透明の光沢粒
土器質	壺	A区 (3.9)	-	-	ヨコナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	黑色・乳白色・微細な光沢粒
土器質	壺	A区 (2.9)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄緑	半透明・墨色の光沢粒 赤褐色・乳白色的粒
土器質	壺	A区 (2.2)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄緑	透明・黒色の光沢粒 灰白色・赤褐色の粒
土器質	壺	A区 (2.6)	-	-	圓板ナデ	圓板ナデ	橙	透明・黒色の光沢粒 灰白色・赤褐色の粒
土器質	壺	A区 (3.9)	-	-	ヨコナデ 底部へラ切り 後付ナデ	ナデ	にぶい黄緑 淡黄緑	赤褐色の粒 透明・半透明の光沢粒
土器質	壺	A区 -	-	-	ナデ	ナデ	淡黄	淡黄
土器質	壺	A区 -	-	-	ヨコナデ	淡黄	淡黄	半透明光沢粒、黒色の粒
土器質	壺	A区 -	-	-	ヨコナデ ス付有	淡黄緑	褐色 にぶい赤褐色、淡黄の粒 黑色・白色の光沢粒	
土器質	壺	A区 -	-	-	ヨコナデ ス付有	淡黄緑	淡黄緑	にぶい赤褐色、褐色、淡黄の粒 黑色・白色の光沢粒
土器質	壺	A区 -	-	-	ヨコナデ	内凹、ミガキ	灰	灰・赤褐色の粒、微細な光沢粒
土器質	壺	A区 (2.9)	7.29 (7.4)	ヨコナデ 底部へラ 切り後付ナデ	ヨコナデの上 に不定凹ナデ	灰褐色	明褐灰	乳白色・黒い粒
土器質	壺	A区 -	6.4	-	ヨコナデ 底部へラ切り	ナデ	橙	半透明の光沢粒、黒色・乳白色的粒
土器質	壺	A区 -	6.4	-	ナデ 底へラ 切り無	圓板ナデ	淡白	黑色・半透明光沢粒 赤褐色粒
土器質	壺	A区 6.4	-	ヨコナデ 底部へラ切り	ナデ	にぶい黄緑	淡黄	半透明の光沢粒、赤褐色生い粒
土器質	壺	A区 -	5.8	-	ヨコナデ 底部へラ切り	ナデ	淡黄緑	半透明の光沢粒、黑色・灰白色の粒
土器質	壺	A区 -	5.3	-	ナデ 底部へラ切り	ナデ	淡黄緑	赤褐色・半透明光沢粒
土器質	壺	A区 -	5.9	-	ヨコナデ 底部へラ切り の後ナデ	ナデ	橙	乳白色・赤褐色の粒

第7表 本池遺跡出土土器観察表(5)

番 号	種別	器種	出土 場所	法 量(cm)	調 査			色	調 査	胎 土	備 考	
					内 面	外 面	内 面					
101	土器質	壺	A区	- (6.1)	-	ヨコナデ ハラ切	ナデ 一箇ス付着	にぶい黄緑	にぶい黄緑	赤褐色の粒、半透明光沢粒		
102	土器質	壺	A区	- 6.25	-	ヨコナデ 底部へラ 切り	ナデ	浅黄緑	暗	黒色・半透明光沢粒		
103	土器質	壺	A区	- (6.4)	-	ヨコナデ 底部へラ 切り	ナデ	暗	暗	赤褐色の粒、微細な乳白色の粒		
104	土器質	壺	A区	- 5.5	-	ヨコナデ 底部へラ 切り	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	半透明・黒色の光沢粒、乳白色の粒		
105	土器質	壺	A区	- (5.2)	-	ナデ 底部へラ 切り	四輪ナデ ナデ	暗	暗灰	微細な透明光沢粒 黒色光沢粒		
106	土器質	壺	A区	- 5.95	-	ナデ	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	赤褐色粒、微細な黑色光沢粒		
107	土器質	高台 付瓶	A区	(3.9)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄緑	灰色・褐色・淡黄の粒	
108	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.4)	-	ヨコナデ	ミガキ 丹塗り	にぶい暗	暗	灰白・灰色・淡黄の粒 透明に光る細砂粒		
109	土器質	高台 付瓶	A区	- (7.2)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	暗	暗	透明に光る細砂粒、淡黄・灰色の粒		
110	土器質	高台 付瓶	A区	- (7.1)	-	高台内、ヘラ切 りの底部突起 ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄緑	黒色の粒		
111	土器質	高台 付瓶	A区	- (7.7)	-	高台内、ヘラ切 りの底部突起 ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい暗	にぶい暗	透明・金色に光る細砂粒 淡黄・灰色の粒		
112	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.3)	-	墨塗 ヨコナデ	ヨコナデ	暗	暗	褐色・淡黄・暗灰の粒		
113	土器質	高台 付瓶	A区	- (9.3)	-	表面による方錐状の 凹凸が認められる ヨコナデ	ミガキ	明赤暗	明赤暗	金色に光る細砂粒、淡黄・灰色の粒		
114	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.7)	-	高台内、ヘラ切 りによる底付突起 ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄緑	黒色・茶色の粒		
115	土器質	高台 付瓶	A区	- (8.5)	-	ヨコナデ	内黒	にぶい暗	黒暗	黒色の粒、微細な光沢粒		
116	土器質	高台 付瓶	A区	- (7.8)	-	高台内、ヘラ切 りによる底付突起 ヨコナデ	ヘタミガキ	にぶい黄緑	黒暗	透明の光沢粒、灰・乳白色の粒		
117	土器質	高台 付瓶	A区	- (9.4)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄緑	透明に光る細砂粒		
118	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.9)	-	ヨコナデ	内黒 高台内ナーベル 風化気味	暗	暗褐 にぶい黄緑	褐色の粒		
119	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.4)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい暗	にぶい暗	淡黄の粒、褐色・茶色の粒		
120	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.9)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	黄暗	黄暗	半透明に光る細砂粒、褐色・淡黄 の粒		
121	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.7)	-	高台内、ヘラ 切り底付突起 ヨコナデ	ヨコナデ	暗	暗	乳白色の粒、透明に光る粒		
122	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.4)	-	高台内、ヘラ切 りヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	にぶい黄緑	透明に光る粒、黒色の粒		
123	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	暗	浅黄暗	無色透明な光沢粒、褐色・灰色・ 淡黄の粒		
124	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.4)	-	脱製造工具を 當てた跡あり ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄暗	褐色・白色的粒		
125	土器質	高台 付瓶	A区	- (6.8)	-	工具痕あり ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄緑	浅黄暗	淡黄・灰色の粒		

第8表 本池遺跡出土土器観察表(6)

番号	種別	器種	出土地点	法量(cm)	調査		色調		胎土	備考	
					内面	外面	内面	外面			
126	土師質	高台付瓶	A区	-	7.1	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	褐色・灰色の粒、透明に光る繊維粒
127	土師質	高台付瓶	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	透明に光る繊維粒、褐色・灰色の粒
128	土師質	高台付瓶	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	淡黄橙	褐色・褐色の粒
129	土師質	高台付瓶	A区	-	-	-	ヨコナデ	内面 ハラミガキ ヨコナデ	橙	黒褐	乳白色、茶褐色の粒。微細な光沢粒
130	土師質	高台付瓶	A区	-	-	-	ヨコナデ	底部へラ切り	にぶい黄	灰黄	褐色・淡黄・灰色の粒
131	土師質	壺	A区	-	-	-	底部、ヘラ切り ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄	微細な赤褐色の砂粒、黒の光沢粒
132	土師質	壺	A区	-	-	-	底部、側面 ヨコナデ	ナデ	橙	橙	半褐色の粒。透明・黒の光沢粒
133	土師質	壺	A区	-	6.0	-	底部、ヘラ切り ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤	基・黒褐色の粒
134	土師質	壺	A区	-	6.2	-	底部へラ切り 後ナテ、側面 スカリ、ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄	茶褐色の粒
135	土師質	壺	A区	-	5.4	-	底部へラ切り ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄	半褐色の粒、微細な赤褐色・茶褐色の粒
136	土師質	壺	A区	-	5.6	-	底部へラ切り ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	浅褐色の粒
137	土師質	壺	A区	12	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	赤褐色・灰色の粒、微細な光沢粒
138	土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ 擦痕あり	ナデ	にぶい橙	灰白色	赤褐色・灰色の粒 半透明光沢粒
139	土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ 擦痕?	ヨコナデ	浅黄	浅黄	赤褐色の粒、才透明粒
140	土師質	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄 にぶい黄	赤褐色の粒	擦痕土器
141	土師質	高台付瓶	A区	12.0	5.1	-	ヨコナデ	内面 ハラミガキ 底部	橙 黒褐	黑	基色の粒、茶褐色の粒
142	土師質	碗	A区	13.0	-	-	ヨコナデ 盤面	内面 ミガキ	黒褐 灰黄	黑	乳白色・灰色の粒
143	土師質	碗	A区	12.8	-	-	ヨコナデ 内面	内面 ミガキ	にぶい黄	黑	茶・乳白色的粒
144	土師質	碗	A区	15.4	-	-	ヨコナデ 内面	内面 ミガキ	橙	黑	灰・茶色の粒
145	土師質	高台付瓶	A区	-	5.8	-	ヨコナデ 底部	内面 ナデ後へラ ミガキ	にぶい橙 黒褐	黑	赤褐色・乳白色・灰色の粒 透明の光沢粒
146	土師質	鉢	A区	-	-	-	ヨコナデ	内面 ミガキ	にぶい橙 黒	茶・灰色の粒	
147	土師質	鉢	A区	15.2	-	-	ヨコナデ 内面	内面 ナデ後へラ ミガキ	にぶい黄	橙	赤褐色の粒
148	土師質	鉢	A区	15.0	-	-	ナデ 底部	布底	橙	橙	微細な乳白色・光沢粒
149	土師質	鉢	A区	15.0	-	-	ナデ	布底	橙	橙	微細な乳白色・光沢粒
150	土師質	鉢	A区	15.2	-	-	粗いナデ	布底	橙	橙	褐色の粒

第9表 本池遺跡出土土器観察表(7)

番号	種別	器種	出土地点	法量(cm)	測定			色調	胎土	備考	
					内面 内面	外表面 外表面	内面 内面				
151	土器質	鉢	A区	11.2	-	-	口唇部直いナダ 身のナダ 口部物付帶	布底	褐 に赤い模 に赤い模	深褐色な乳白色の粒	
152	土器質	鉢	A区	-	-	-	口唇部斜めのナダ 粗いナダ	布底	褐	褐 灰色・赤褐色・乳白色粒、透明光沢板	
153	土器質	鉢	A区	-	-	-	身の直いナダ	布底	に赤い模	褐色の粒	
154	土器質	鉢	A区	-	-	-	粗いナダ	布底 風化氣味	褐	褐色・乳白色の粒	
155	土器質	鉢	A区	-	-	-	ナダ 指痕痕	布底	褐 に赤い模	半透明・透明・光沢・乳白色の粒	
156	土器質	鉢	A区	-	-	-	口唇部タ方 身の直いナダ 粗いナダ	布底	褐	褐 褐色の小石、灰色の粒	
157	土器質	鉢	A区	-	-	-	ヨコナダ	布底	黄褐 黄棕	褐色の粒、微細な乳白色・光沢粒	
158	土器質	鉢	A区	-	-	-	身のトゲ 風化氣味	布底 風化氣味	淡褐 褐	赤褐色の粒、乳白色の粒	
159	須恵器	片口盃	A区	3.75	2.95	1.2	ナダ、風化 ヨコナダ	指輪ナダ	黄灰	灰白 精良	
160	須恵器	片口盃	A区	4.5	-	-	ヘラ切り	指輪ナダ 指頭底	灰白	灰白・黄灰の粒	
161	須恵器	片口盃	A区	15.3	-	-	ヘラ切り 回転ナダ	回転ナダ	灰白	灰白色粒、黑色粒、半透明光沢粒	
162	須恵器	片口盃	A区	10.0	-	-	ヘラ切り 回転ナダ	回転ナダ	に赤い模 黄褐	きめ細かい、褐色・灰色の粒	
163	須恵器	片口盃	A区	-	-	-	ナダ	ナダ	灰白	灰白色粒及び、微細な透明光沢粒	
164	須恵器	片口盃	A区	-	-	-	回転ナダ	回転ナダ	灰白	灰白 乳白色粒	
165	須恵器	片口盃	A区	-	-	-	ナダ 浅い沈線	ナダ 風化	灰白	赤褐色粒	
166	須恵器	片口盃	A区	-	-	-	回転ナダ	回転ナダ	灰白	光沢粒、灰白色粒	
167	須恵器	坏	A区	12.6	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ 指頭底	に赤い模 灰青	乳白色粒、豐頗な光沢粒	
168	須恵器	坏	A区	12.2	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ	黄灰	褐灰色粒、微細な乳白色粒	
169	須恵器	坏	A区	-	-	-	ナダ、指頭底 ヨコナダ	ヨコナダ	灰白	灰白 褐灰色粒、微細な乳白色粒	
170	須恵器	坏	A区	-	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ	灰白	灰白 乳白色粒	
171	須恵器	坏	A区	-	-	-	ナダ	ナダ	黄灰	乳白色粒、半透明光沢粒	
172	須恵器	坏	A区	-	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ	灰青	精良	
173	須恵器	高台付坏	A区	-	8.2	-	ヨコナダ ヘラ切り	ヨコナダ	灰	黄灰 光沢粒	
174	須恵器	高台付坏	A区	-	7.5	-	ヨコナダ ヘラ切り	ヨコナダ	灰白	灰褐色・灰色の粒	
175	須恵器	高台付坏	A区	8.0	-	-	ヨコナダ、ヘ ラ切り、高台 内側記号	ヨコナダ	灰白	灰白 精良	

第10表 本池遺跡出土土器觀察表(8)

件 号	種別	器種	出土 地点	法 量(cm) 口径 底径 高さ	調 査			色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	内 面		
176	須恵器	高台付 耳	A区	- (8.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄	灰黄 にぶい青緑	精良	
177	須恵器	高台付 耳	A区	- (9.0)	-	ヨコナデ 鰯なナデ	ヨコナデ ナデ	灰黄	灰黄	褐色・微細な乳白色、光沢の粒	
178	須恵器	高台付 耳	A区	- (8.9)	-	ヨコナデ	ナデ	灰	灰	微細な乳白色の粒	
179	須恵器	壺	A区	加8	-	ナデ 筋子目タキ	ナデ 筋て具痕	灰 灰	灰 灰	精良	
180	須恵器	壺	A区	加8	-	ナデ	ナデ	灰	灰	黒・乳白色の砂粒	
181	須恵器	壺	A区	加8	-	ナデ	ナデ	灰	灰	灰・灰褐色の粒	
182	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ	ナデ	にぶい青緑	にぶい青緑	精良	
183	須恵器	壺	A区	(6.0)	-	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄 灰黄	茶・灰・半透明の粒	
184	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ消し 平行タキ	ナデ消し 平行タキ	灰黄 黄灰	灰黄	精良	
185	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ	ナデ	浅黄 にぶい青緑	浅黄	茶・灰色の粒	
186	須恵器	壺	A区	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄	灰白	茶・灰色の粒	
187	須恵器	壺	A区	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 指痕似	灰	灰	灰・乳白色半透明の粒	
188	須恵器	壺	A区	-	-	ヨコナデ 筋子目タキ	ヨコナデ 円錐あて具痕	灰 灰白	灰	灰・乳白色的粒	
189	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ	ナデ	灰オーブ 褐灰	灰灰	半透明の光沢粒、丸い黒色の粒	
190	須恵器	壺	A区	- (8.4)	-	ナデ 沈殿	ナデ	黄灰 オリーブ	灰黄 灰灰	半透明光沢粒、丸い墨色の粒	
191	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ 自然胎	自然胎 ナデ	浅黄 照相	にぶい赤褐	灰褐色な乳白色の粒	
192	須恵器	壺	A区	-	-	ナデ 自然胎	ヨコナデ	淡黄 にぶい青	灰黄	灰褐色・乳白色的粒	
193	須恵器	壺	A区	-	-	筋子目タキ ヨコナデ	筋子目タキ ナデ	灰	灰黄	乳白色粒、黒色の粒、赤褐色粒、光沢粒	
194	須恵器	壺	A区	-	-	筋子目タキ ヨコナデ	タキの上を ナデ	灰	灰黄	微細な乳白色粒、光沢粒、丸い墨色の粒	
195	須恵器	壺	A区	- (11.0)	-	ヘラ削り後 ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰	褐灰 灰灰	乳白色・黒色の粒、半透明光沢粒	
196	須恵器	壺	A区	- (8.5)	-	ヘラ削り後 ヨコナデ 切りの餘ナデ	ナデ	灰黄	褐灰 灰黄	乳白色粒、灰色粒、半透明光沢粒	
197	須恵器	壺	A区	- (9.0)	-	筋子目タキ ナデ スズ村	ナデ、指痕 炭化物	灰	灰	乳白色の粒、丸い黒色の粒、半透明光沢粒	
198	須恵器	壺	A区	- (9.0)	-	かき目	板状工具によ るヨコナデ ナデ	灰	灰 灰	乳白色粒、赤褐色粒	
199	須恵器	壺	A区	- (9.0)	-	筋子目タキ ナデ	ナデ	褐灰 灰	赤褐色粒、乳白色粒、半透明光沢粒		
200	須恵器	壺	A区	-	-	タケ方柄の平 行タキ ヨコナデ	タケ方柄の平 行タキ ヨコナデ	灰	灰	赤褐色の粒、灰白の粒	

第11表 本池遺跡出土土器観察表（9）

M 番	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)	内 面		外 面		色	調 査	備 考
					口徑	底径	器高	外 面	内 面		
201	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ、窓て 具ナタラ方向の 窓ナタキ	ヨコナダ、内面 凹出からナタシ 具ナタキ	灰黄 灰	灰	赤褐色・灰白の粒
202	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ 柄子付タスキ	ハラ切り 円弧面で具窓	灰黄褐 灰黄	灰黄褐 灰黄	乳白色・灰色の粒、透明光沢
203	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ	ヨコナダの後 ナダ	灰黄褐	灰黄褐	乳白色・灰色の粒、透明光沢
204	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ	ヨコナダ	に赤い青緑	灰黄褐	灰色粒
205	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナダ 白熱胎	ナダ 白熱胎	灰黄	灰黄 灰黄	黒い粒
206	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナダ 平行タスキ	ナダ方向のあ る具窓 円弧面で具窓	灰 暗灰 灰	灰 暗灰 灰	灰・灰褐色・乳白色の粒
207	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナダ	ナダ	灰	灰	精良
208	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナダ、凹凸底、 柄ナタラタスキ	ヨコナダ 波状内付窓 柄ナタラタスキ	褐灰	褐灰 灰黄褐	精良
209	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナダ 平行タスキ	ナダ、ナダ方 向の凹具窓、 円弧面で具窓	暗灰 灰	暗灰 灰	灰色の粒
210	須恵器	壺	A区	-	-	-	横子目タスキ	円弧面で具窓	灰灰	灰灰	褐色の粒、黑色・半透明の光沢 及び微細な乳白色の粒
211	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	浅黄	浅黄	精良
212	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	灰白	灰白	精良
213	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	灰	灰	精良
214	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	灰オリーブ	灰オリーブ	精良
215	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	灰オリーブ	灰オリーブ	精良
216	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉 貯入	施釉 貯入	灰オリーブ	灰オリーブ	精良
217	青磁	碗	A区	-	5.0	-	施釉 他的日高台 窓基	施釉	オリーブ灰 オリーブ灰	精良	越州窓
218	青磁	碗	A区	-	5.0	-	他の日高台 施釉	施釉	灰オリーブ 灰オリーブ	精良	越州窓
219	青磁	皿	A区	-	5.0	-	施釉 貯入	施の日高台ハギ 施釉 貯入	灰オリーブ 灰オリーブ	精良	越州窓
220	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉 模花	施釉	灰	灰	精良
221	白磁	碗	A区	-	-	-	玉附、L1縫 施釉	施釉	白	白	精良
222	白磁	碗	A区	-	-	-	下縫、口縫 施釉	施釉	白	白	精良
223	白磁	碗	A区	-	-	-	玉縫、口縫 施釉	施釉	白	白	精良
224	白磁	碗	A区	-	約2	-	施釉 窓基	施釉	白	白	精良
225	白磁	碗	A区	-	約2	-	他の日高台 施釉 窓基	施釉	白	白	精良

第12表 本池遺跡出土土器観察表 (10)

件 名	種別	器種	出土 地點	法 長 (cm)	調 整		色 調			地 土	備 考	
					外 面	内 面	外 面	内 面	外 面			
225	白磁	碗	A区	-	-	-	施釉 施の日高台 貢入・高台	施釉 貢入	白	白	精良	中國產
227	白磁	瓶	A区	-	(9)	-	施釉 施の日高台 貢入	ナデ	白	白	精良・微細な黒い粒	
228	陶器	盃	A区	-	(6)	-	ヨコナデ 指紋板	ヨコナデ 指紋板	にぶい赤褐	灰黄褐	乳白色・赤褐色・深褐色・光沢板	
261	绳文	深鉢	B区	-	-	-	横縞文(深鉢 横縞文)眞山 眞山	貝殻条痕	明赤褐 灰褐	明赤褐 灰褐	乳白色・灰色の粒・透明・半透明 黒色の光沢板	松山式
262	绳文	深鉢	B区	-	-	-	横縞文(横縞 文)エリヒス 横縞文・指紋 板	貝殻条痕 灰化物付着	明赤褐 にぶい粒	灰黄褐	灰褐色・赤褐色の粒・透明・半透明 黒色の光沢板	松山式
263	绳文	深鉢	B区	-	-	-	横縞文(横縞 文)ヨコナデ ヨコナデ	ナデ	赤褐 灰褐	灰褐	透明・半透明・黒色の光沢板 灰白色の粒	松山式
264	绳文	深鉢	B区	-	-	-	横縞文(横縞 文)横縞文 横縞文	横縞文(横縞 文)横縞文	黑褐	明赤褐	半透明の光沢板・乳白色・褐色の粒	指宿式
265	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ナダ 横縞文、対冲文	ナデ	粒	粒	半透明の光沢板・赤褐色の粒・乳 白色の粒・褐色の光沢板及び微細 な黒斑	指宿式
266	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ	ナデ	粒	粒	透明・半透明の光沢板・赤褐色・ 灰色の粒・乳白色的粒	指宿式
267	绳文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 浅い沈線文	貝殻条痕	明赤褐 粒	粒	赤褐色・灰・乳白色・半透明の粒 微細な光沢板	指宿式
268	绳文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 2条の沈線文	貝殻条痕	粒	明褐	灰・茶・乳白色の粒 微細な光沢板	指宿式
269	绳文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 沈線文	貝殻条痕	明褐	明赤褐	赤褐色・乳白色・灰色の粒	指宿式
270	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ナデの後沈線	斜のナデ	粒	明赤褐	灰色・乳白色の粒	指宿式
271	绳文	深鉢	B区	-	-	-	斜突文	斜のナデ	黑褐	にぶい赤褐	茶・灰・乳白色の粒 微細な砂粒が多い	指宿式
272	绳文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面貝殻 刺突文・凹面 ナデ	ヨコナデ	粒	にぶい赤褐	透明・半透明の光沢板・及び斑端 を乳白色的粒	市来式
273	绳文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面貝殻 刺突文・凹面 貝殻	貝殻条痕	粒	にぶい粒	透明・半透明・黒色の光沢板 赤褐色の粒	市来式
274	绳文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面貝殻 刺突文・凹面 貝殻	ヨコナデ	粒	粒	半透明の光沢板 微細な乳白色の粒	市来式
275	绳文	深鉢	B区	-	-	-	直底口接 ヨコナデ・凹面 張付安瓿	ヨコナデ	灰褐 にぶい粒	にぶい粒	透明・半透明の光沢板 赤褐色・乳白色の粒	
276	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐 黑褐	にぶい赤褐	微細な透明・半透明の光沢板 乳白色の粒	
277	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ 沈線	ナデ 凹面	粒 にぶい粒	灰褐	黑色の光沢板・半透明光沢板	
278	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 斜のナデ	灰褐 粒	粒	赤褐色・淡黄色の粒 半透明・黑色の光沢板	
279	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ	貝殻条痕	にぶい粒	灰黄褐 にぶい黄褐	黄色の粒・褐色の粒	
280	绳文	深鉢	B区	-	-	-	ミガキ	丁字なナデ	褐 にぶい赤褐	灰褐 黑褐	乳白色・半透明・灰色の粒 黒・透明の光沢板	
281	弥生	壺	B区 SA1	-	-	-	ヨコナデ ナデ	ナデ	相灰	淡黄	茶色・灰色の粒・黒の光沢粒	
282	弥生	火 盆形	B区 SC1	仰身	仰身	灰褐	ヨコナデ ミガキ 難燃安	ヨコナデ ナデ	にぶい粒	にぶい粒	茶・灰・乳白色の粒 半透明・透明の光沢板	

第13表 本池遺跡出土土器観察表 (11)

H M N 鉢	種類	器種	出土 場所	法 量 (cm) 口径 底径 高さ 器高	調 整			色 調 内面	胎 土	備 考
					外 面	内 面	外 面			
283	弥生	壺	B区 SC5	- - -	タテ・横のナデ ス付有	ヨコ・横のナデ	黄褐色 にぶい黄褐色	にぶい橙	茶・灰色の粒、黒・透明な光沢粒	
284	弥生	壺	B区	- - -	金助先口縁 ナデ	ナデ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	透明・半透明、黒色の光沢粒 乳白色の粒	片側 瓶式
285	弥生	壺	B区	- - -	ナデ	ナデ	にぶい 赤褐色	橙	乳白色の粒、透明・半透明 微細な黒色の光沢粒	瓶式 分離
286	弥生	壺	B区 009	- -	ナデ 桶内目突唇 ス付有	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	茶・灰色の粒 黒い透明、半透明の光沢粒	
287	弥生	壺	B区	- - -	ナデ 桶内目突唇	ナデ 指振	橙	にぶい黄褐色	茶・灰色・半透明の粒	
288	弥生	壺	B区 009	- -	ナデ 桶内目突唇	ナデ	にぶい黄褐色 灰黄褐色	にぶい黄褐色 灰黄褐色	茶色の粒 茶・灰・黑色の粒	
289	弥生	壺	B区 009	- -	ヨコナデ	ナデ 灰化物付有	浅黄褐色 にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	赤褐色・灰色、乳白色の粒 微細な砂粒	
290	弥生	壺	B区 009	- -	口縁部上部 ヨコナデ ハケ口	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	乳白色・茶・半透明の粒 黒い光沢粒	
291	弥生	壺	B区	- - -	口縁部上部 ヨコナデ ハケ口	ナデ 指振	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	灰・茶・半透明の粒、黒い光沢粒	
292	弥生	壺	B区	- - -	口縁部上部 ヨコナデ ハケ口	ヨコナデ 黒変	褐 暗褐色	褐 暗褐色	茶色・半透明、乳白色の粒	
293	弥生	壺	B区	- - -	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	ナデ	にぶい褐 にぶい褐 黄褐色	黄褐色	茶・灰・黒の粒	
294	弥生	壺	B区	- - -	ヨコナデ	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	赤褐色・茶・灰・乳白色の粒	
295	弥生	壺	B区	- - -	ヨコナデ	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	灰・茶色・半透明の粒	
296	弥生	壺	B区	- - -	ヨコナデ	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	微細な灰、乳白色の粒	
297	弥生	壺	B区	- - -	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	茶・灰色の粒	
298	弥生	壺	B区	- - -	ヨコナデ	口縁部上部 ヨコナデ ヨコナデ	橙	橙	黑・灰色・赤褐色の粒 黒・半透明の光沢粒	
299	弥生	壺	B区	- - -	ナデ 斜ナデ	斜ナデ ナデ	浅黄褐色	にぶい黄褐色	灰白の粒	
300	弥生	壺	B区 009	- - -	タテナデ 黒変	ナデ 灰化物付有	にぶい褐 灰黄褐色	黑褐色	赤褐色・灰・半透明の粒	
301	弥生	壺	B区 009	- - -	タテナデ ヨコナデ	ナデ	にぶい黄褐色 灰黄褐色	にぶい黄褐色	灰・茶・半透明の粒 透明の光沢粒	
302	弥生	壺	B区 009	- - -	ヨコナデ、巴縫 4条の筋付突唇 ス付有	口縫部内面 ヨコナデ ヨコナデ	明赤褐色 黑褐色	明赤褐色 黑褐色	黑色の光沢粒、半透明、灰、茶色 の粒	
303	弥生	壺	B区	- - -	ナデ ヨコナデ、スリ縫 6条の筋付突唇	ナデ	褐 暗褐色	褐 明褐色	半透明の粒 黑色の光沢粒	
304	弥生	壺	B区	- - -	工具ナデ 内面 6条の筋付突唇	工具ナデ 内面 指振	灰褐色 にぶい褐	にぶい褐	半透明、茶・灰色の粒 黒色の光沢粒	
305	弥生	壺	B区	- - -	貼付突唇 ナデ	ナデ	黑褐色	にぶい褐	半透明、茶・灰色の粒 黑色の光沢粒	
306	弥生	壺	B区	- - -	4条の筋付突唇 ナデ	ナデ	黑褐色	明赤褐色	茶・半透明、灰、乳白色の粒 黑色の光沢粒	
307	弥生	壺	B区	- - -	貼付突唇 ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	半透明、茶・灰色の粒 黑色の光沢粒	

第14卷 本池遺跡出土土器觀察表(12)

第15表 本池遺跡出土石器觀察表

番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
256	A区	砾石	8.1	9.6	4.7	479.5	砂岩	
257	A区	砾石	(5.6)	(4.3)	(1.6)	(57.4)	砂岩	
258	A区	砾石	14.7	5.4	4.8	596.8	砂岩	
259	A区		7.6	4.4	3.6	43.1	燧岩	
260	A区		9.2	4.1	3.4	46.1	燧岩	
319	A区	磨製石鏟	2.1	1.4	0.3	0.8	チャート	
320	B区	磨製石鏟	2.9	(2.3)	0.3	(1.9)	頁岩	
321	B区	◆	2.9	(1.8)	0.3	(1.3)	◆	
322	B区	◆	(2.6)	1.8	0.2	(1.2)	◆	
323	B区	◆	3.8	2.7	0.5	6.0	◆	未成品
324	B区	磨製石斧	5.9	3.5	1.5	(43.7)	◆	
325	B区	打製石斧	4.8	3.1	1.0	13.6	◆	
326	B区	石皿	(14.3)	(12.1)	(6.2)	(1170)	砂岩	

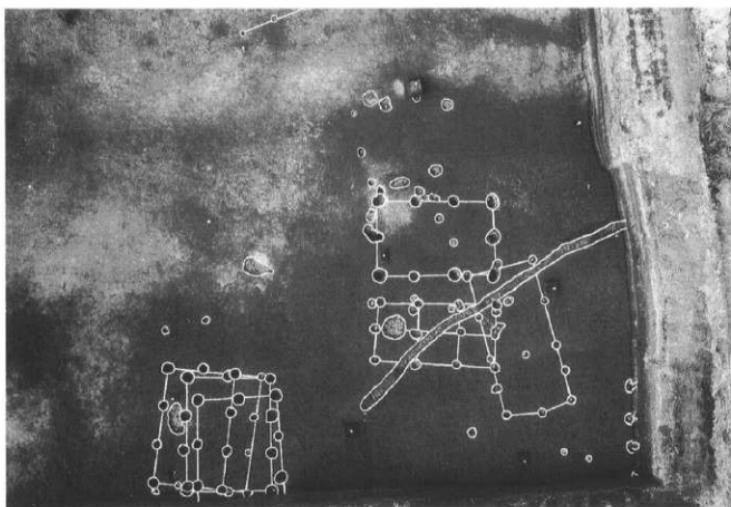
第16表 本池遺跡出土土錘觀察表

番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
231	A区	土錘	5.6	2.3		21.9
232	A区	◆	(5.3)	2.5		(25.4)
233	A区	◆	5.0	2.6		23.0
234	A区	◆	5.6	2.3		21.5
235	A区	◆	5.0	2.5		(19.2)
336	A区	◆	5.2	2.1		18.1
337	A区	◆	5.2	2.0		16.0
338	A区	◆	5.5	2.4		(22.1)
339	A区	◆	(5.5)	2.1		(18.8)
340	A区	◆	5.7	2.4		(23.6)
341	A区	◆	5.4	2.4		(26.4)
342	A区	◆	6.0	2.2		19.1
343	A区	◆	5.6	2.3		21.5
344	A区	◆	(5.3)	2.2		(16.0)
345	A区	◆	(5.2)	2.1		(17.2)
346	A区	◆	(5.3)	2.3		(23.8)
347	A区	◆	(4.8)	2.4		(21.7)
348	A区	◆	(4.7)	2.1		(15.9)
349	A区	◆	5.4	2.4		(20.3)
350	A区	◆	5.6	2.4		(22.7)
351	A区	◆	(5.0)	2.4		(17.0)
352	A区	◆	4.3	2.3		16.8
353	A区	◆	(3.9)	2.4		(16.0)
354	A区	◆	(2.7)	(2.0)		(7.7)
355	A区	◆	(2.7)	(2.4)		(10.5)

# 図 版



本池遺跡A区全景

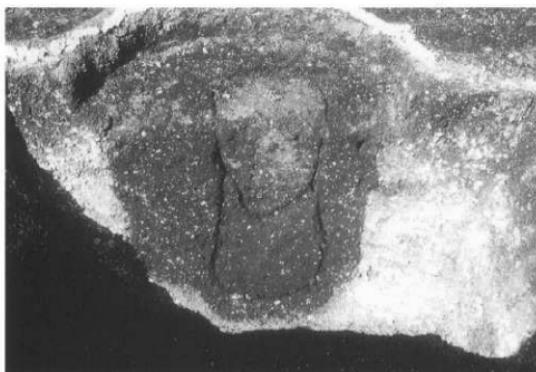


A区平安時代遺構群

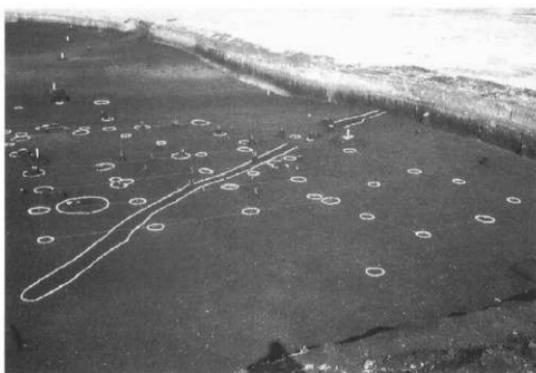
図版2



A区 SB1

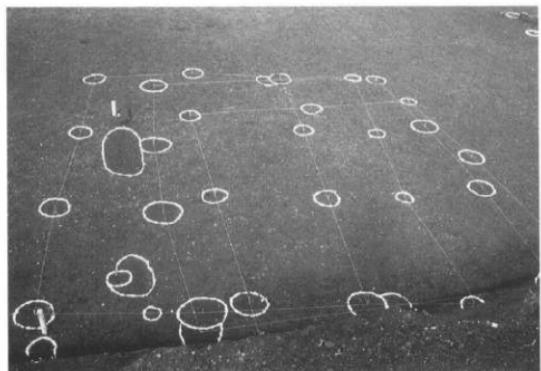


A区 SB1  
柱穴断面

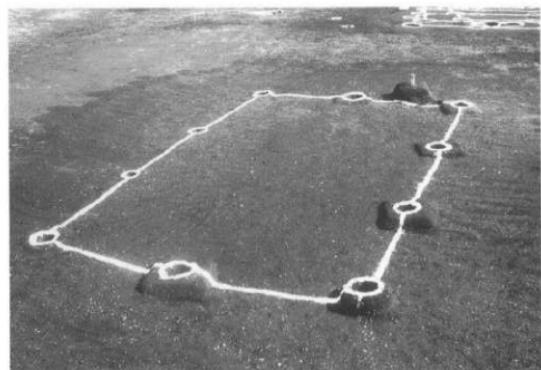


A区 SB2・3・4

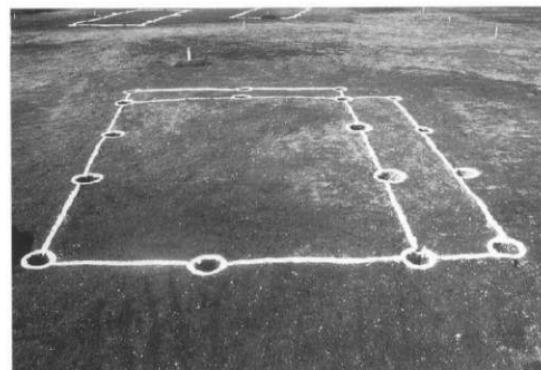
A区 SB 5・6・7



A区 SB 8



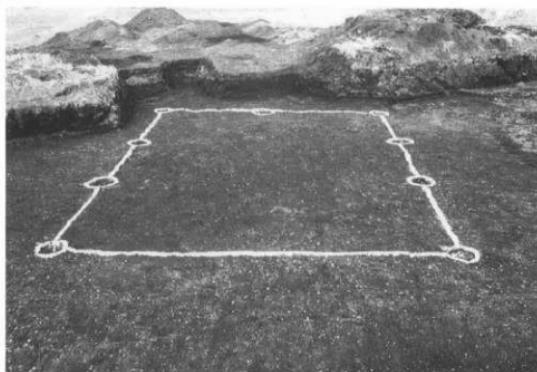
A区 SB 9



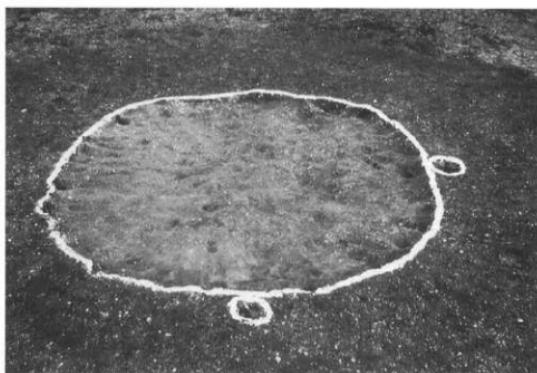
図版4



A区 SB10・11・12



A区 SB14



A区 SA1

A区 S C 1



A区 S Z 1



A区 平安時代  
遺物出土状況



図版 6



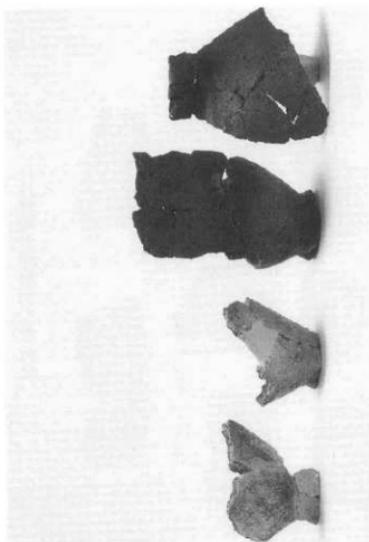
白磁出土状況



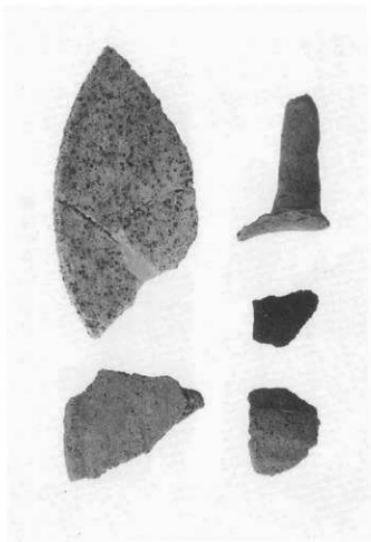
鉄製釣針  
出土状況



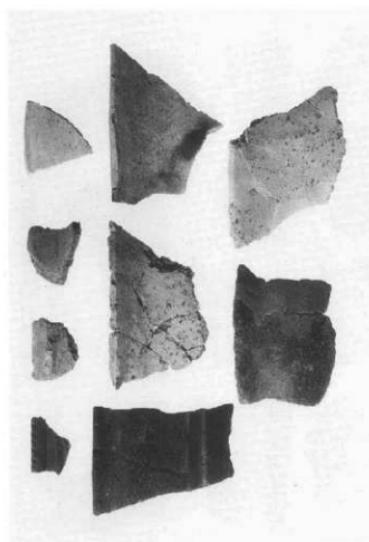
土錘出土状況



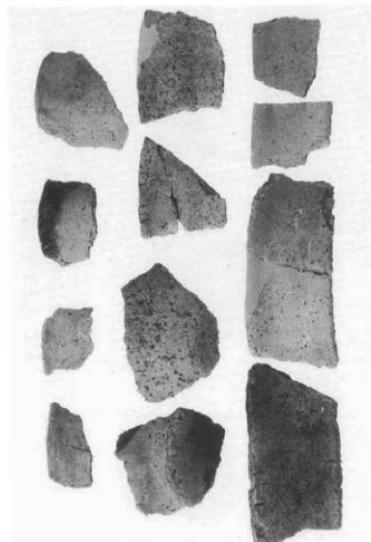
A区 出土弥生土器(2)



A区 出土弥生土器(4)



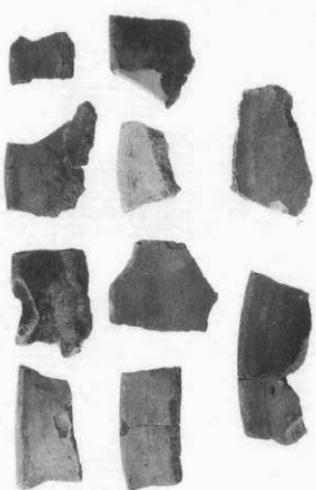
A区 出土弥生土器(1)



A区 出土弥生土器(3)



A区 出土土師質土器塊(1)



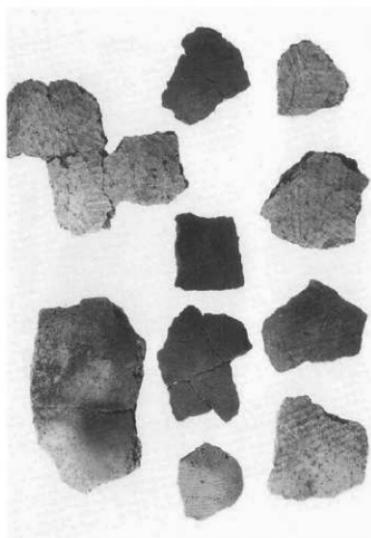
A区 出土土師質土器塊(3)

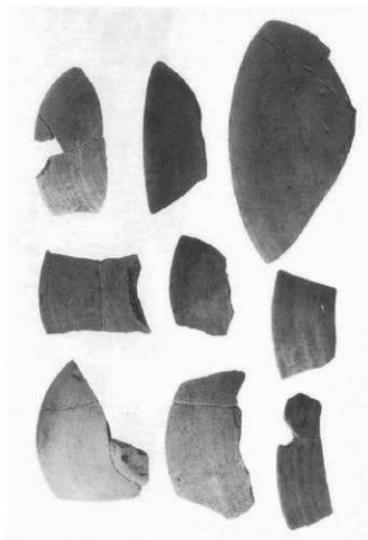
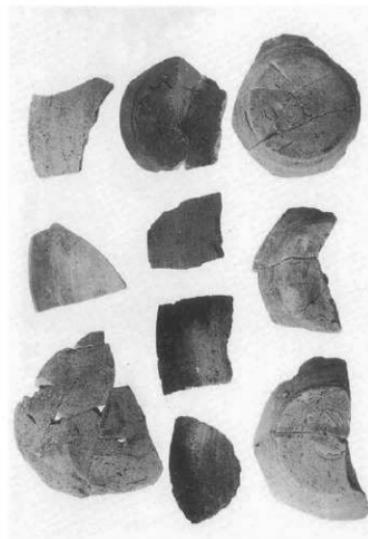


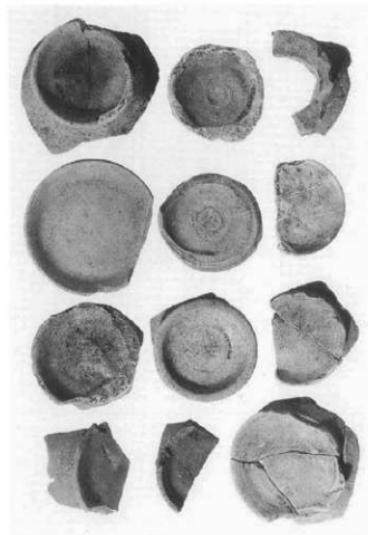
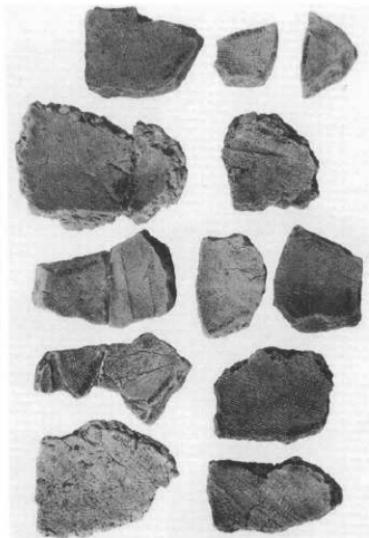
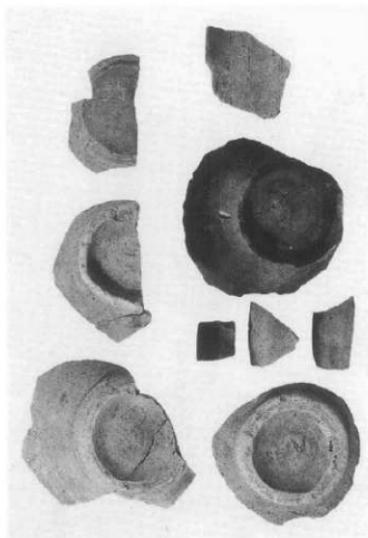
A区 出土陶生土器(5)

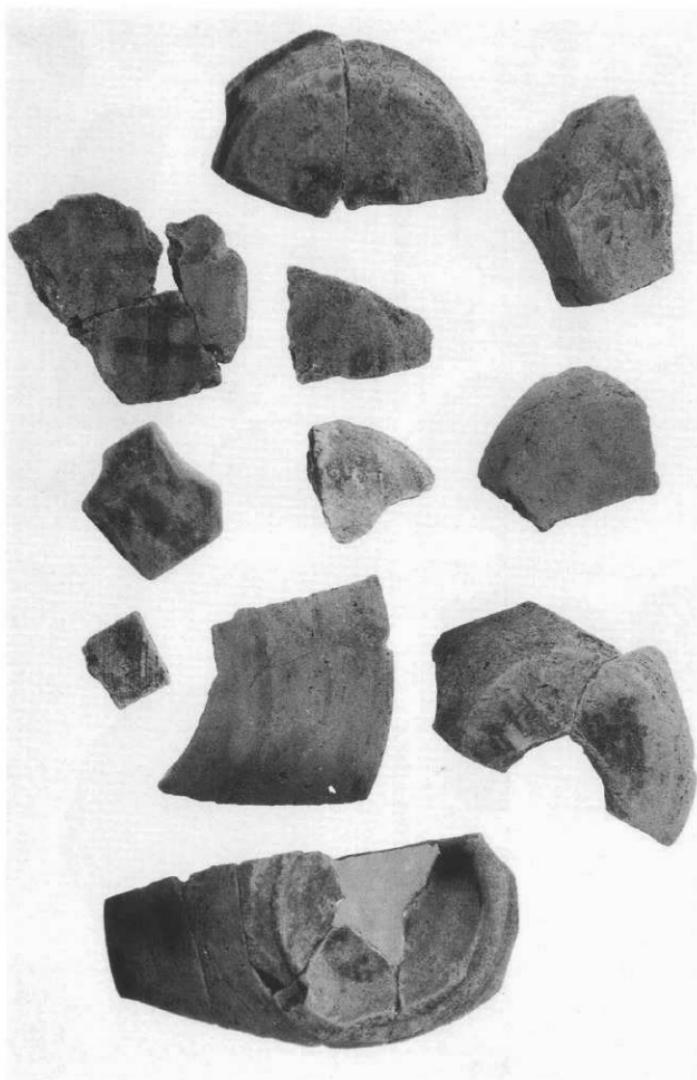


A区 出土土師質土器塊(2)







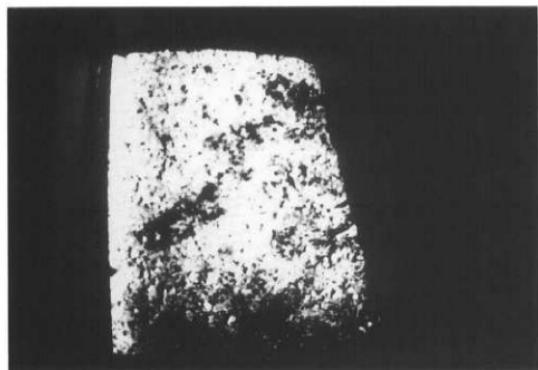


A区 出土墨青土器

墨書土器  
赤外線写真(1)  
「奈」

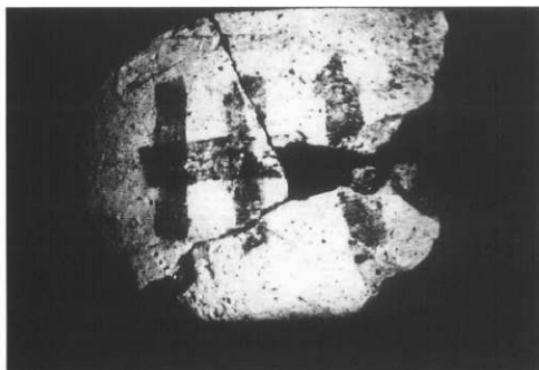


墨書土器  
赤外線写真(2)  
「廣」

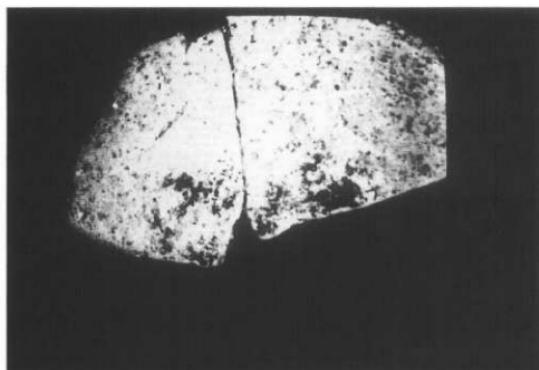


墨書土器  
赤外線写真(3)  
「叢」

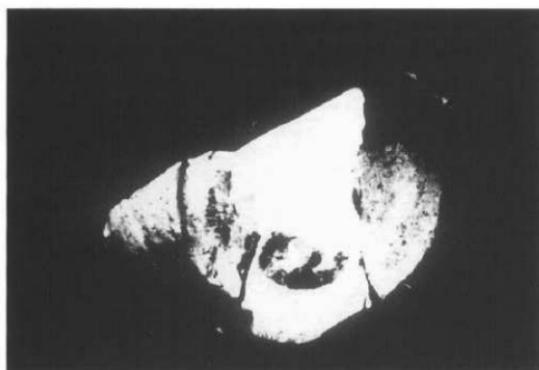




墨書土器  
赤外線写真(4)  
「卅」

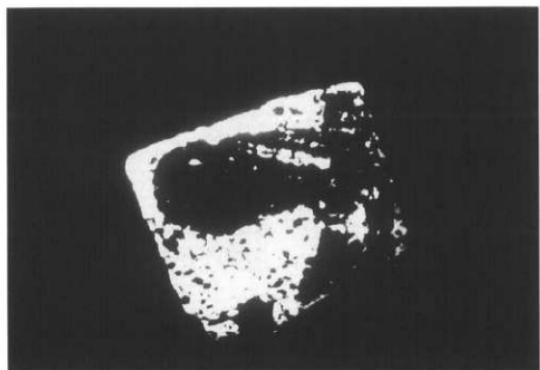


墨書土器  
赤外線写真(5)

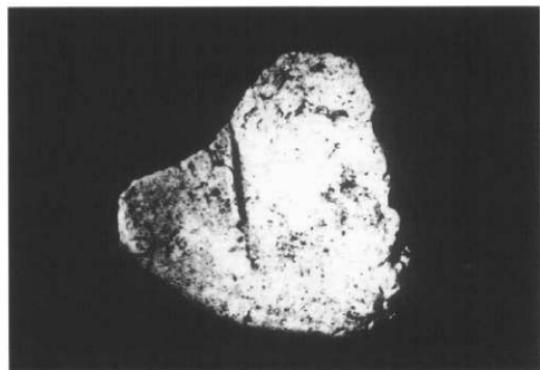


墨書土器  
赤外線写真(6)

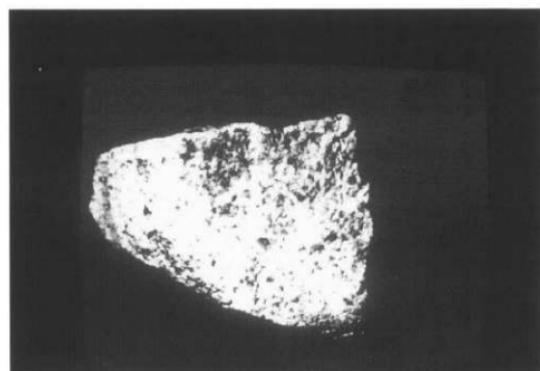
墨書土器  
赤外線写真(7)

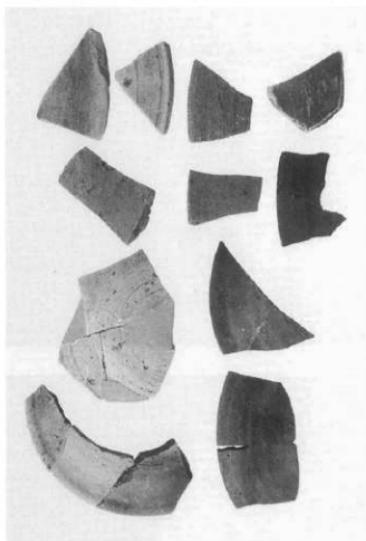


墨書土器  
赤外線写真(8)  
「了」



墨書土器  
赤外線写真(9)

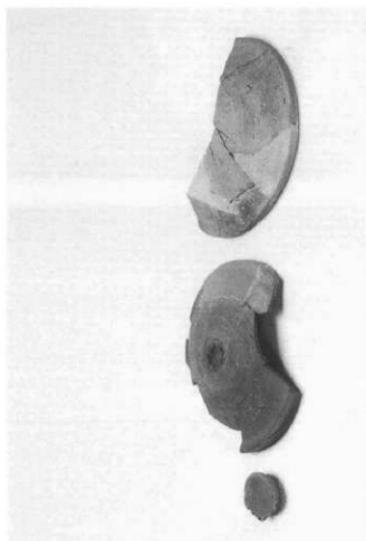




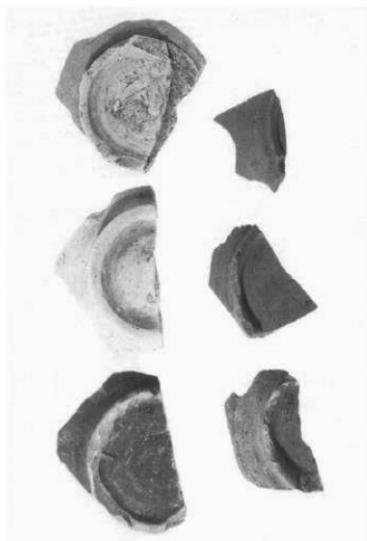
A区 出土须惠器(2)



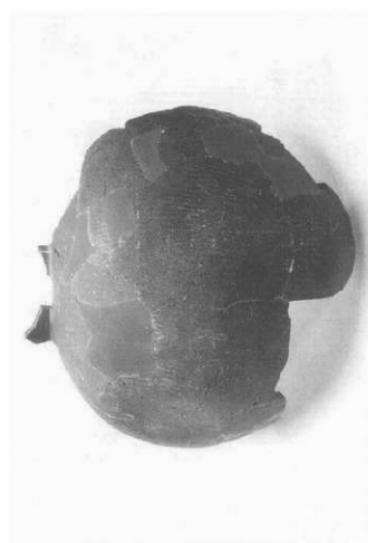
A区 出土须惠器(4)



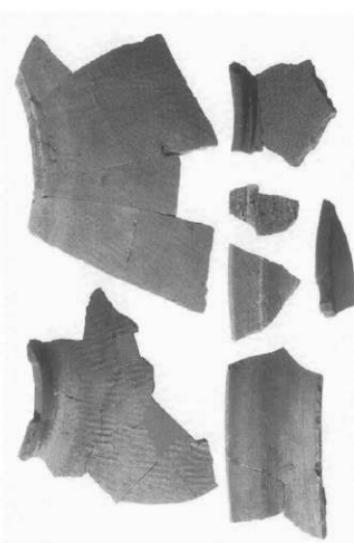
A区 出土须惠器(1)



A区 出土须惠器(3)



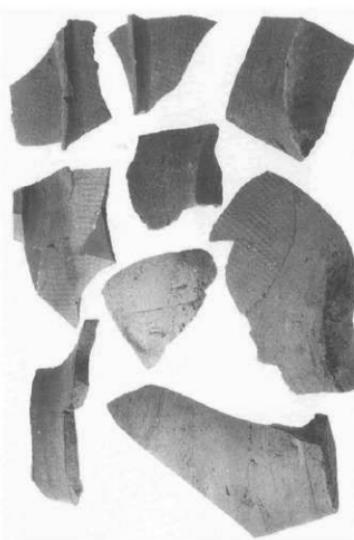
A区 出土須恵器(6)



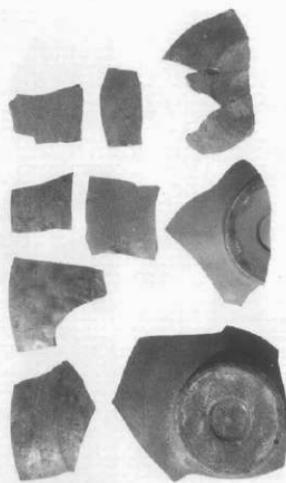
A区 出土須恵器(8)



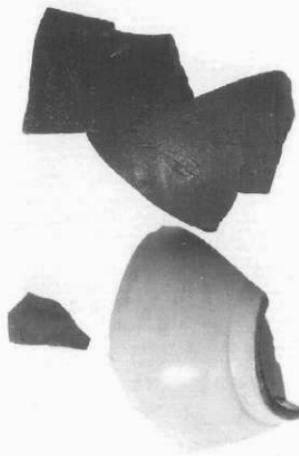
A区 出土須恵器(5)



A区 出土須恵器(7)



A区 出土越州窑青瓷



A区 出土越州窑青瓷



A区 出土须惠器(9)



A区 出土中国产白磁

A区 出土鐵鑿釣針



同 左 (裏)

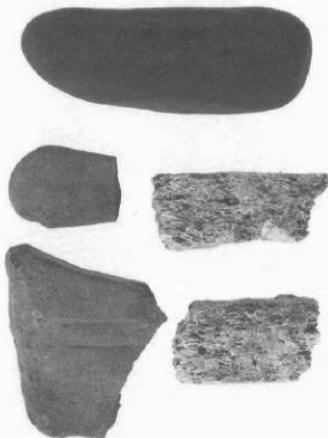


A区 SB2出土鐵鑿(表)



— 231 —

A区 出土石器



A区 出土土錐

